

令和 7 年度
安曇野市 農業・農村振興に関するアンケート調査
集計結果

令和8年3月
安曇野市

目次

第1章 アンケートの調査設計	5
1. アンケート調査の目的.....	5
2. アンケート調査概要.....	5
3. 注意事項	5
4. 前回調査結果.....	5
5. 回答者属性.....	7
第2章 調査結果のポイント	10
第3章 アンケート結果	13
1. 10年前から現在の農業経営の変化.....	13
2. 現在の農業経営について.....	38
3. 今後の農業経営について.....	61
4. 今後の農業振興について.....	81
参考資料	112

第1章 アンケートの調査設計

1. アンケート調査の目的

「第3次安曇野市農業・農村振興基本計画」が令和8年度末に終了することから、引き続き多様化する農業課題に対応し、「農」のある魅力的な地域を創っていくために、「第4次安曇野市農業・農村振興基本計画」を策定予定。

策定に当たり、農業従事者の意見・意向を反映するため、アンケート調査を実施。

2. アンケート調査概要

調査対象	<ul style="list-style-type: none">● 安曇野市で農業を営む個人農家 1,000 人（10a 以上の農地を耕作する者を農地基本台帳から無作為抽出）● 安曇野市で農業を営む認定農業者 175 人● 安曇野市で農業を営む法人 69 社（回答は法人代表者を指定）
調査方法	郵送によりアンケート調査票を発送（回答は郵送またはインターネット）
調査期間	令和7年11月26日～12月31日
回収結果	有効回答者数 <ul style="list-style-type: none">● 個人農家 522 人（回収率：52.2%）● 認定農業者 107 人（回収率：61.1%）● 法人 34 社（回収率：49.2%）
設問内容	回答者属性、10年前から現在の農業経営の変化、現在の農業経営、今後の農業経営、今後の農業振興など

3. 注意事項

- 回答率は回答者数より算出した。
- 四捨五入の関係で回答率の合計が100%にならない場合がある。
- 回答者の分母が少ない対象（認定農業者はn=107、法人はn=34）については、回答割合に偏りが生じる可能性があるため、注意する必要がある。

4. 前回調査結果

- 本報告書では、2020年に実施した「安曇野市 農業・農村振興に関するアンケート調査」（以下、「前回調査」という。）の調査結果と比較している箇所がある。

- 前回調査の概要は以下の通り。

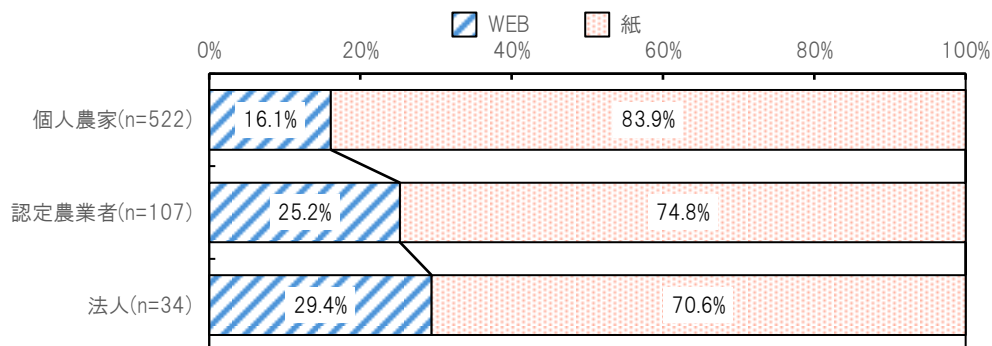
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ● 安曇野市で農業を営む個人農家 1,000 人（10a 以上の農地を耕作する者を農地基本台帳から無作為抽出） ● 安曇野市で農業を営む認定農業者 221 人 ● 安曇野市で農業を営む法人 62 社（回答は法人代表者を指定）
調査方法	郵送によりアンケート調査票を発送（回答は郵送）
調査期間	令和 2 年 12 月 4 日～令和 3 年 1 月 15 日
回収結果	有効回答者数 <ul style="list-style-type: none"> ● 個人農家 457 人（回収率：45.7%） ● 認定農業者 139 人（回収率：62.9%） ● 法人 33 社（回収率：53.2%）

- 前回調査との比較を行うにあたり、同旨の設問について、選択肢が異なる場合は、今回調査の選択肢に合わせて集計を行っている。
- 複数回答設問の割合は、前回報告書では無回答を除いて算出していたが、今回報告書では無回答も含めて算出しているため、注意する必要がある。

5. 回答者属性

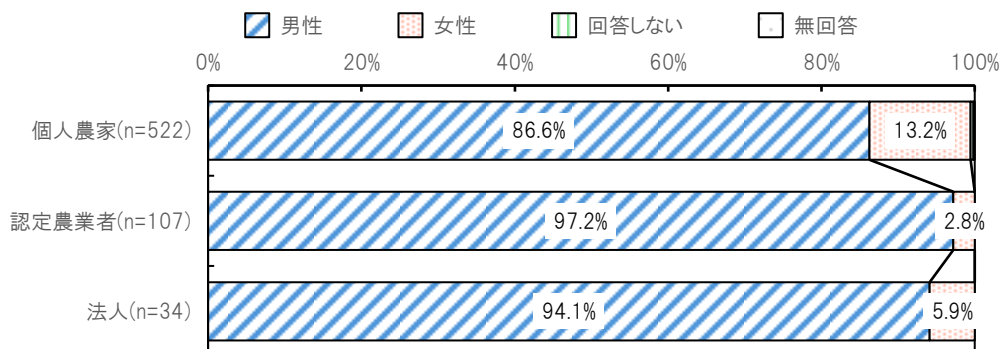
(1)回答方式

図表 1 回答方法



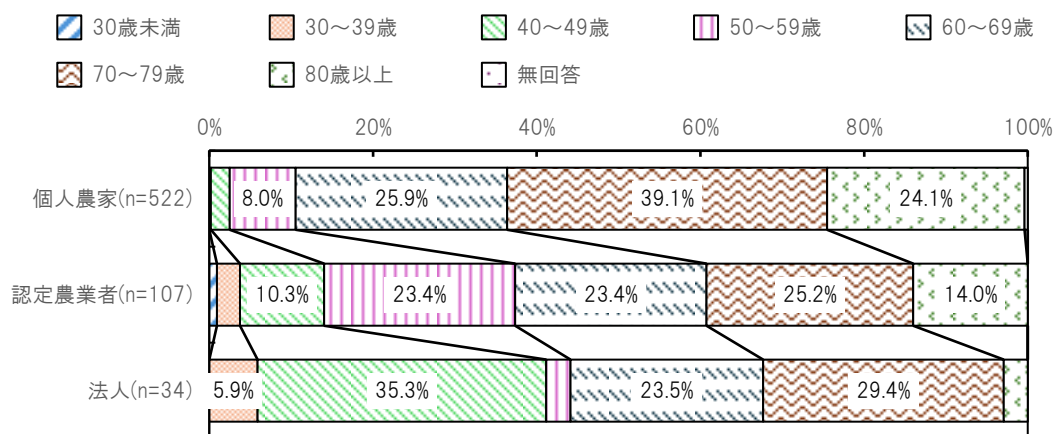
(2)回答者性別

図表 2 性別



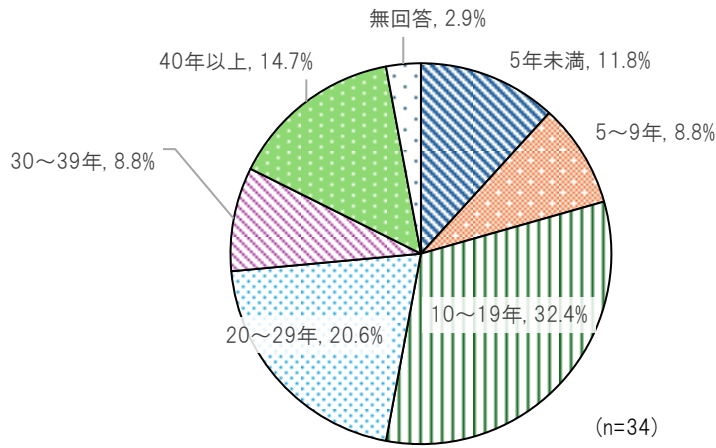
(3)回答者年齢

図表 3 年齢



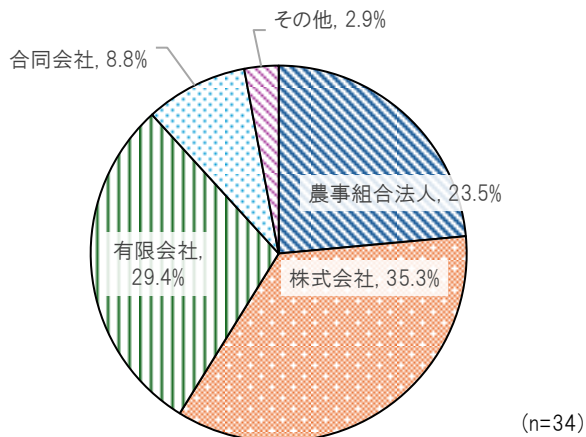
(4) 設立年数

図表 4 設立年数（法人のみ）



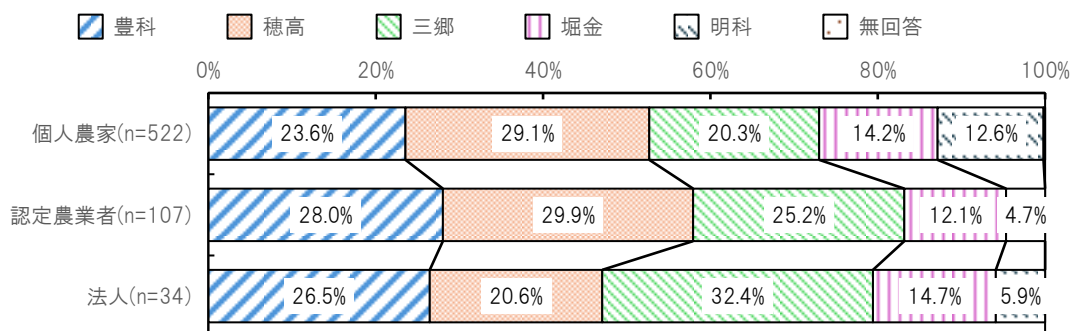
(5) 法人形態

図表 5 法人形態（法人のみ）



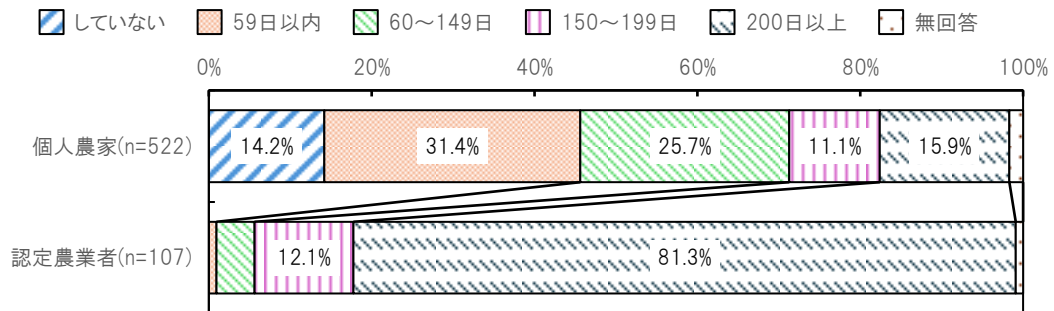
(6) 居住地・所在地

図表 6 居住地・所在地



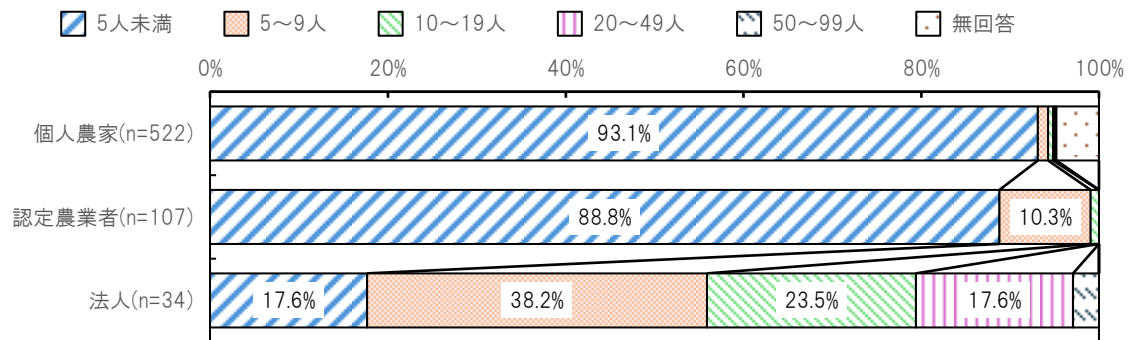
(7) 農業従事日数

図表 7 農業従事日数（個人・認定農業者）



(8) 農業経営に関わっている人数・従業員数

図表 8 従業員数等



第2章 調査結果のポイント

主な生産作物は米が首位、法人は野菜が増加傾向

- ・中心的な作物をみると、個人農家、認定農業者、法人のいずれにおいても、「米・穀物」(個人農家 54.6%、認定農業者 57.9%、法人 35.3%)が最も高い割合を占めている。[図表 16]
- ・10 年前と比較すると、法人では「野菜」と回答している割合が約 15 ポイント増加している。[図表 17]

出荷先の 1 位は農協、2 位と 3 位は消費者への直接販売が多い

- ・現在の出荷先をみると、1 位の割合が高かったのは個人農家、認定農業者、法人いずれにおいても「農協」となっている(個人農家 45.2%、認定農業者 71.0%、法人 50.0%)。[図表 19]
- ・現在の出荷先 2 位、3 位では、「消費者への直接販売」の占める割合が高い傾向にある。[図表 24、図表 25、図表 26]

販売額で個人農家は販売していないが増えた一方で、認定農家は 1,000 万以上が増加

- ・販売金額を 10 年前と比較すると、個人農家では「販売していない」と回答した割合が約 10 ポイント増加している一方で、認定農業者では「1 千万円～2 千万円未満」または「2 千万円～5 千万円未満」と回答した割合が約 20 ポイント増加している。[図表 29]

作付けしていない農地について個人農家の半分以上が作付けしない意向

- ・作付けをしていない農地が「ある」と回答した方の今後の利用意向をみると、個人農家では 5 割以上が「このまま作付けをしない」と回答している。[図表 43]

農作業でサポートが必要と感じるのは前回調査含めて畦畔管理

- ・農作業の中でサポートが必要だと感じる作業(農作業について)では、個人農家、認定農業者、法人のいずれにおいても「畦畔管理」が最も高い割合となっている(個人農家 39.3%、認定農業者 51.4%、法人 47.1%)。[図表 44]
- ・「畦畔管理」は前回調査でも最も割合が高く、サポートの必要性の高さが伺える。[図表 45、図表 46、図表 47]

経営に関する課題は労働力確保が大きな割合を占める

- ・農業経営を続けていく上での課題(経営に関すること)では、認定農業者と法人は「労働力の確保」と回答した割合が最も高くなっている(認定農業者 55.1%、法人 73.5%)。[図表 52]
- ・前回調査と比較すると、法人では「資金調達」の回答割合が約 20 ポイント増加している。[図表 55]

社会情勢への課題として最も意識されているのは物価高騰

- ・農業経営を続けていく上での課題(社会情勢に関すること)では、個人農家、認定農業者、法人のいずれにおいても「資材や燃料の高騰」(個人農家64.9%、認定農業者90.7%、法人97.1%)が最も高くなっている。[図表 63]
- ・「資材や燃料の高騰」の回答割合は前回調査より個人農家・認定農業者は約 20 ポイント、法人では約 45 ポイント増加しており、関心の高まり具合が伺える。[図表 64、図表 65、図表 66]

農業に携わっている満足度は全体的に前向きな回答

- ・農業に携わっていることへの満足度について、「よかったと感じている」または「どちらかといえばよかったと感じている」という前向きな回答が個人農家は 7 割弱、認定農業者と法人では 9 割弱になっており、全体的に前向きな傾向となっている。[図表 67]
- ・前回調査と比較すると、個人農家、認定農業者のどちらでも「よかったと感じている」と回答した割合は増加している(個人農家前回比+約 10 ポイント、認定農業者同+約 20 ポイント)。[図表 68]

個人農家の 3 割が 10 年後に離農を考えている一方で、法人は半分近くが拡大希望

- ・10 年後の農業経営(経営規模)についての回答をみると、個人農家の約 3 割が「農業をやめたい」と回答している。一方で法人では「拡大したい」が 5 割弱になっており、経営規模への考え方は大きく異なっている。[図表 73]

スマート農業は認定農業者と法人が関心高い一方で、導入コストが大きな課題

- ・スマート農業の導入状況について、認定農業者と法人では「導入している」が約 2 割となっている。また、認定農業者と法人では「導入予定がある・導入を検討している」または「興味はあるが未導入」というスマート農業に関心を寄せる回答が 4 割前後となっている。[図表 77]
- ・スマート農業導入への課題については、「導入コストが高価」(個人農家 72.7%、認定農業者 85.0%、法人 81.3%)が最も高い割合となっている。[図表 79]

環境にやさしい農業に取り組む中での大きな課題は収量・品質と労務負担

- ・環境にやさしい農業に取り組む中での課題では、「収量や品質が安定しない」(個人農家 57.5%、認定農業者 48.6%)や「労力が増える」(個人農家 65.0%、認定農業者 60.0%、法人 55.6%)といった項目の回答割合が高くなっている。[図表 82]
- ・環境にやさしい農業に取り組むために必要なものについては、個人農家、認定農業者、法人のいずれにおいても「国等からの補助」(個人農家 44.4%、認定農業者 62.6%、法人 52.9%)が最も高い割合となっている。[図表 83]

地産地消への取り組みは法人が 8 割超、課題は収益性と販売ルート

- ・地産地消への取り組みについては、法人では 8 割超が「ある」と回答している。[図表 84]

・地産地消への取り組みで最も大きな課題については、個人農家では「単価が安く、収益性が低い」(個人農家 26.6%)、認定農業者と法人では「地元での販売ルートが限られている」(認定農業者 35.5%、法人 41.2%)が最も高い割合となっている。[図表 86]

安曇野市の農業の強みは品質の高さと地域ブランド

・安曇野市の農業の最も大きな強みについては、個人農家と認定農業者では「品質の高い農産物が生産できる」(個人農家 32.4%、認定農業者 41.1%)、法人では「地域ブランドや認知度がある」(法人 61.8%)が最も高い割合となっている。[図表 88]

「生産力・品質・販売力の向上」への意欲は認定農業者と法人が高い傾向

・農業経営において「生産力・品質・販売力の向上」に取り組む意欲を問う設問では、「積極的に取り組みたい」や「条件が整えば取り組みたい」といった前向きな回答は、個人農家では約 25%に留まった一方で、認定農業者では約 80%、法人では約 90%となっており、「生産力・品質・販売力の向上」への意欲の高さが伺える。[図表 91]

農業振興に重要なことは安曇野ブランドの強化・統一と新規就農者育成

・安曇野市の農業振興のために重要だと感じることで、個人農家、認定農業者、法人のいずれにおいても「安曇野ブランドの強化・統一」が最も高い割合となっている(個人農家 29.9%、認定農業者 41.1%、法人 50.0%)。認定農業者と法人では「新規就農者の育成」も高い割合を占めている(認定農業者 36.4%、法人 29.4%)。[図表 92]

・前回調査と比較すると、個人農家、認定農業者、法人のいずれにおいても「安曇野ブランドの強化・統一」と「新規就農者の育成」の回答割合は増加しており、関心の高まりが伺える。[図表 93、図表 94、図表 95]

新たな担い手確保・育成に必要なことは融資制度の充実と後継者やUターン者への支援

・新たな農業者の担い手確保や育成を図るために必要だと感じることで、個人農家、認定農業者、法人のいずれかにおいて回答割合が5割を超えた項目は「融資制度の充実」(認定農業者 61.7%)と「後継者やUターン者への支援」(認定農業者 50.5%、法人 58.8%)となっている。[図表 96]

・前回調査と比較すると、「新規就農者の積極的な募集」(認定農業者前回比+約 18 ポイント)や「経営手法の指導や法人化の推進」(法人同+約 15 ポイント)の回答割合が増加傾向にある。[図表 98、図表 99]

農村らしさを生かしたまちづくりに必要なのは農村風景や景観の維持

・農村らしさを生かしたまちづくりに必要なことでは、個人農家、認定農業者、法人のいずれにおいても「農村風景や景観の維持」が最も高い割合を占めている(個人農家 58.0%、認定農業者 69.2%、法人 73.5%)。[図表 104]

・前回調査と比較すると、「農地や道路の整備」(個人農家前回比+約8ポイント、認定農業者同+約9ポイント、法人同+約14ポイント)の回答割合が増加傾向にある。[図表 105、図表 106、図表 107]

第3章 アンケート結果

1. 10年前から現在の農業経営の変化

問1. ご回答者はどれに該当しますか。※個人農家、認定農業者のみ

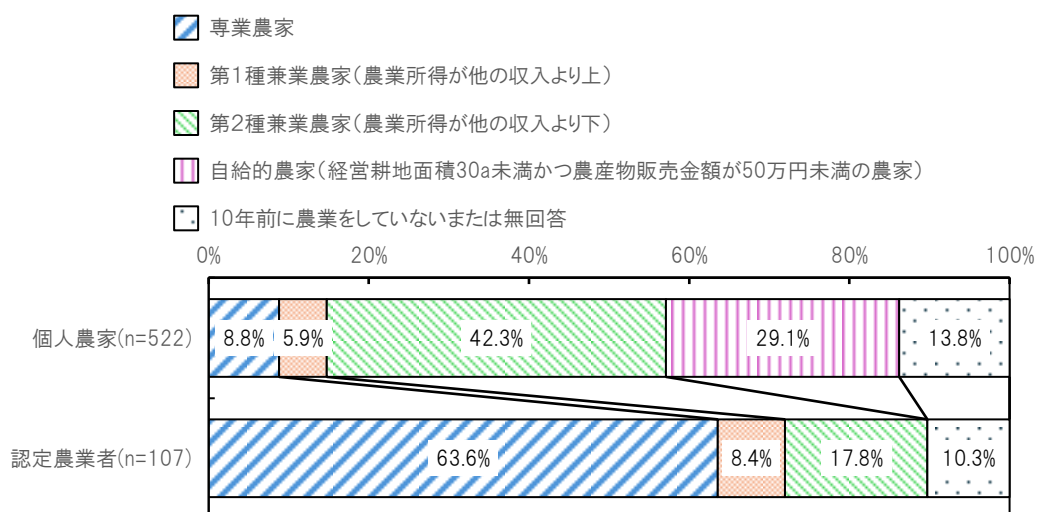
■ 10年前

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)
専業農家	8.8%	63.6%
第1種兼業農家（農業所得が他の収入より上）	5.9%	8.4%
第2種兼業農家（農業所得が他の収入より下）	42.3%	17.8%
自給的農家（経営耕地面積30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家）	29.1%	0.0%
10年前に農業をしていないまたは無回答	13.8%	10.3%

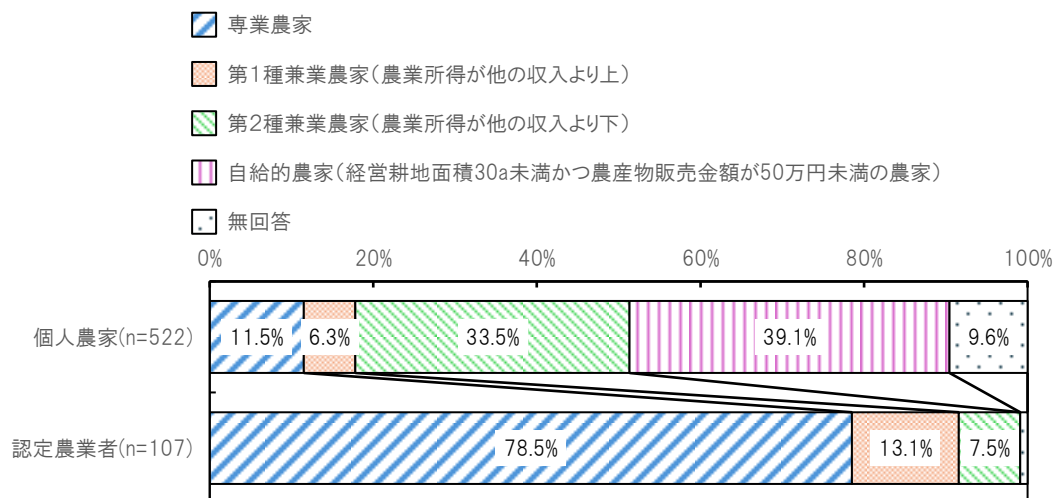
■ 現在

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)
専業農家	11.5%	78.5%
第1種兼業農家（農業所得が他の収入より上）	6.3%	13.1%
第2種兼業農家（農業所得が他の収入より下）	33.5%	7.5%
自給的農家（経営耕地面積30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家）	39.1%	0.0%
無回答	9.6%	0.9%

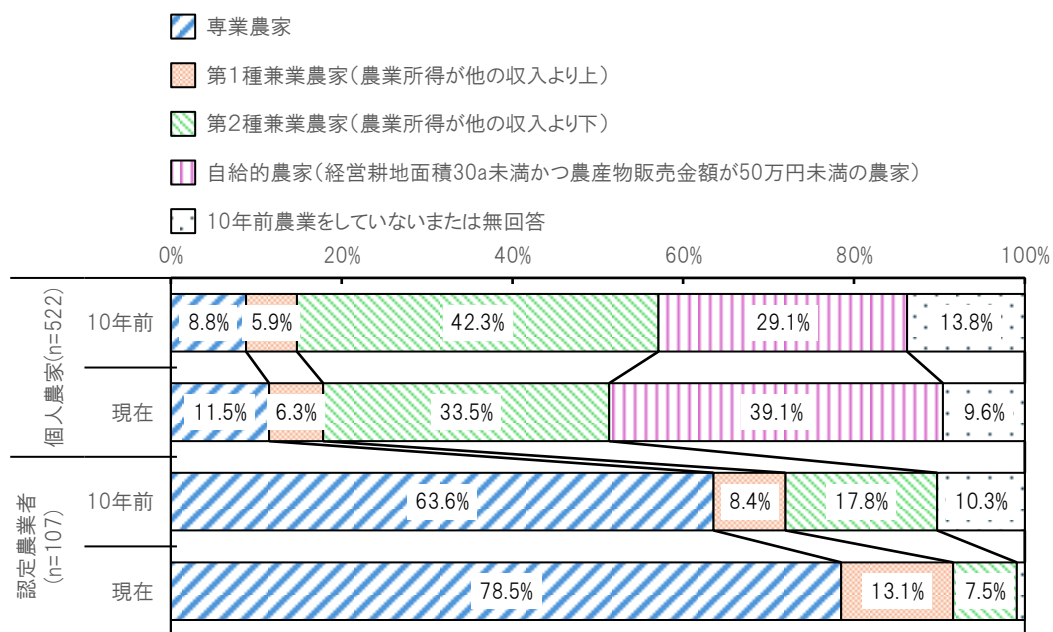
図表 9 農家の形態（10年前）



図表 10 農家の形態（現在）



図表 11 農家の形態（10年前と現在の比較）



問2. 農業経営面積を教えてください。

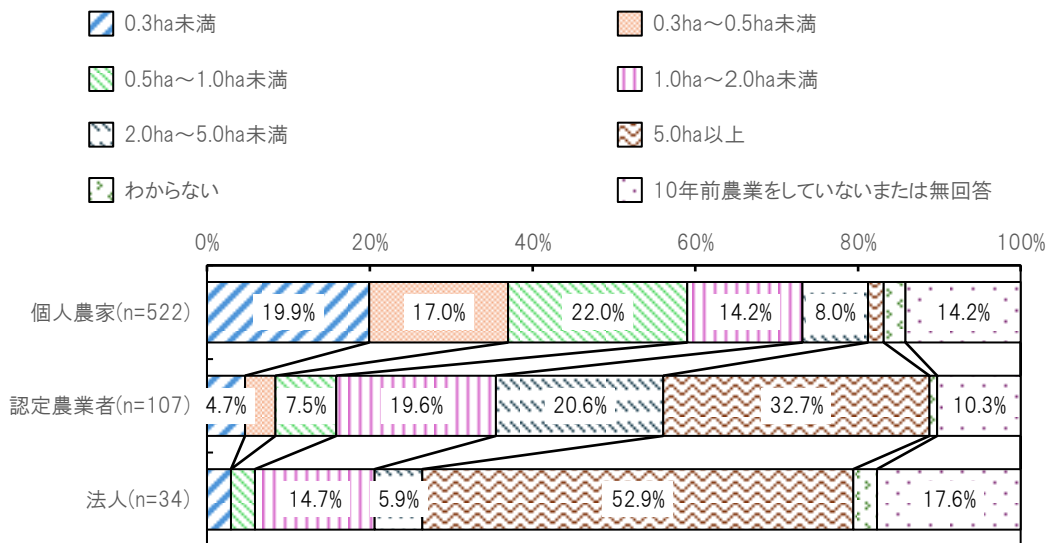
■ 10年前

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
0.3ha未満	19.9%	4.7%	2.9%
0.3ha～0.5ha未満	17.0%	3.7%	0.0%
0.5ha～1.0ha未満	22.0%	7.5%	2.9%
1.0ha～2.0ha未満	14.2%	19.6%	14.7%
2.0ha～5.0ha未満	8.0%	20.6%	5.9%
5.0ha以上	1.9%	32.7%	52.9%
わからない	2.7%	0.9%	2.9%
10年前農業をしていないまたは無回答	14.2%	10.3%	17.6%

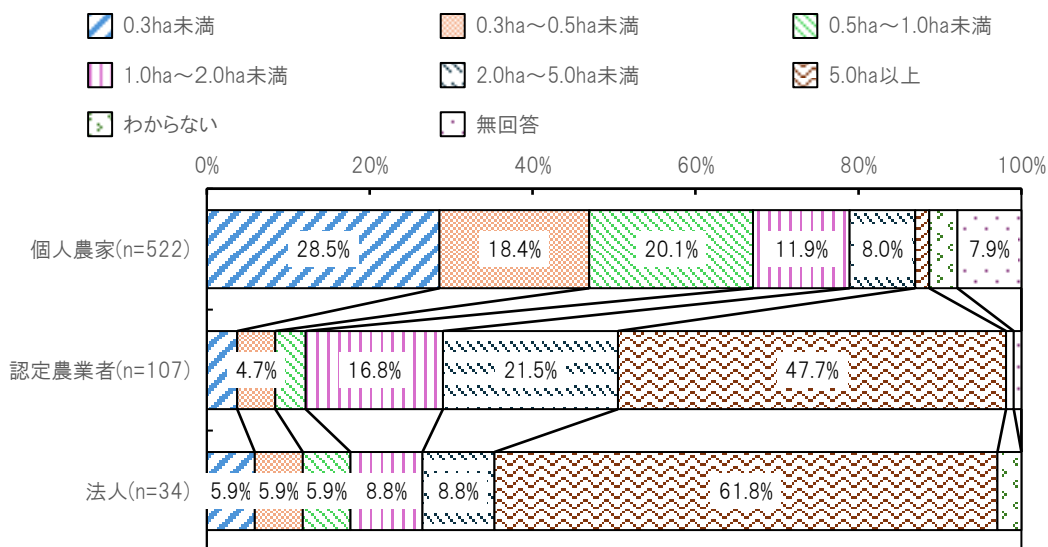
■ 現在

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
0.3ha未満	28.5%	3.7%	5.9%
0.3ha～0.5ha未満	18.4%	4.7%	5.9%
0.5ha～1.0ha未満	20.1%	3.7%	5.9%
1.0ha～2.0ha未満	11.9%	16.8%	8.8%
2.0ha～5.0ha未満	8.0%	21.5%	8.8%
5.0ha以上	1.7%	47.7%	61.8%
わからない	3.4%	0.9%	2.9%
無回答	7.9%	0.9%	0.0%

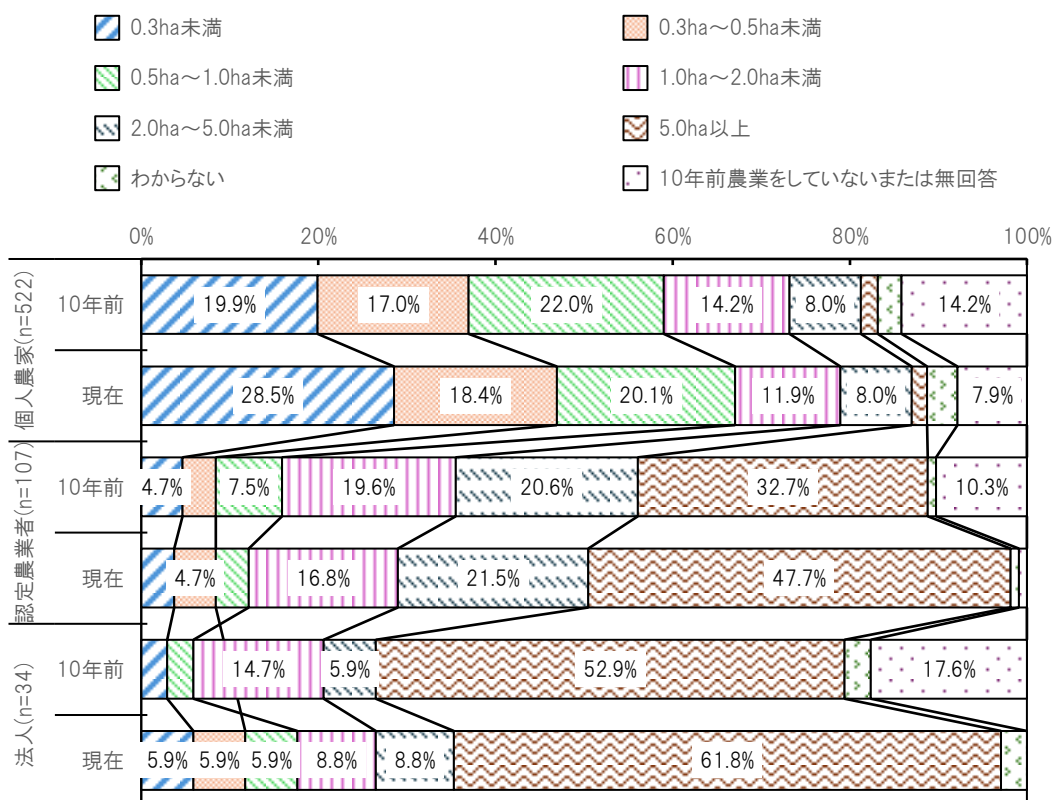
図表 12 農業経営面積 (10年前)



図表 13 農業経営面積（現在）



図表 14 農業経営面積（10年前と現在の比較）



問3. 中心的な生産作物を教えてください。

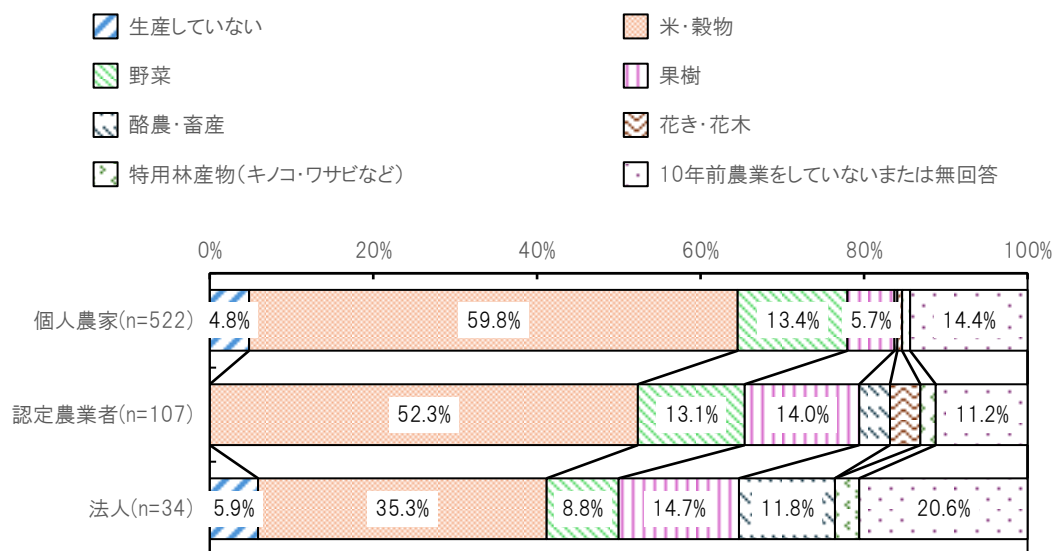
■ 10年前

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
生産していない	4.8%	0.0%	5.9%
米・穀物	59.8%	52.3%	35.3%
野菜	13.4%	13.1%	8.8%
果樹	5.7%	14.0%	14.7%
酪農・畜産	0.4%	3.7%	11.8%
花き・花木	0.6%	3.7%	0.0%
特用林産物(キノコ・ワサビなど)	1.0%	1.9%	2.9%
10年前農業をしていないまたは無回答	14.4%	11.2%	20.6%

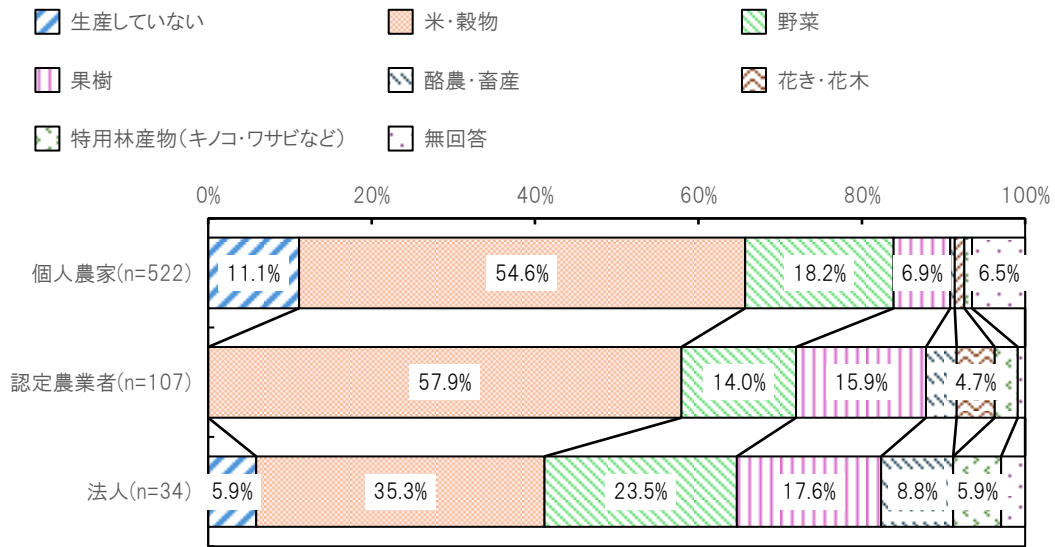
■ 現在

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
生産していない	11.1%	0.0%	5.9%
米・穀物	54.6%	57.9%	35.3%
野菜	18.2%	14.0%	23.5%
果樹	6.9%	15.9%	17.6%
酪農・畜産	0.6%	3.7%	8.8%
花き・花木	1.1%	4.7%	0.0%
特用林産物(キノコ・ワサビなど)	1.0%	2.8%	5.9%
無回答	6.5%	0.9%	2.9%

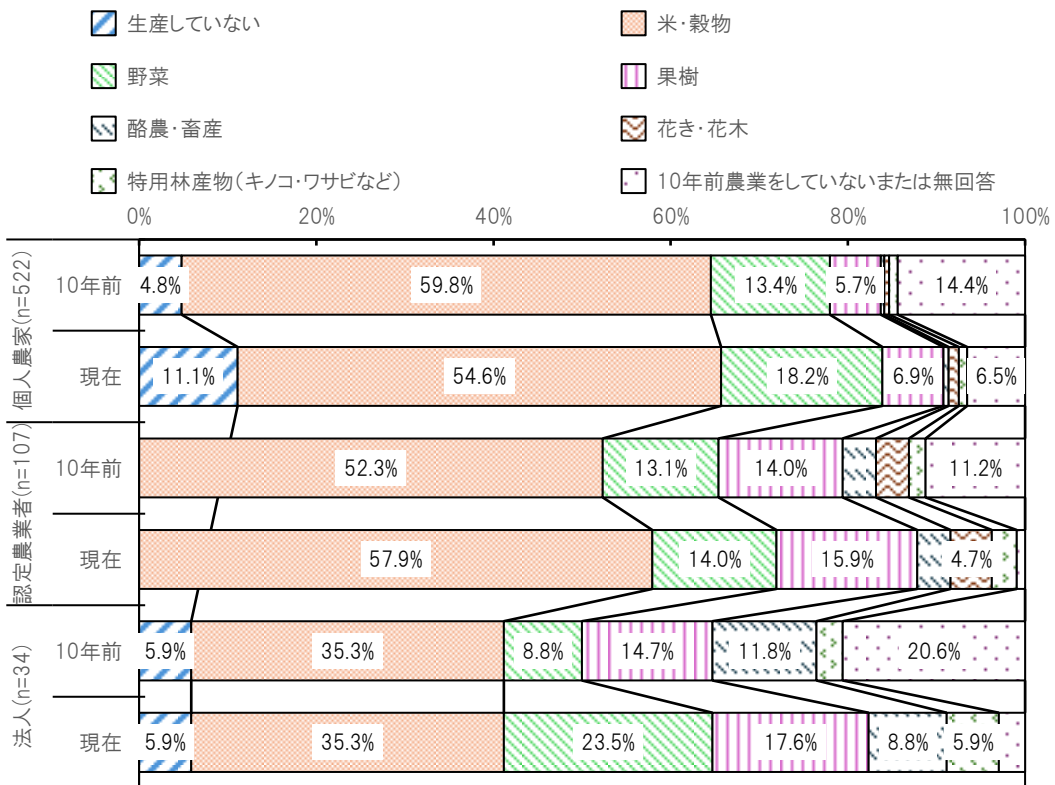
図表 15 生産作物 (10年前)



図表 16 生産作物（現在）



図表 17 生産作物（10年前と現在の比較）



問4. 出荷先を教えてください。(出荷額が多い順に記入)

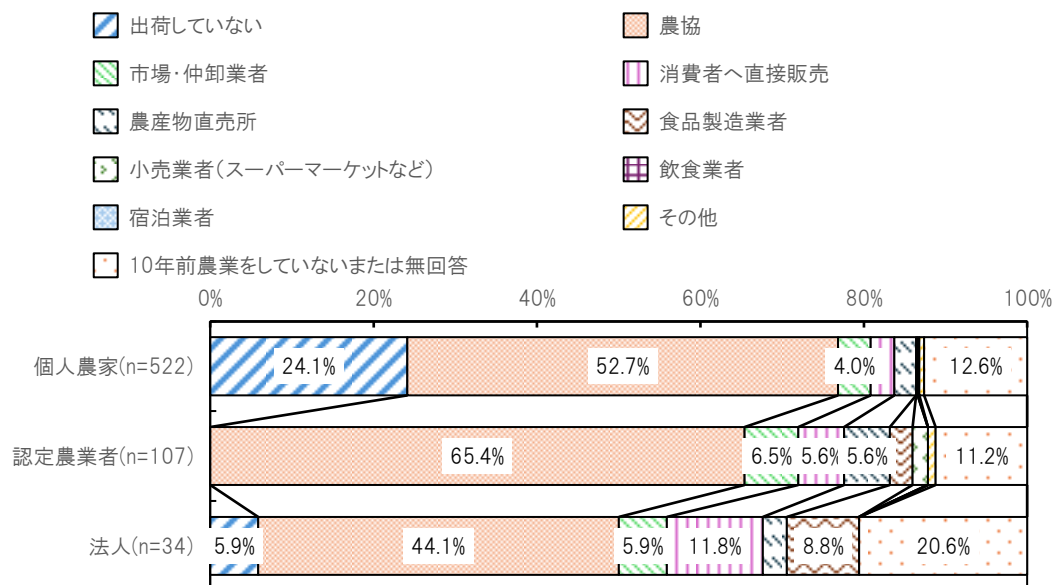
■ 10年前(出荷先1位)

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
出荷していない	24.1%	0.0%	5.9%
農協	52.7%	65.4%	44.1%
市場・仲卸業者	4.0%	6.5%	5.9%
消費者へ直接販売	2.9%	5.6%	11.8%
農産物直売所	2.7%	5.6%	2.9%
食品製造業者	0.0%	2.8%	8.8%
小売業者(スーパーマーケットなど)	0.2%	1.9%	0.0%
飲食業者	0.0%	0.0%	0.0%
宿泊業者	0.2%	0.0%	0.0%
その他	0.6%	0.9%	0.0%
10年前農業をしていないまたは無回答	12.6%	11.2%	20.6%

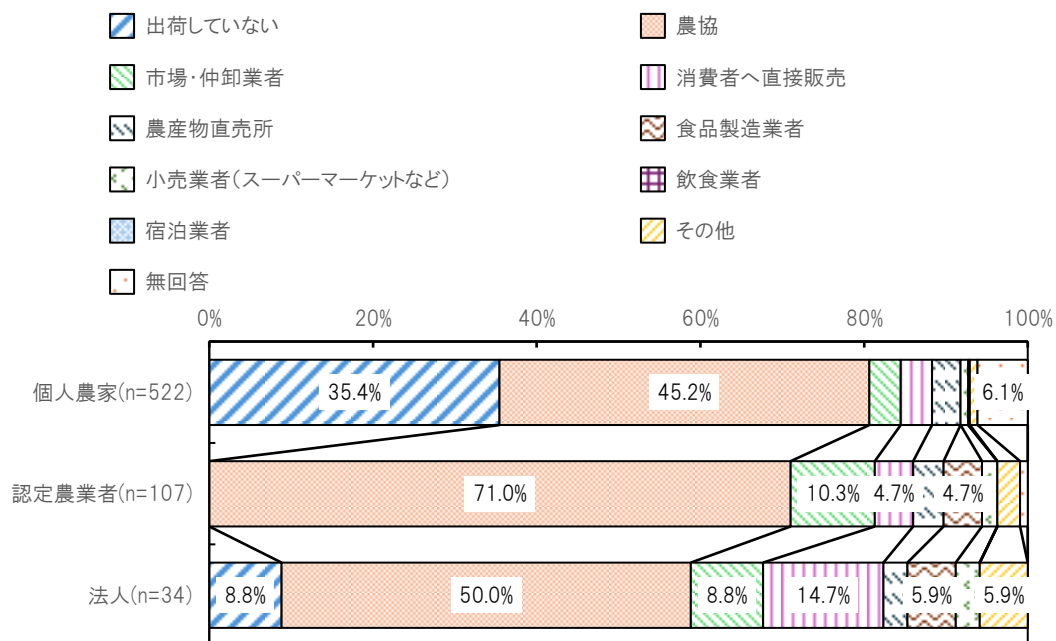
■ 現在(出荷先1位)

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
出荷していない	35.4%	0.0%	8.8%
農協	45.2%	71.0%	50.0%
市場・仲卸業者	3.8%	10.3%	8.8%
消費者へ直接販売	3.8%	4.7%	14.7%
農産物直売所	3.4%	3.7%	2.9%
食品製造業者	0.0%	4.7%	5.9%
小売業者(スーパーマーケットなど)	1.0%	1.9%	2.9%
飲食業者	0.0%	0.0%	0.0%
宿泊業者	0.2%	0.0%	0.0%
その他	1.0%	2.8%	5.9%
無回答	6.1%	0.9%	0.0%

図表 18 出荷先 1 位 (10 年前)



図表 19 出荷先 1 位 (現在)



※集計上、出荷先1位で「出荷していない」または「10年前農業をしていないまたは無回答」、出荷先2位で「10年前農業をしていないまたは無回答」を除いた回答をnとしている。

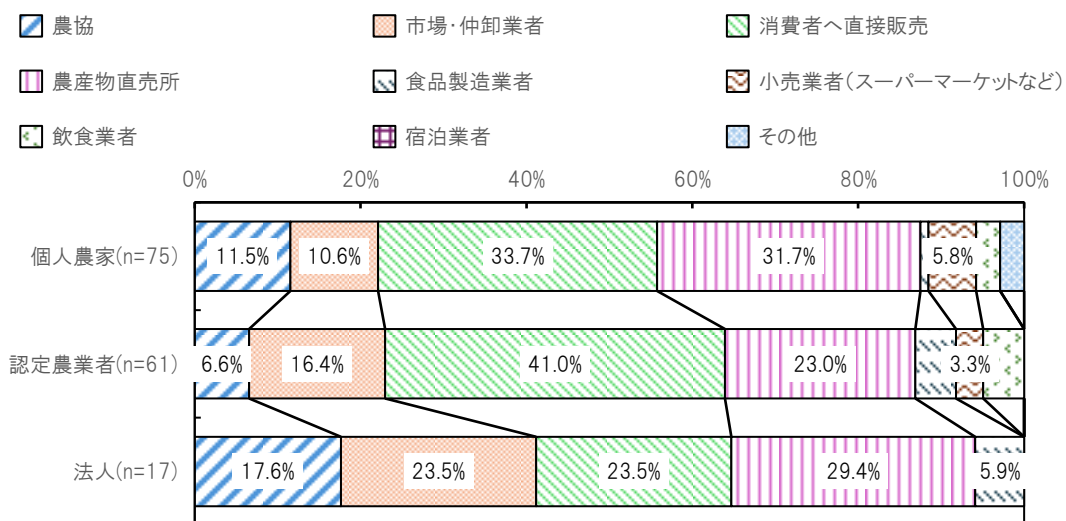
■ 10年前（出荷先2位）

	個人農家(n=75)	認定農業者(n=61)	法人(n=17)
農協	11.5%	6.6%	17.6%
市場・仲卸業者	10.6%	16.4%	23.5%
消費者へ直接販売	33.7%	41.0%	23.5%
農産物直売所	31.7%	23.0%	29.4%
食品製造業者	1.0%	4.9%	5.9%
小売業者（スーパーマーケットなど）	5.8%	3.3%	0.0%
飲食業者	2.9%	4.9%	0.0%
宿泊業者	0.0%	0.0%	0.0%
その他	2.9%	0.0%	0.0%

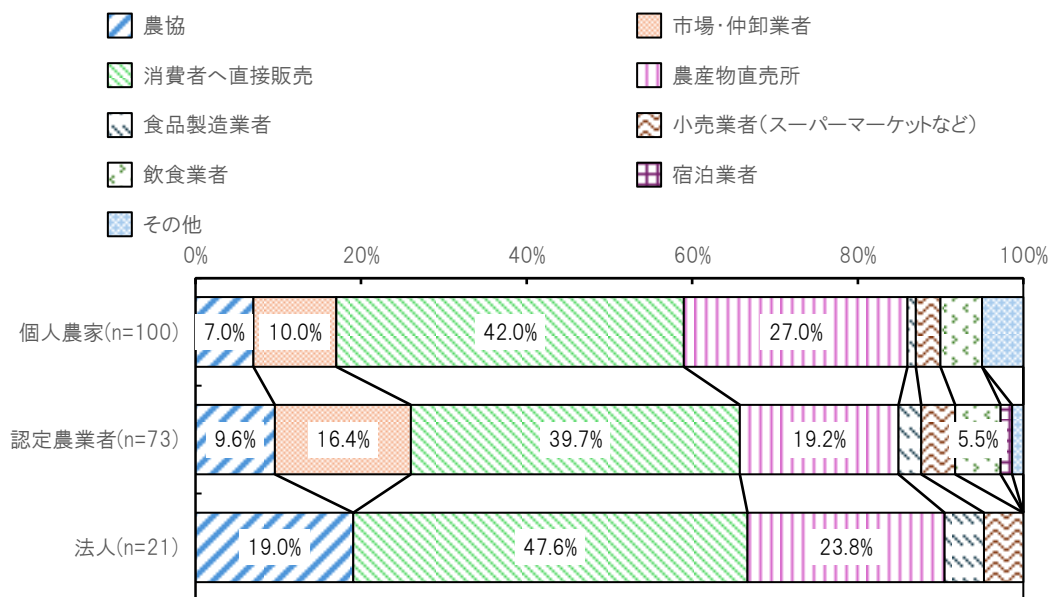
■ 現在（出荷先2位）

	個人農家(n=100)	認定農業者(n=73)	法人(n=21)
農協	7.0%	9.6%	19.0%
市場・仲卸業者	10.0%	16.4%	0.0%
消費者へ直接販売	42.0%	39.7%	47.6%
農産物直売所	27.0%	19.2%	23.8%
食品製造業者	1.0%	2.7%	4.8%
小売業者（スーパーマーケットなど）	3.0%	4.1%	4.8%
飲食業者	5.0%	5.5%	0.0%
宿泊業者	0.0%	1.4%	0.0%
その他	5.0%	1.4%	0.0%

図表 20 出荷先 2 位 (10 年前)



図表 21 出荷先 2 位 (現在)



※集計上、出荷先1位、2位で「出荷していない」または「10年前農業をしていないまたは無回答」、出荷先3位で「10年前農業をしていないまたは無回答」を除いた回答をnとしている。

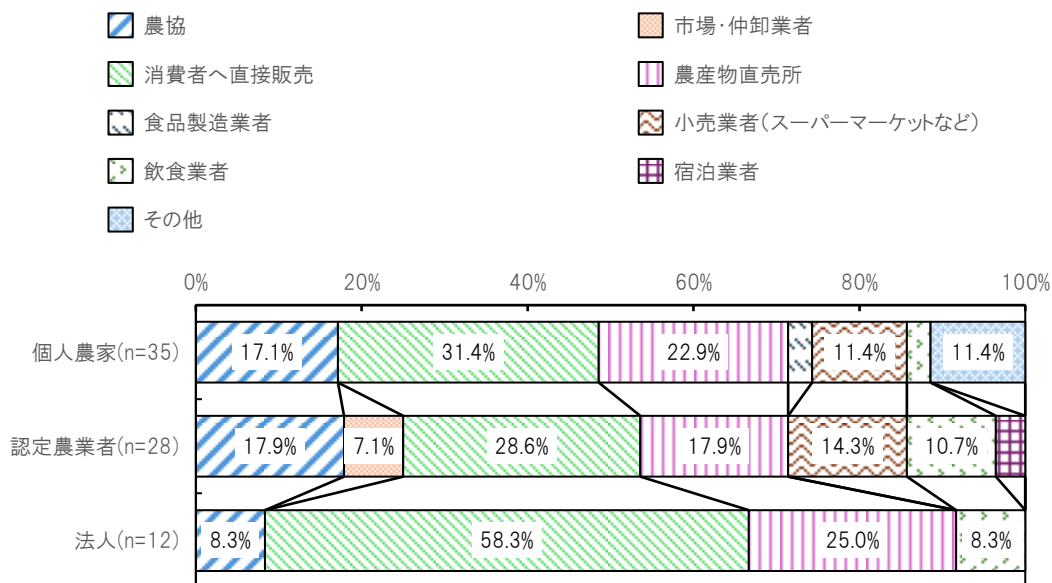
■ 10年前（出荷先3位）

	個人農家(n=35)	認定農業者(n=28)	法人(n=12)
農協	17.1%	17.9%	8.3%
市場・仲卸業者	0.0%	7.1%	0.0%
消費者へ直接販売	31.4%	28.6%	58.3%
農産物直売所	22.9%	17.9%	25.0%
食品製造業者	2.9%	0.0%	0.0%
小売業者（スーパーマーケットなど）	11.4%	14.3%	0.0%
飲食業者	2.9%	10.7%	8.3%
宿泊業者	0.0%	3.6%	0.0%
その他	11.4%	0.0%	0.0%

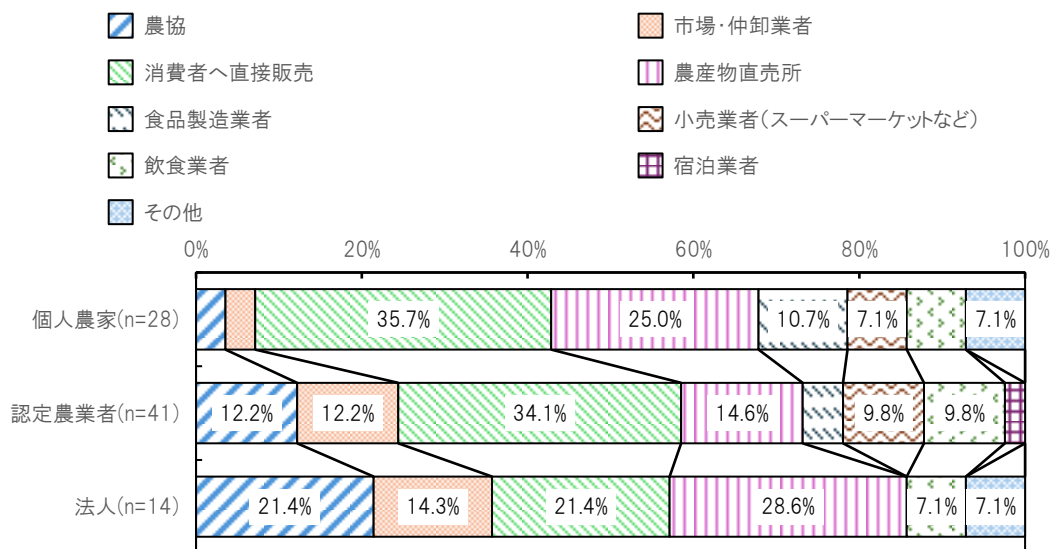
■ 現在（出荷先3位）

	個人農家(n=28)	認定農業者(n=41)	法人(n=14)
農協	3.6%	12.2%	21.4%
市場・仲卸業者	3.6%	12.2%	14.3%
消費者へ直接販売	35.7%	34.1%	21.4%
農産物直売所	25.0%	14.6%	28.6%
食品製造業者	10.7%	4.9%	0.0%
小売業者（スーパーマーケットなど）	7.1%	9.8%	0.0%
飲食業者	7.1%	9.8%	7.1%
宿泊業者	0.0%	2.4%	0.0%
その他	7.1%	0.0%	7.1%

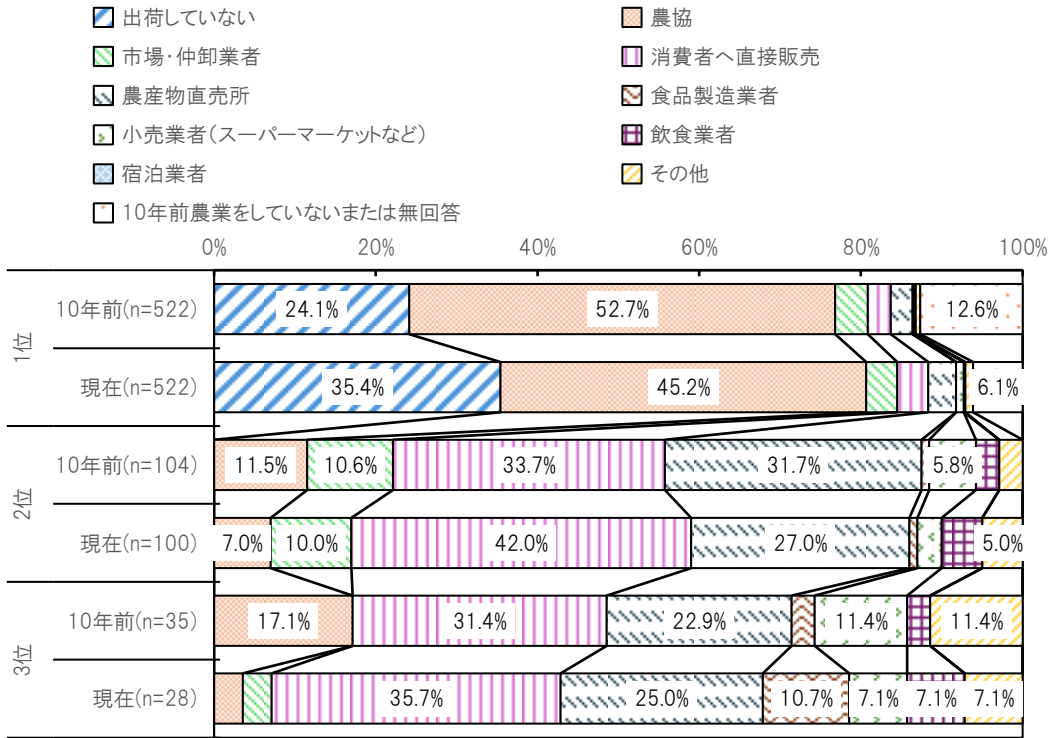
図表 22 出荷先 3 位 (10 年前)



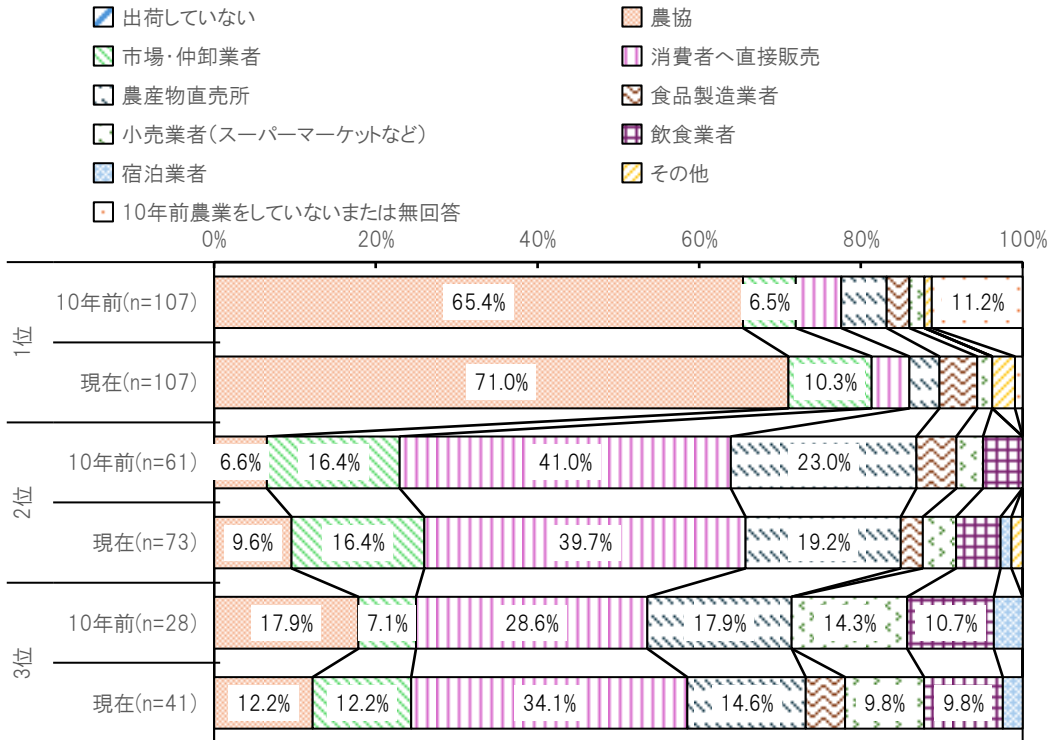
図表 23 出荷先 3 位 (現在)



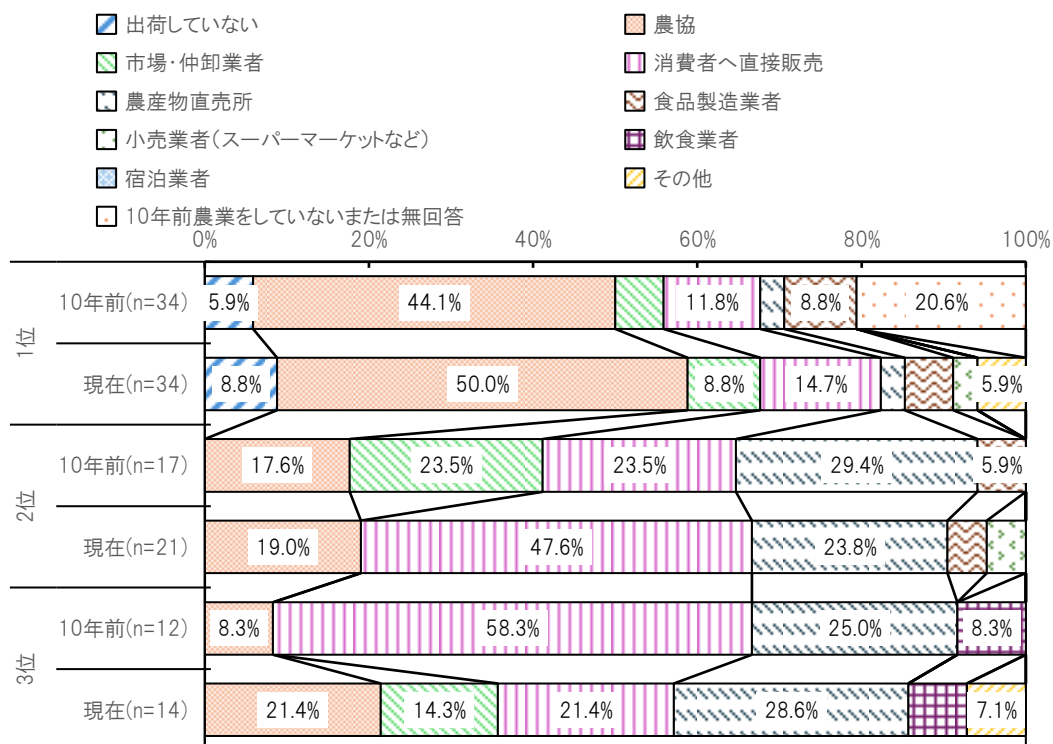
図表 24 個人農家の出荷先（10年前と現在の比較）



図表 25 認定農業者の出荷先（10年前と現在の比較）



図表 26 法人の出荷先（10年前と現在の比較）



「その他」の内容

①個人農家

- 営農組合へ
- 菓子製造業
- 個人売買,個人売買
- 自家消費
- 親戚
- 親戚への販売
- 親族、知人に
- 数人で設立した会社組織
- 全く 出荷 していません
- 民間米穀集荷業者

②認定農業者

- EC サイト
- 観光農園,観光農園
- 県食糧集荷協同組合

③法人

- 海外輸出
- 農業総合研究所
- 福祉法人

問5. 農産物・農産加工品の販売金額を教えてください。※個人農家、認定農業者のみ

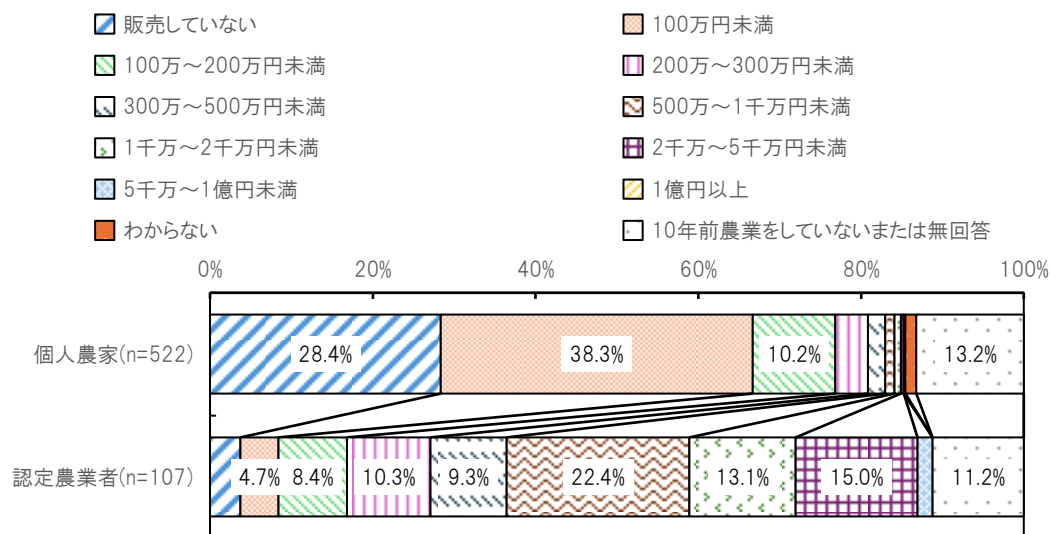
■ 10年前

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)
販売していない	28.4%	3.7%
100万円未満	38.3%	4.7%
100万～200万円未満	10.2%	8.4%
200万～300万円未満	4.0%	10.3%
300万～500万円未満	2.1%	9.3%
500万～1千万円未満	1.1%	22.4%
1千万～2千万円未満	0.8%	13.1%
2千万～5千万円未満	0.4%	15.0%
5千万～1億円未満	0.0%	1.9%
1億円以上	0.2%	0.0%
わからない	1.3%	0.0%
10年前農業をしていないまたは無回答	13.2%	11.2%

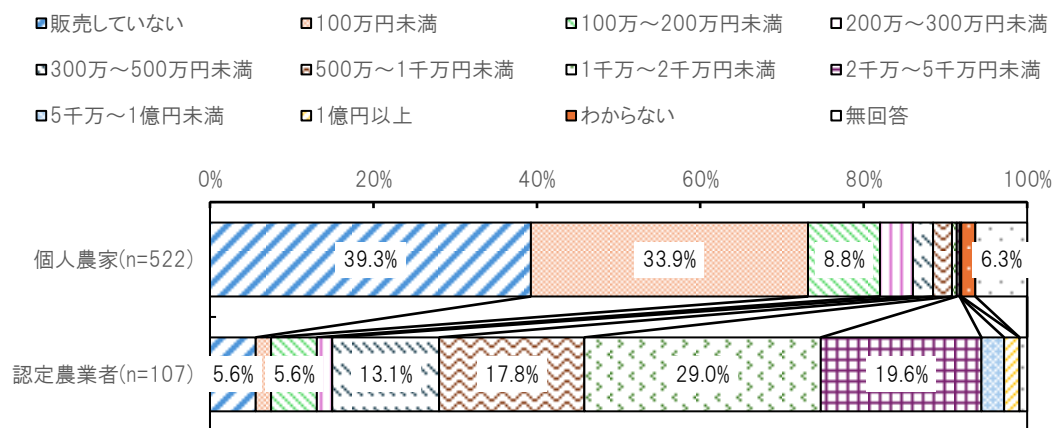
■ 現在

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)
販売していない	39.3%	5.6%
100万円未満	33.9%	1.9%
100万～200万円未満	8.8%	5.6%
200万～300万円未満	4.0%	1.9%
300万～500万円未満	2.5%	13.1%
500万～1千万円未満	2.3%	17.8%
1千万～2千万円未満	0.6%	29.0%
2千万～5千万円未満	0.4%	19.6%
5千万～1億円未満	0.0%	2.8%
1億円以上	0.2%	1.9%
わからない	1.7%	0.0%
無回答	6.3%	0.9%

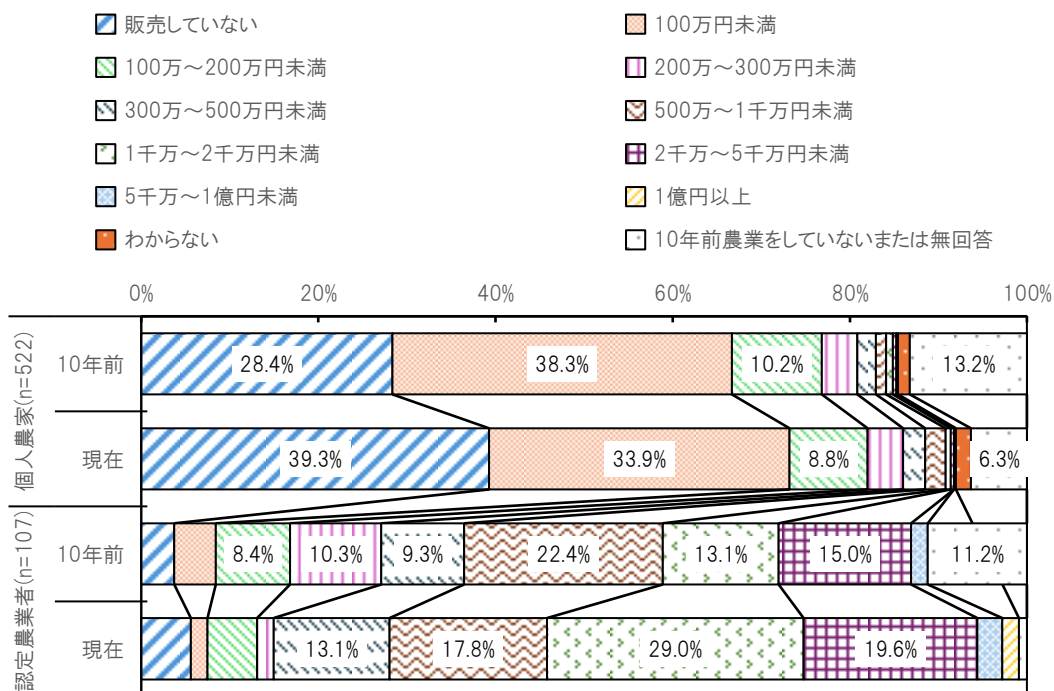
図表 27 販売金額（10年前）



図表 28 販売金額（現在）



図表 29 販売金額（10年前と現在の比較）



問6. 農産物・農産加工品の年間収益を教えてください。 ※法人のみ

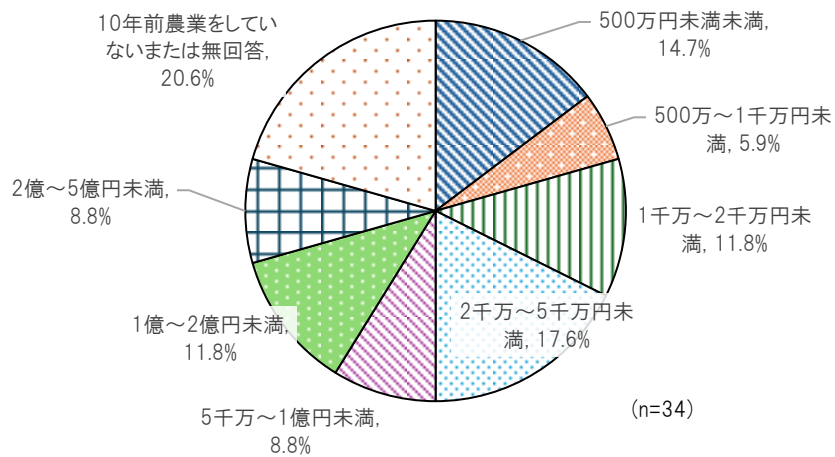
■ 10年前

	法人(n=34)
500万円未満未満	14.7%
500万～1千万円未満	5.9%
1千万～2千万円未満	11.8%
2千万～5千万円未満	17.6%
5千万～1億円未満	8.8%
1億～2億円未満	11.8%
2億～5億円未満	8.8%
10年前農業をしていないまたは無回答	20.6%

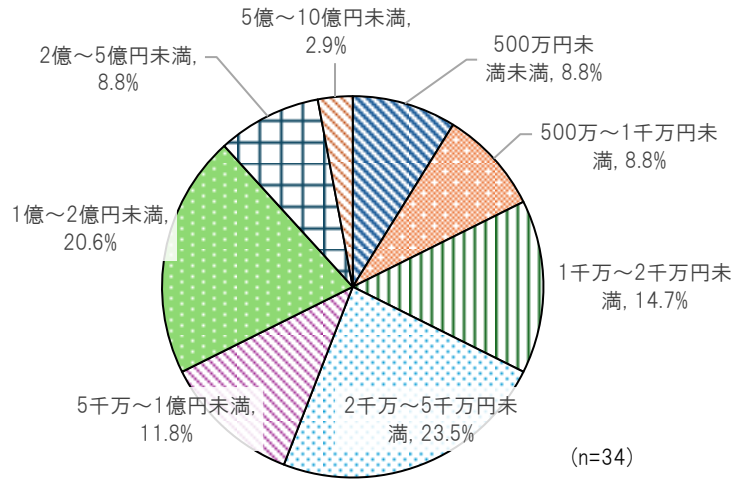
■ 現在

	法人(n=34)
500万円未満未満	8.8%
500万～1千万円未満	8.8%
1千万～2千万円未満	14.7%
2千万～5千万円未満	23.5%
5千万～1億円未満	11.8%
1億～2億円未満	20.6%
2億～5億円未満	8.8%
5億～10億円未満	2.9%

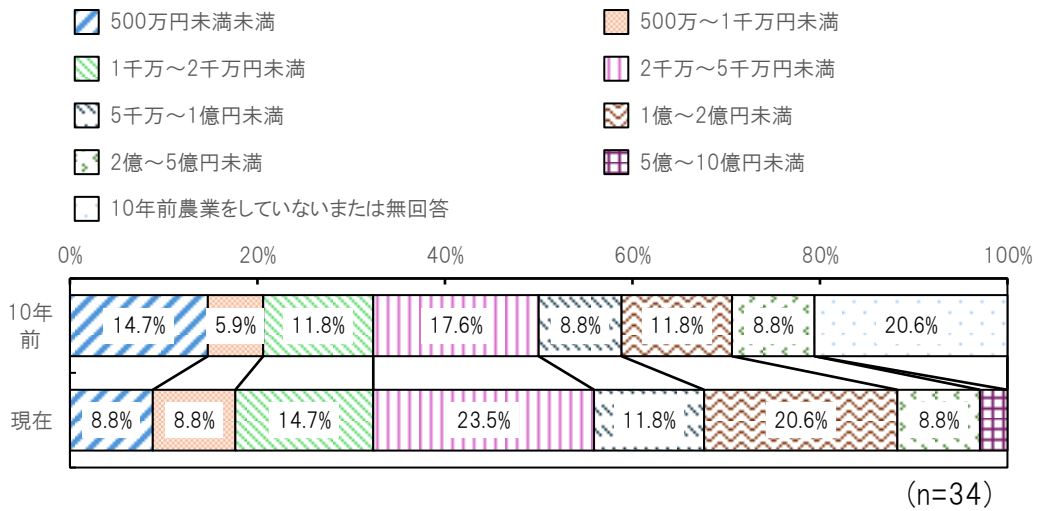
図表 30 年間収益 (10年前)



図表 31 年間収益（現在）



図表 32 年間収益（10年前と現在の比較）



問7. 農業所得を教えてください。※個人農家、認定農業者のみ

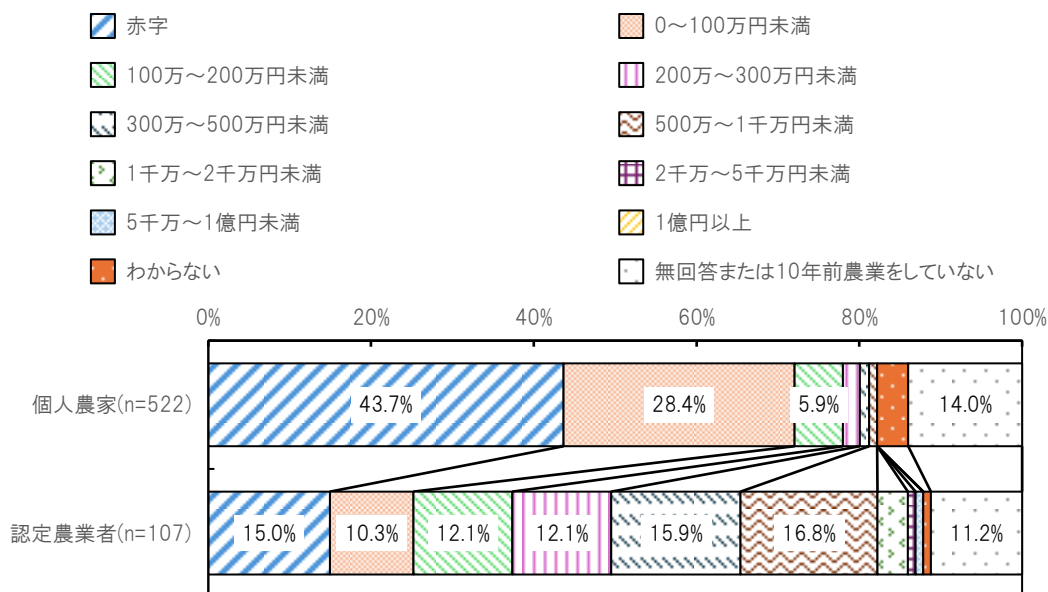
■ 10年前

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)
赤字	43.7%	15.0%
0～100万円未満	28.4%	10.3%
100万～200万円未満	5.9%	12.1%
200万～300万円未満	2.1%	12.1%
300万～500万円未満	1.1%	15.9%
500万～1千万円未満	1.0%	16.8%
1千万～2千万円未満	0.0%	3.7%
2千万～5千万円未満	0.0%	0.9%
5千万～1億円未満	0.0%	0.9%
1億円以上	0.0%	0.0%
わからない	3.8%	0.9%
無回答または10年前農業をしていない	14.0%	11.2%

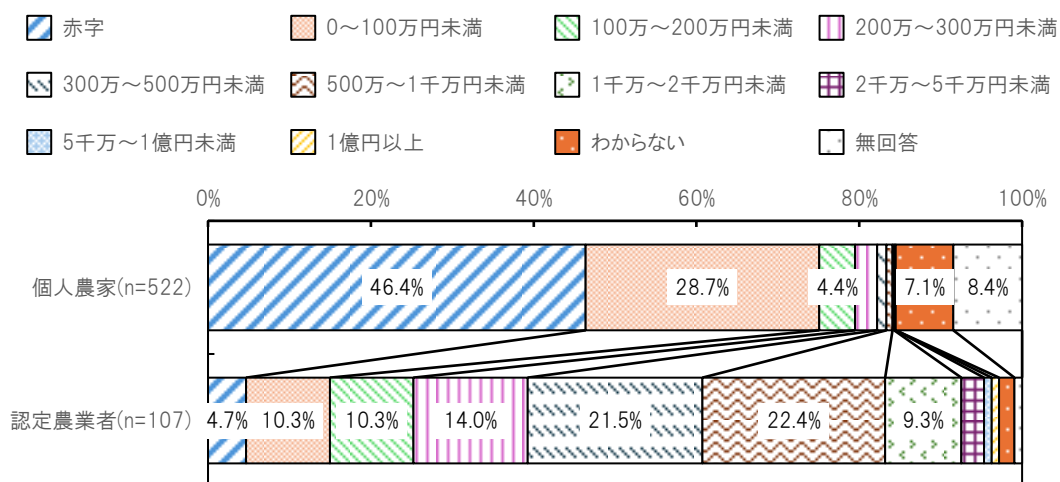
■ 現在

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)
赤字	46.4%	4.7%
0～100万円未満	28.7%	10.3%
100万～200万円未満	4.4%	10.3%
200万～300万円未満	2.7%	14.0%
300万～500万円未満	1.1%	21.5%
500万～1千万円未満	0.8%	22.4%
1千万～2千万円未満	0.2%	9.3%
2千万～5千万円未満	0.2%	2.8%
5千万～1億円未満	0.0%	0.9%
1億円以上	0.0%	0.9%
わからない	7.1%	1.9%
無回答	8.4%	0.9%

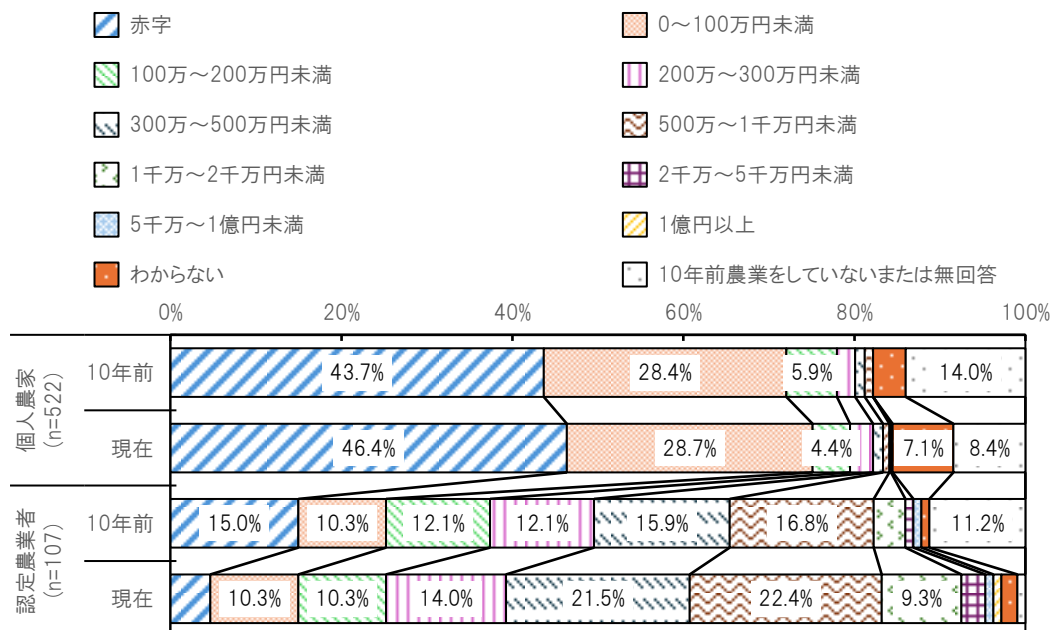
図表 33 農業所得（10年前）



図表 34 農業所得（現在）



図表 35 農業所得（10年前と現在の比較）



問8. 年間純利益を教えてください。※法人のみ

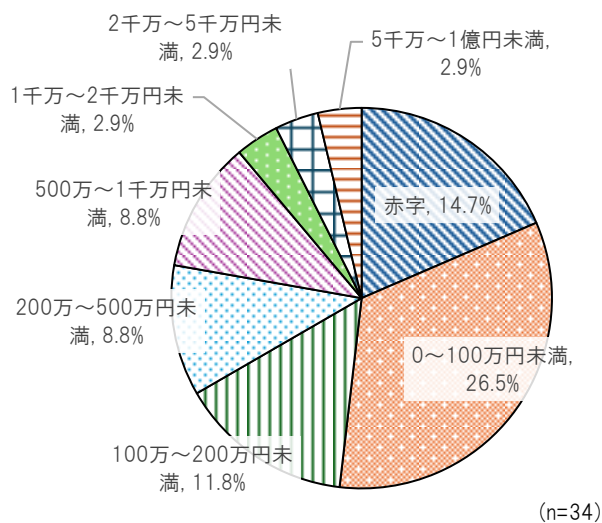
■ 10年前

	法人(n=34)
赤字	14.7%
0～100万円未満	26.5%
100万～200万円未満	11.8%
200万～500万円未満	8.8%
500万～1千万円未満	8.8%
1千万～2千万円未満	2.9%
2千万～5千万円未満	2.9%
5千万～1億円未満	2.9%
無回答または10年前農業をしていない	20.6%

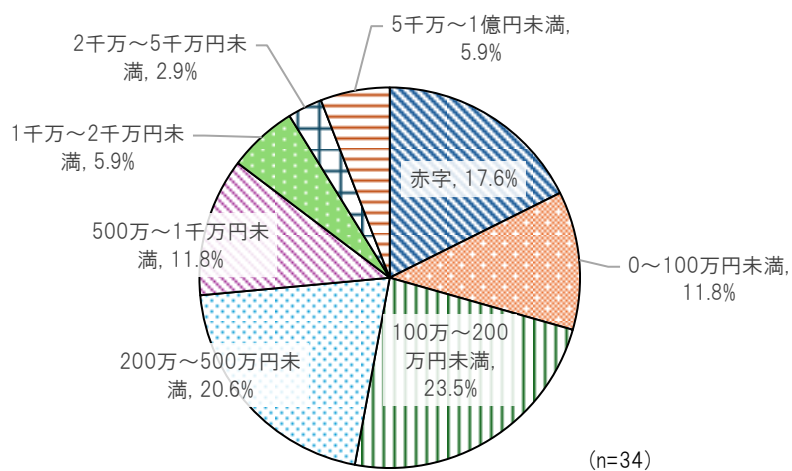
■ 現在

	法人(n=34)
赤字	17.6%
0～100万円未満	11.8%
100万～200万円未満	23.5%
200万～500万円未満	20.6%
500万～1千万円未満	11.8%
1千万～2千万円未満	5.9%
2千万～5千万円未満	2.9%
5千万～1億円未満	5.9%

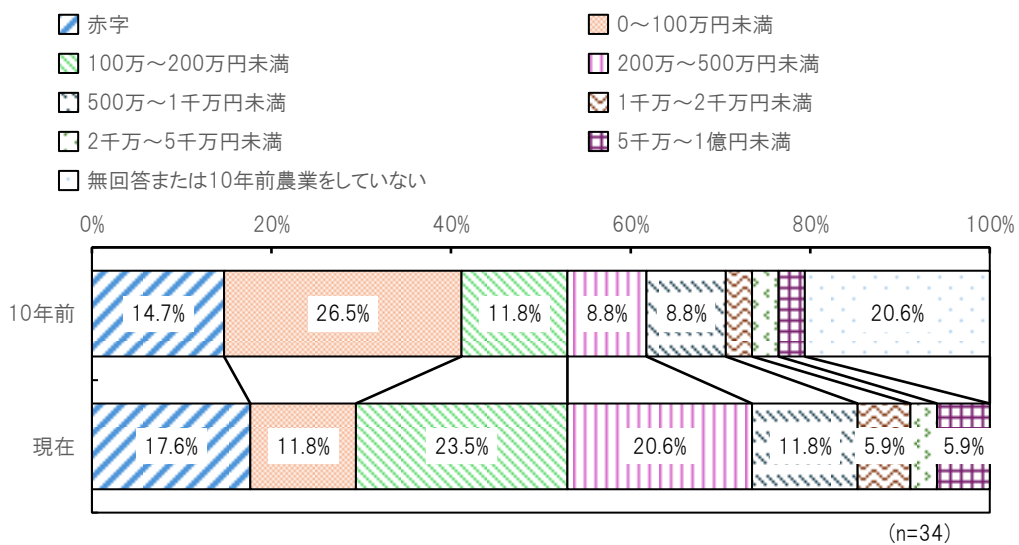
図表 36 年間純利益 (10年前)



図表 37 年間純利益（現在）



図表 38 年間純利益（10年前と現在の比較）

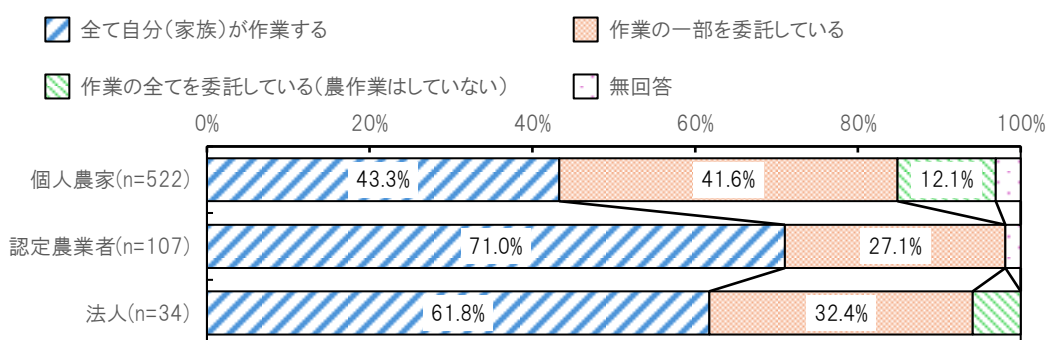


2. 現在の農業経営について

問9. 農業経営の状況を教えてください。(農作業の委託について)

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
全て自分(家族)が作業する	43.3%	71.0%	61.8%
作業の一部を委託している	41.6%	27.1%	32.4%
作業の全てを委託している(農作業はしていない)	12.1%	0.0%	5.9%
無回答	3.1%	1.9%	0.0%

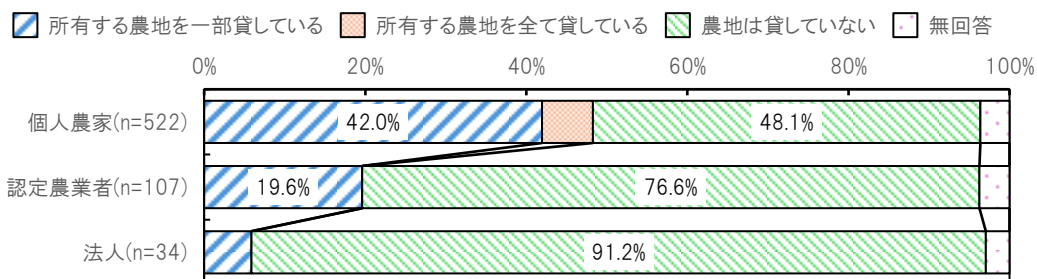
図表 39 農作業の委託



問10. 農業経営の状況を教えてください。(農地の貸与について)

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
所有する農地を一部貸している	42.0%	19.6%	5.9%
所有する農地を全て貸している	6.3%	0.0%	0.0%
農地は貸していない	48.1%	76.6%	91.2%
無回答	3.6%	3.7%	2.9%

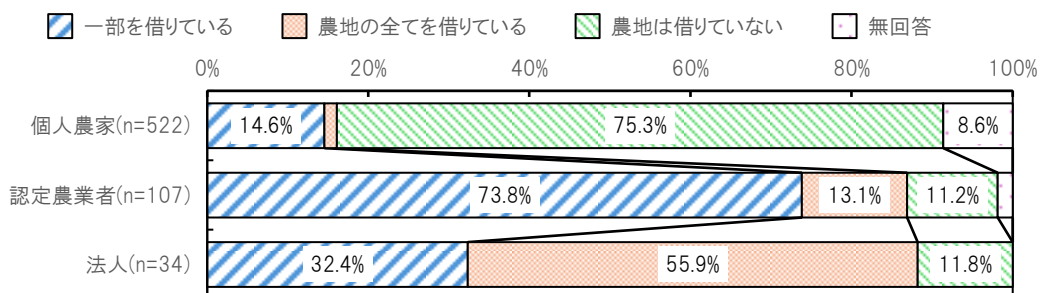
図表 40 農地の貸与



問11. 農業経営の状況を教えてください。(農地の借用について)

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
一部を借りている	14.6%	73.8%	32.4%
農地の全てを借りている	1.5%	13.1%	55.9%
農地は借りていない	75.3%	11.2%	11.8%
無回答	8.6%	1.9%	0.0%

図表 41 農地の借用



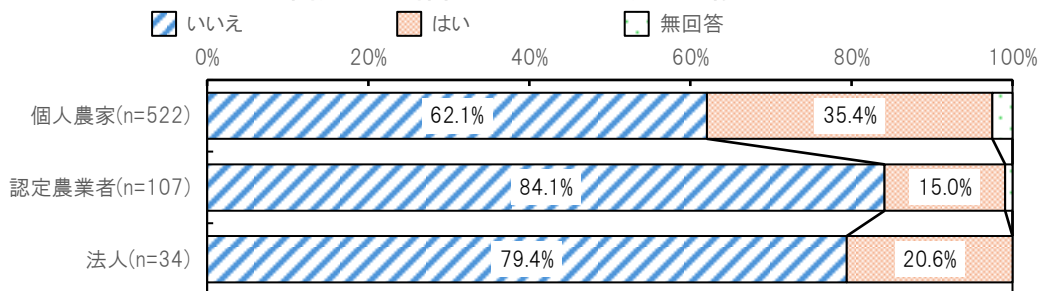
問12. 所有している農地で農作物を全く作付けしていない農地はありますか。
「はい」の場合は面積をご記入ください

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
いいえ	62.1%	84.1%	79.4%
はい	35.4%	15.0%	20.6%
無回答	2.5%	0.9%	0.0%

	個人農家	認定農業者	法人
作付けしていない田の面積(合計)	153.3	2.1	0.3
作付けしていない畑の面積(合計)	389.6	4.7	65.9

単位ha(小数点第2位以下四捨五入)

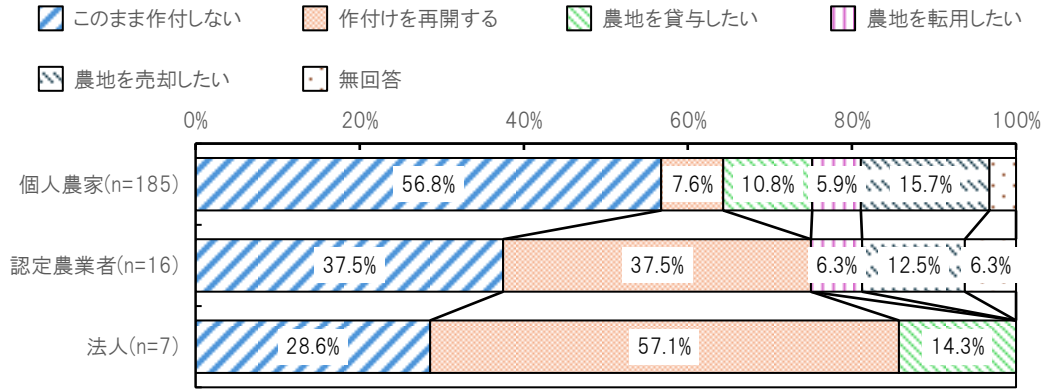
図表 42 作付けしていない農地の有無



問13. 農作物の作付けをしていない農地を今後どのように利用したいか教えてください。 ※問12で作付けをしていない農地が「ある」と回答した方のみ回答

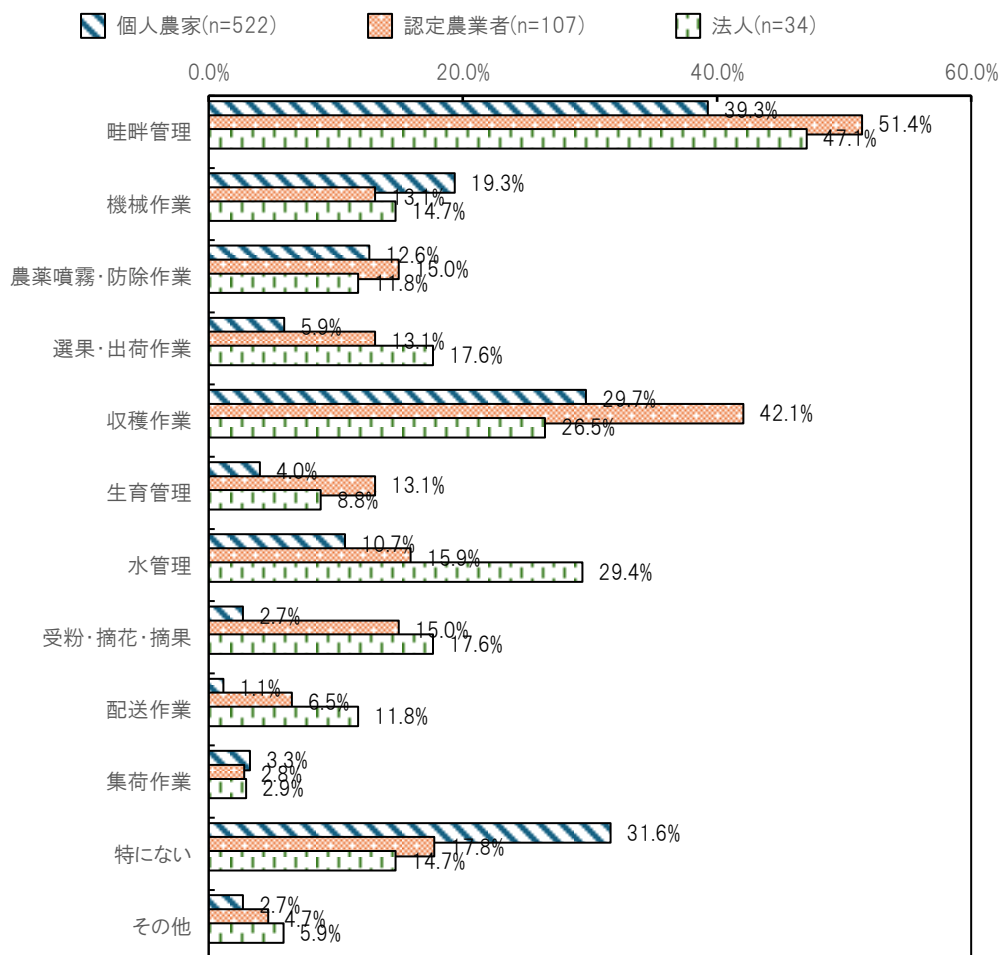
	個人農家(n=185)	認定農業者(n=16)	法人(n=7)
このまま作付しない	56.8%	37.5%	28.6%
作付けを再開する	7.6%	37.5%	57.1%
農地を貸与したい	10.8%	0.0%	14.3%
農地を転用したい	5.9%	6.3%	0.0%
農地を売却したい	15.7%	12.5%	0.0%
無回答	3.2%	6.3%	0.0%

図表 43 作付けしていない農地の今後の利用方法



問14. 農作業の中で、サポートが必要だと感じる作業を教えてください。（農作業について）（3つまで選択可）

図表 44 サポートが必要だと感じる作業（農作業について）



「その他」の内容

①個人農家

- ない
- 委託している
- 猿対策
- 機械メンテナンス
- 採苗
- 市道の草刈り
- 田植
- 田植え

- 田植時の補助(苗運び)
- 田圃水管理
- 農業はしていない
- 畑に興味を持つ人口を増やしたい。どこか限定的作業ではなくトータルで畑に関わり生活するという生き方へシフトする人数が増える必要がある。機械が入りづらい地域が多い。安易に大規模化するよりも、人の生き方のシフトが必要。化なく
- 苗の植付け作業
- 野生動物対策

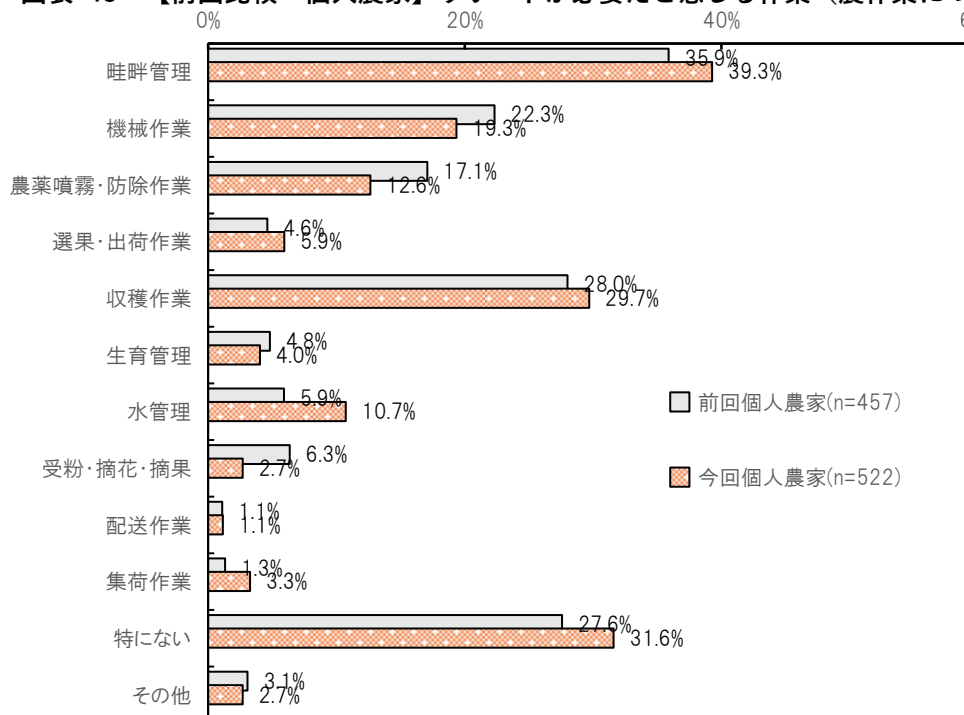
②認定農業者

- 作業補助
- 水田草取り
- 田植え作業
- 翌年度に向けた作付

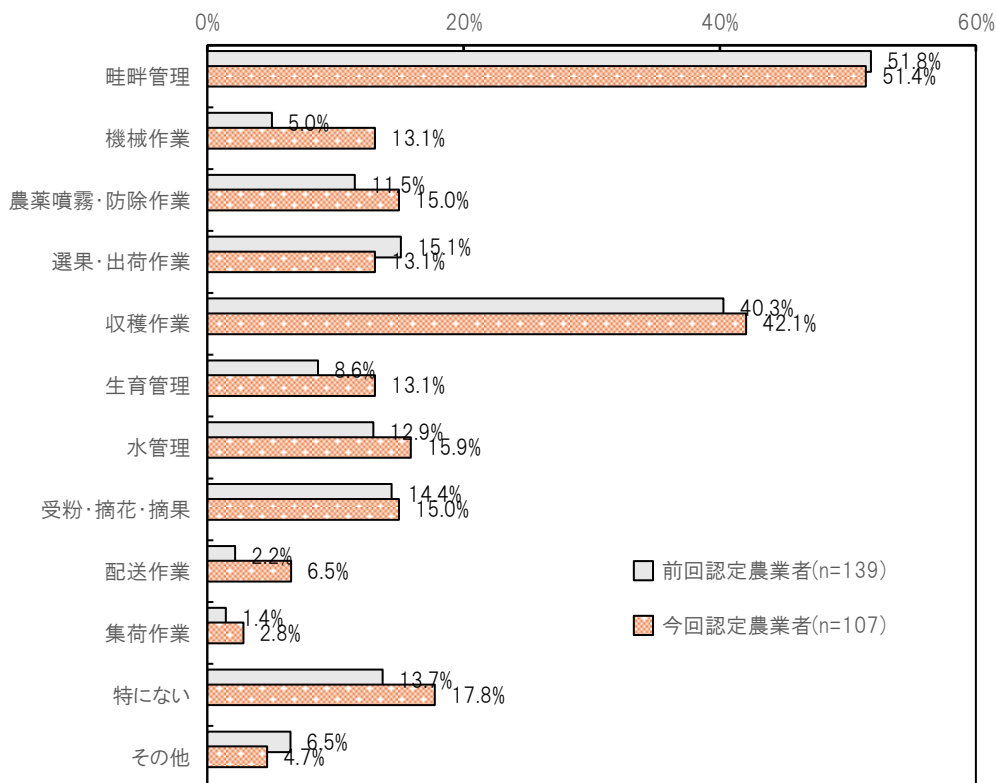
③法人

- サポートがあればより良い と考えています
- 育苗

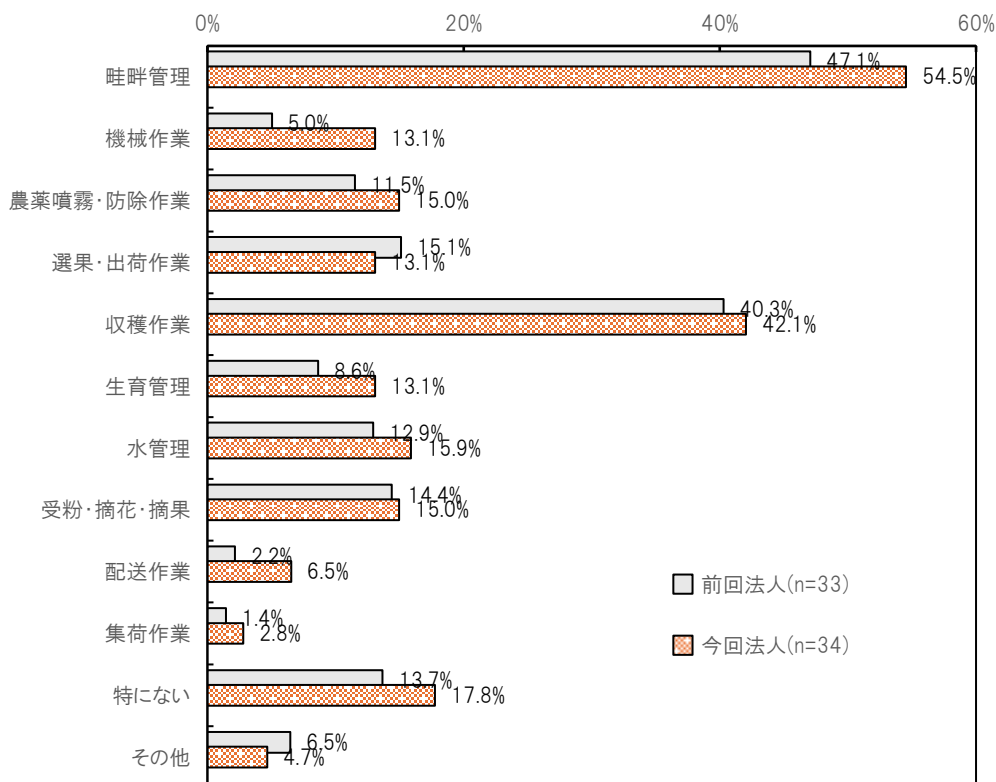
図表 45 【前回比較・個人農家】サポートが必要だと感じる作業（農作業について）



図表 46 【前回比較・認定農業者】サポートが必要だと感じる作業（農作業について）

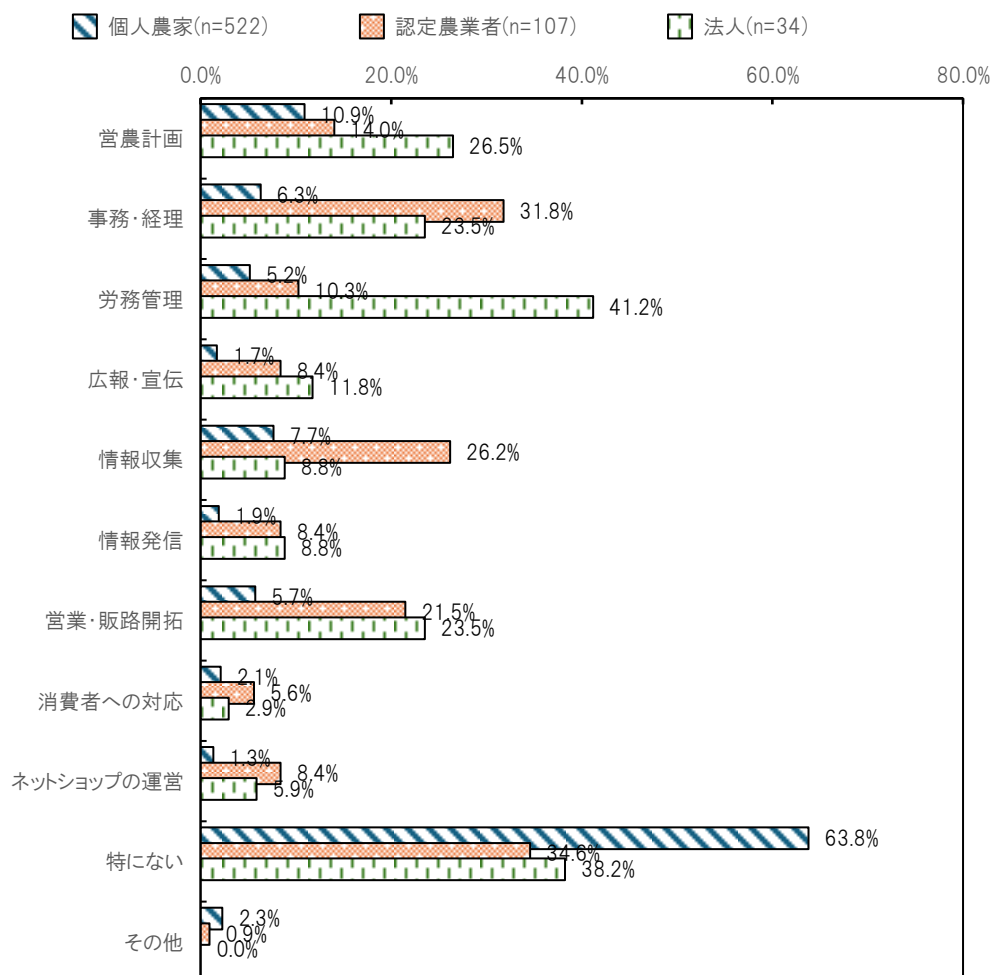


図表 47 【前回比較・法人】サポートが必要だと感じる作業（農作業について）



問15. 農作業の中で、サポートが必要だと感じる作業を教えてください。(経營業務について) (3つまで選択可)

図表 48 サポートが必要だと感じる作業 (経營業務について)



「その他」の内容

①個人農家

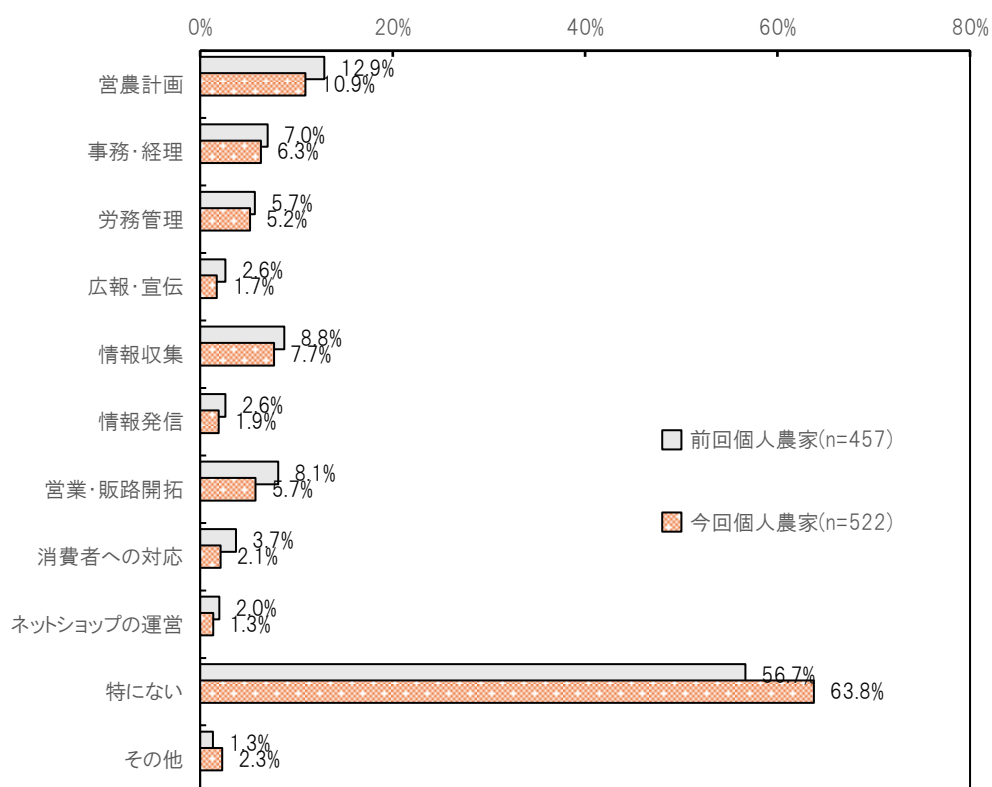
- ない
- 委託している
- 営農組合で行っている
- 高齢化への対応
- 作物を育てるのと、売るのは全く別の能力と作業が必要。食べ物がどれほど大切なものかを忘れた現代人には理解が難しいかもしれないが、専業農家は国家公務員とすくらしいの変革をしなくては小手先ではどうにもならない。
- 自家用だけ

- 車の免許更新(免許が無いと何も出来ない)
- 鉄橋の盗難等
- 農家組合や JA の役員の仕事をなくしてほしい
- 農業はしていない
- 利益を出せる農業経営の指導

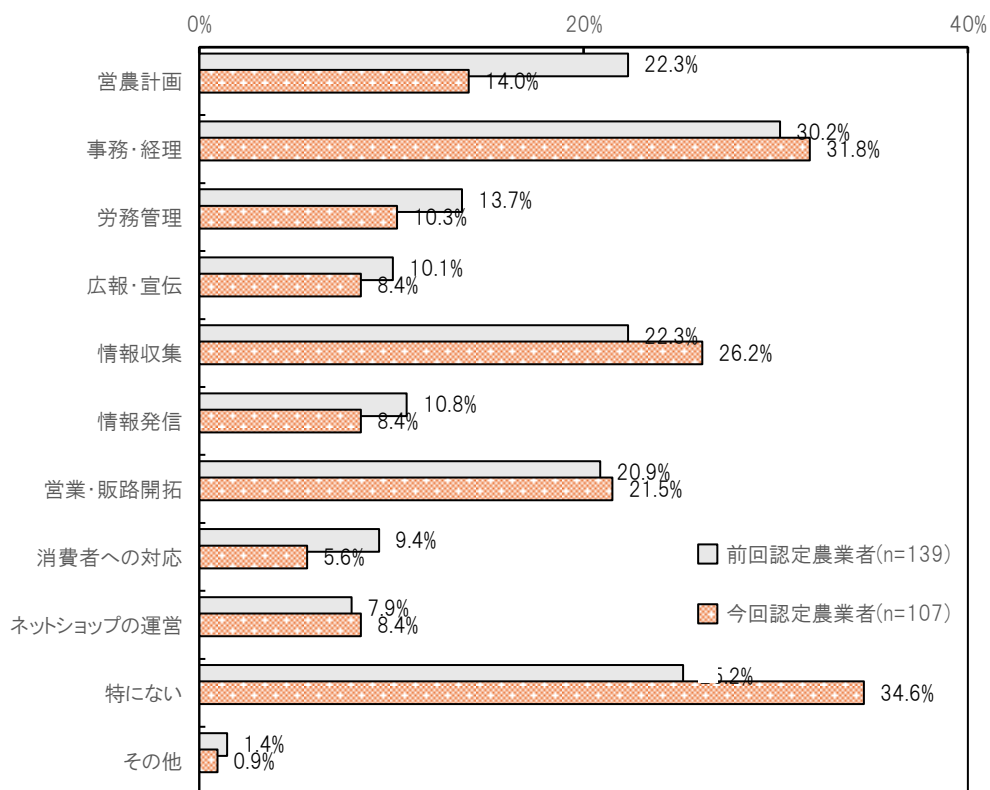
②認定農業者

- 農地の石抜きと客土

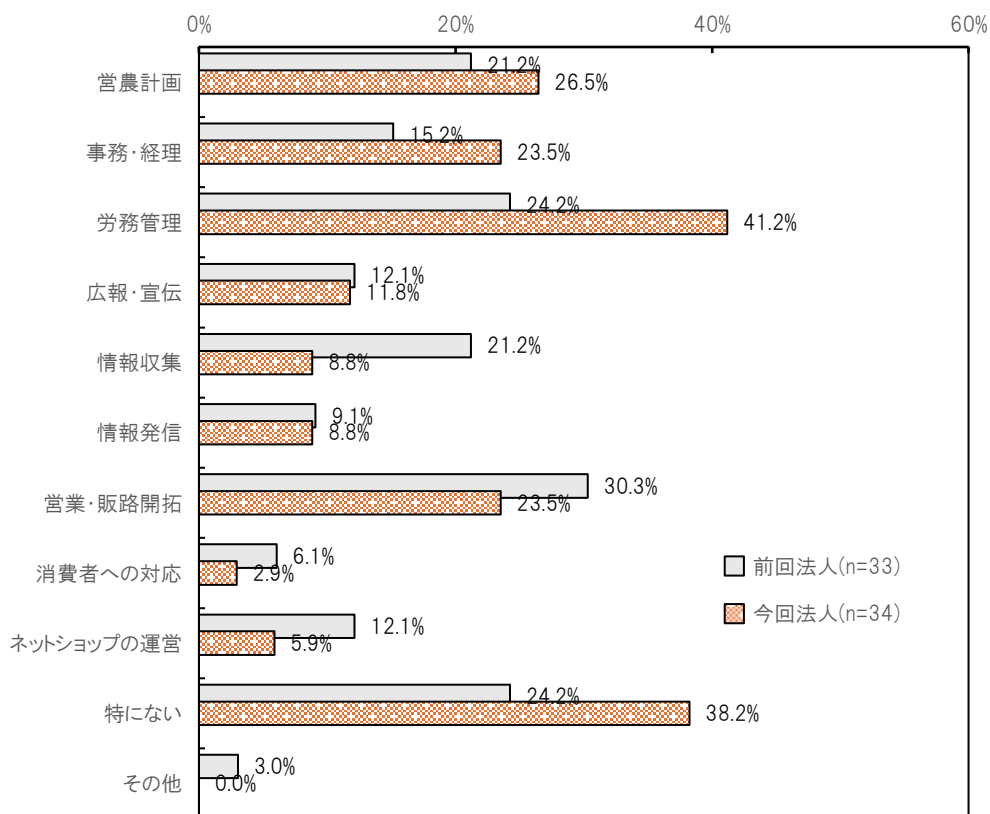
図表 49 【前回比較・個人農家】サポートが必要だと感じる作業（経營業務について）



図表 50 【前回比較・認定農業者】サポートが必要だと感じる作業（経營業務について）

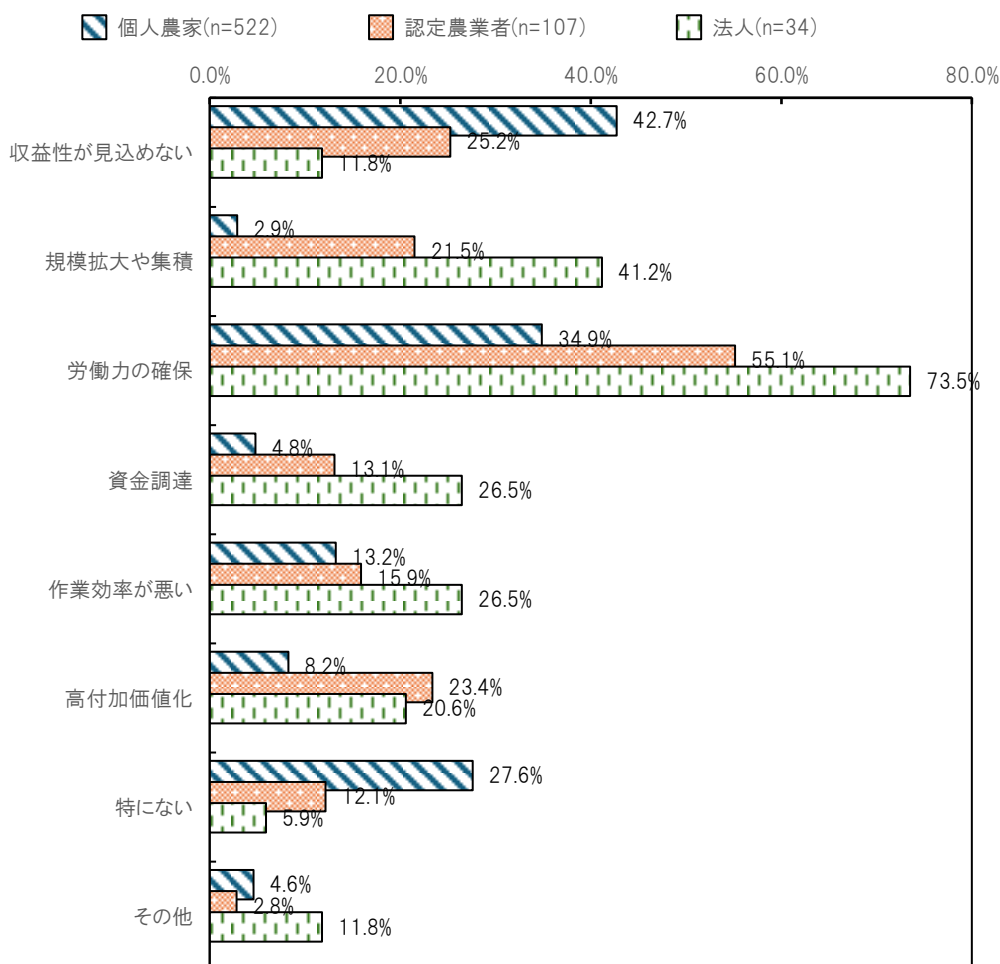


図表 51 【前回比較・法人】サポートが必要だと感じる作業（経營業務について）



問16. 農業経営を続けていくうえでの課題や困っていることを教えてください。(経営に関すること) (3つまで選択可)

図表 52 農業経営の課題 (経営に関すること)



「その他」の内容

①個人農家

- シカ
- スピードスプレーヤーが壊れたら廃棄するしかないかな
- だめになったらやめる
- 委託している
- 加工場の整備
- 管理のみ
- 機械の老朽化

- 機械の老朽化。更新資金が生まれない。
- 機械老朽化
- 健康管理
- 後継がないので、いずれどのようにするか、思案中です。
- 後継者がいない
- 後継者不足
- 高齢で作業出来ず
- 作業が困難で縮小
- 獣に荒らされる
- 年齢的
- 農家の役がまわってくるのがわずらわしい
- 農機の保守
- 農業機械が高騰してきて、更新出来ない
- 農業機械高騰で、壊れたら新しく買えかえる事が難しく、農業を続けられなくなる
- 予期せぬ病虫害

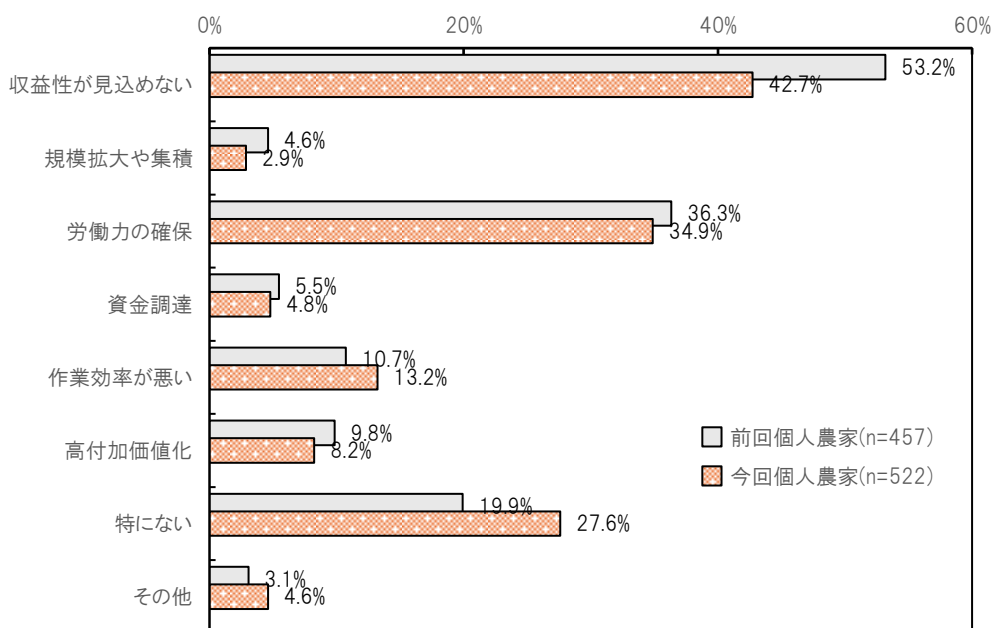
②認定農業者

- 機械損耗、機械の購入
- 気候変動への対応
- 農水省の農業政策、長期経営計画が出来ない。

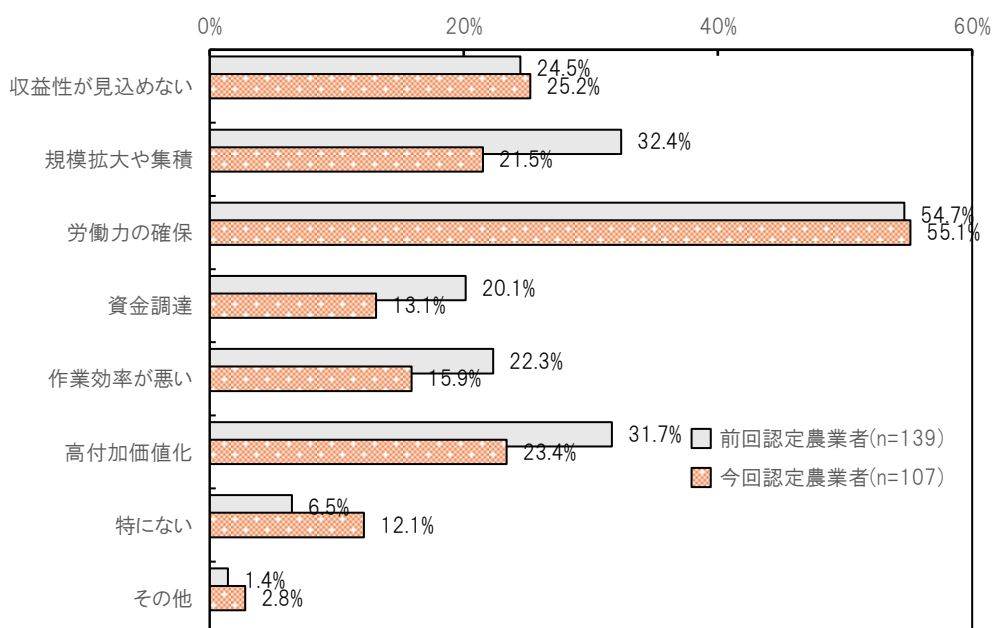
③法人

- 収穫量の減
- 田んぼでの畑作用の散水設備が整備されていない
- 特に農地の集積につき課題があります
- 農村取得補助金

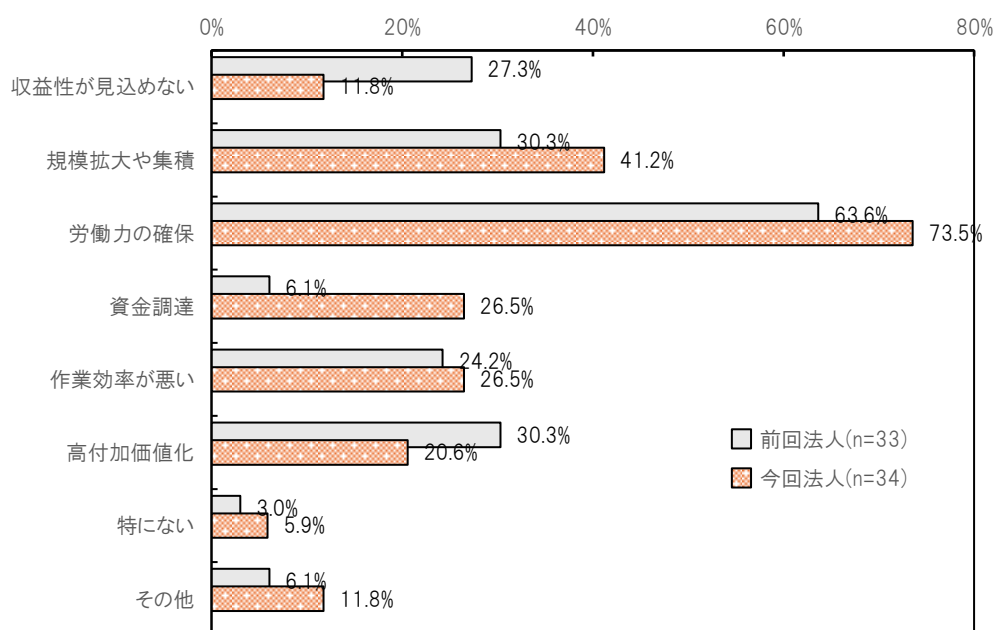
図表 53 【前回比較・個人農家】農業経営の課題（経営に関すること）



図表 54 【前回比較・認定農業者】農業経営の課題（経営に関すること）

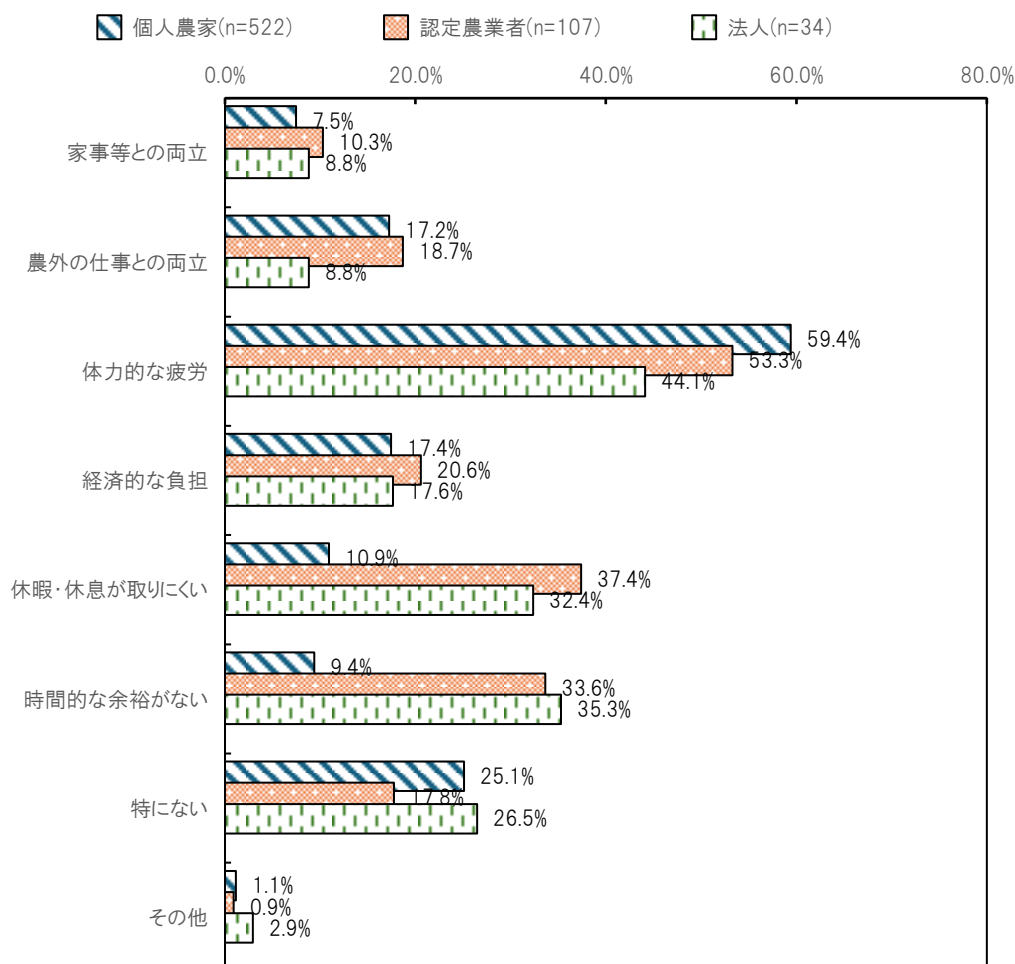


図表 55 【前回比較・法人】 農業経営の課題（経営に関すること）



問17. 農業経営を続けていくうえでの課題や困っていることを教えてください。(生活に関すること) (3つまで選択可)

図表 56 農業経営の課題 (生活に関すること)



「その他」の内容

①個人農家

- 高齢化
- 車の運転
- 生活費の高騰
- 全体の生きることへの意識がまだ育っていないこと。お金以上に上位に信頼ができるのは、土であり太陽や水であること。その本質的な理解を置き去りにして農は儲からない、効率が、など言ったところでどうにもならない。
- 年齢的

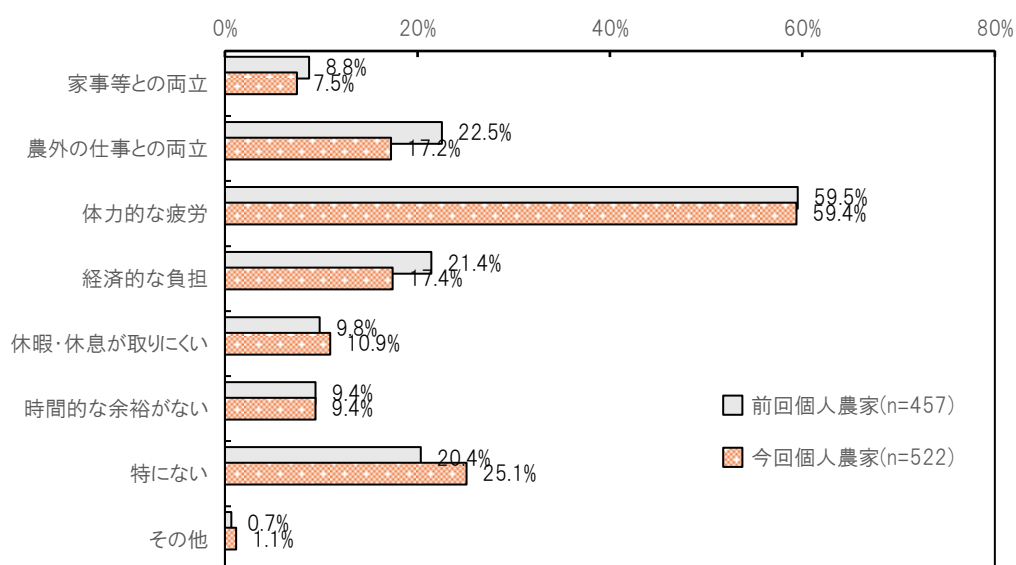
②認定農業者

- 高齢化

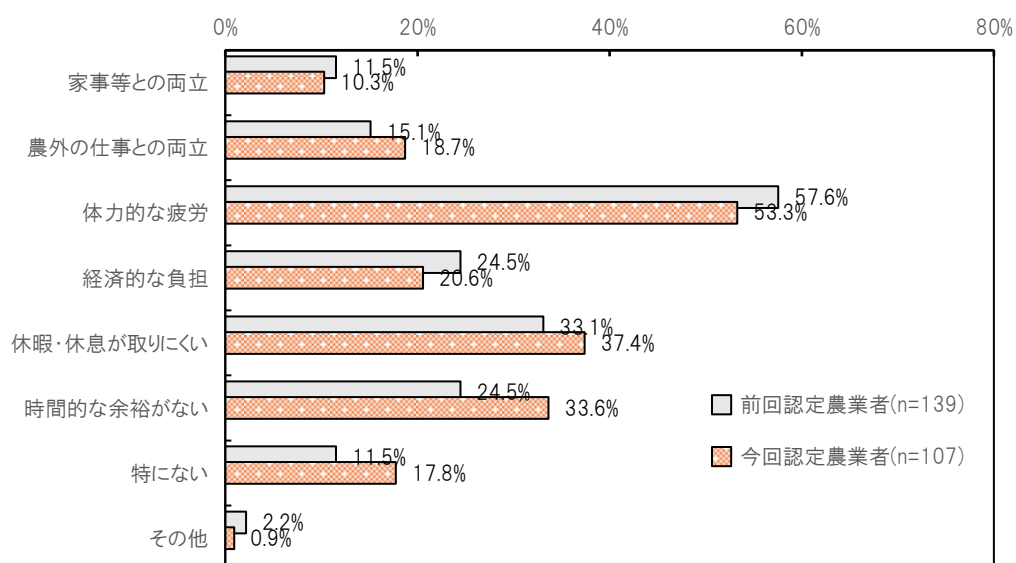
③法人

- 主たる作業者の高齢化

図表 57 【前回比較・個人農家】農業経営の課題（生活に関すること）



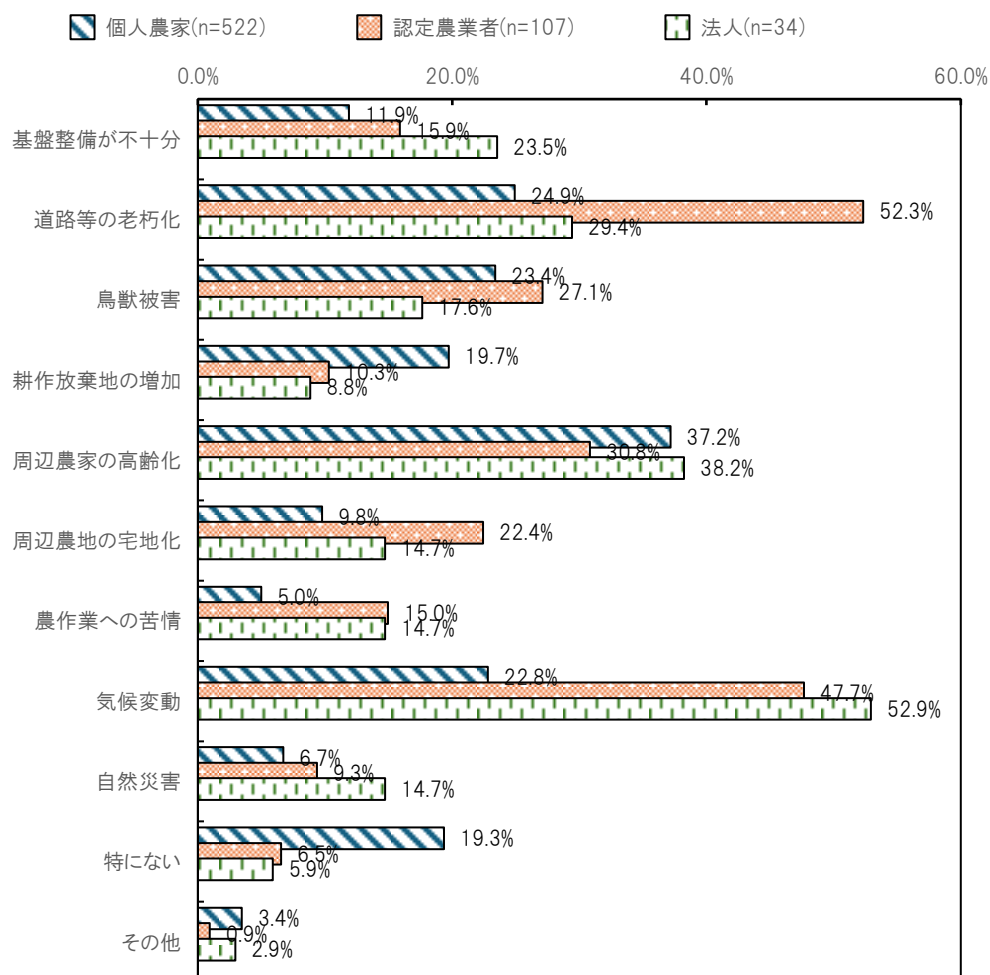
図表 58 【前回比較・認定農業者】農業経営の課題（生活に関すること）



※前回法人向けアンケートでは同旨の設問がないため、法人の前回比較は行わない

問18. 農業経営を続けていくうえでの課題や困っていることを教えてください。(周辺環境に関すること) (3つまで選択可)

図表 59 農業経営の課題 (周辺環境に関すること)



「その他」の内容

①個人農家

- あぜ草刈りをしない大規模農家に困っています
- カメ虫
- せぎの水路にフタをされてしまったこと
- とんりの酪農家が廃業したが荒れ放題で困る
- 悪臭(牛糞)
- 坂道で雨が降ると車が滑り作物が痛み危険な為舗装整備してほしい
- 作業委託者の減少

- 施設・設備の老朽化
- 自分の高齢化
- 自分の体力や興味にあったものを作りたいです。
- 生きることへの本質的理解を多くがする必要がある。おんぶに抱っこ政策ではなく、本当に困る体験を多くがする必要がある。その上で何が本質的に必要か各々が気づかなくてはならない。
- 早朝の草刈りの音(日中は暑くてできない)
- 草刈りの放置
- 騒音問題の提起される
- 土手にゴミのポイ捨てが多い
- 農家だと組合やせぎや JA や色々な役がまわってきて大変
- 末端の用水路の清掃放棄による水流の低下等改善の要あり。考えてもらいたいです。

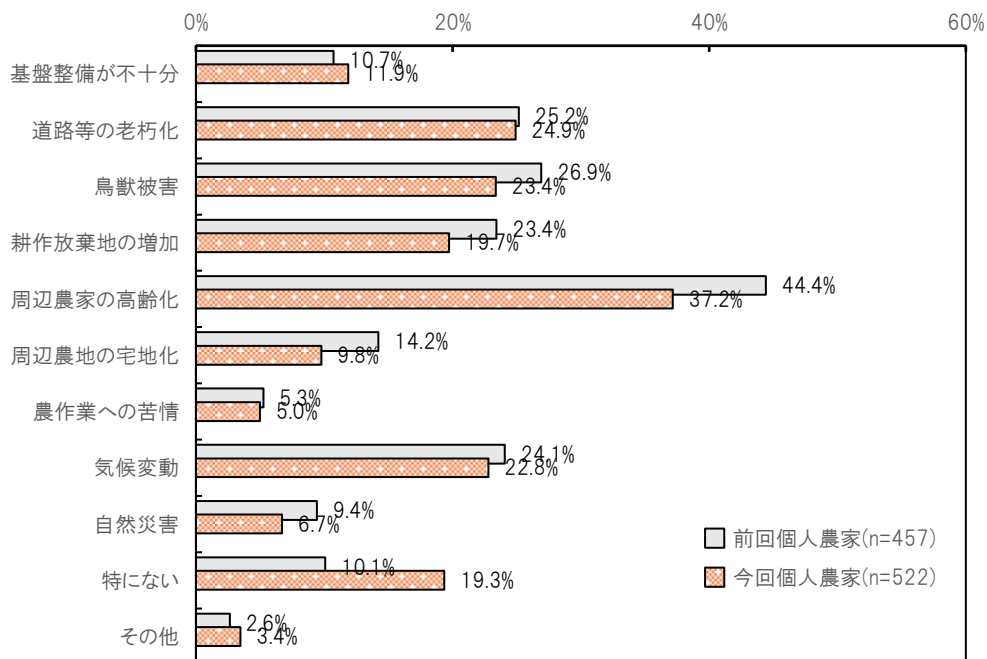
②認定農業者

- 環境保全への負担

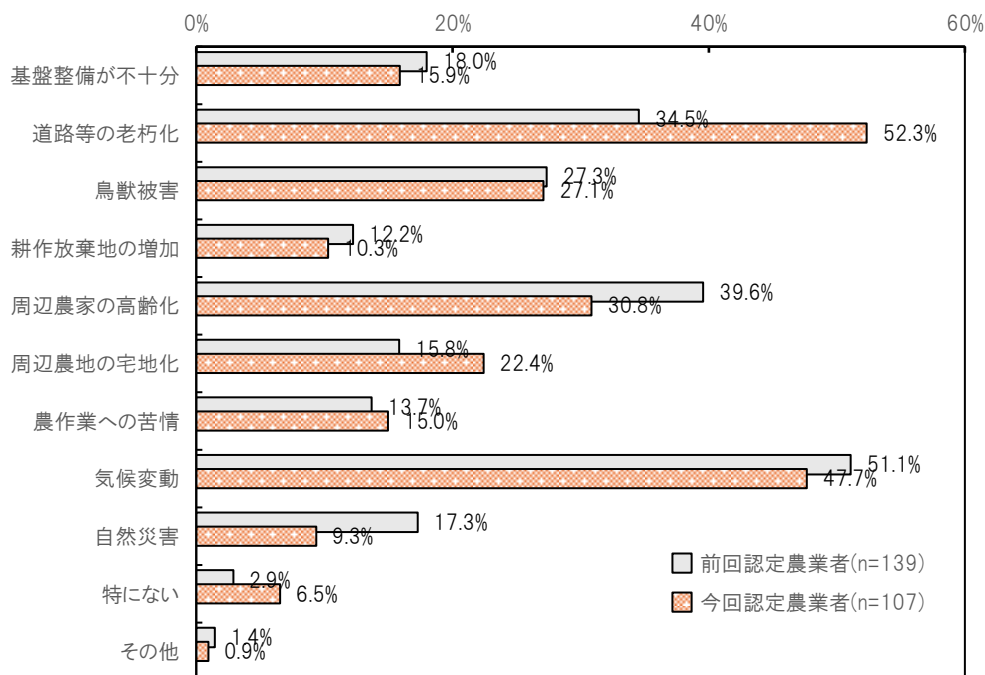
③法人

- 行政支援

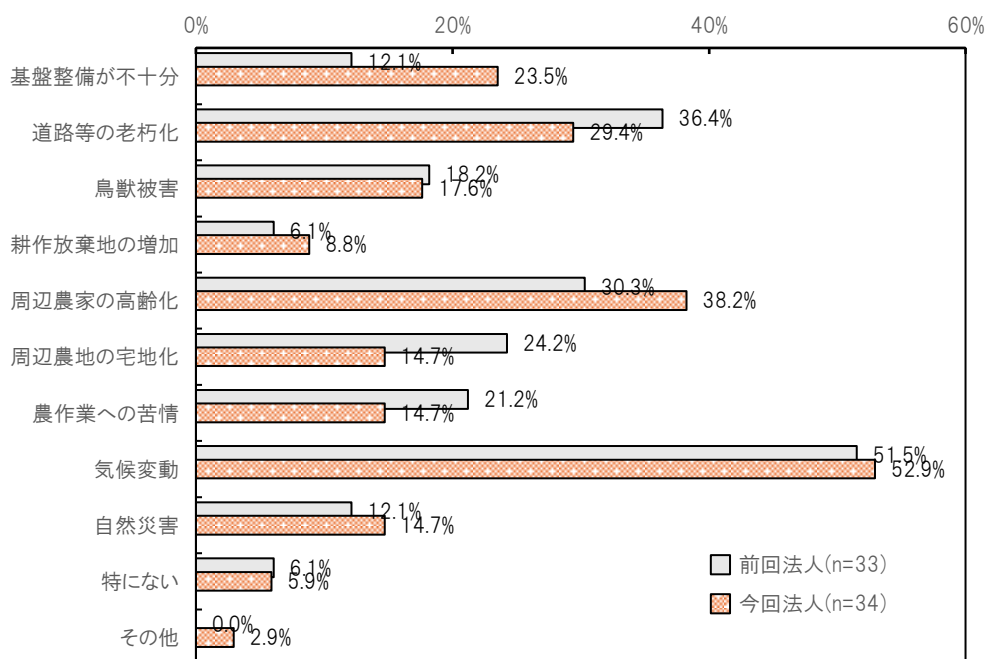
図表 60 【前回比較・個人農家】農業経営の課題（周辺環境に関すること）



図表 61 【前回比較・認定農業者】農業経営の課題（周辺環境に関すること）

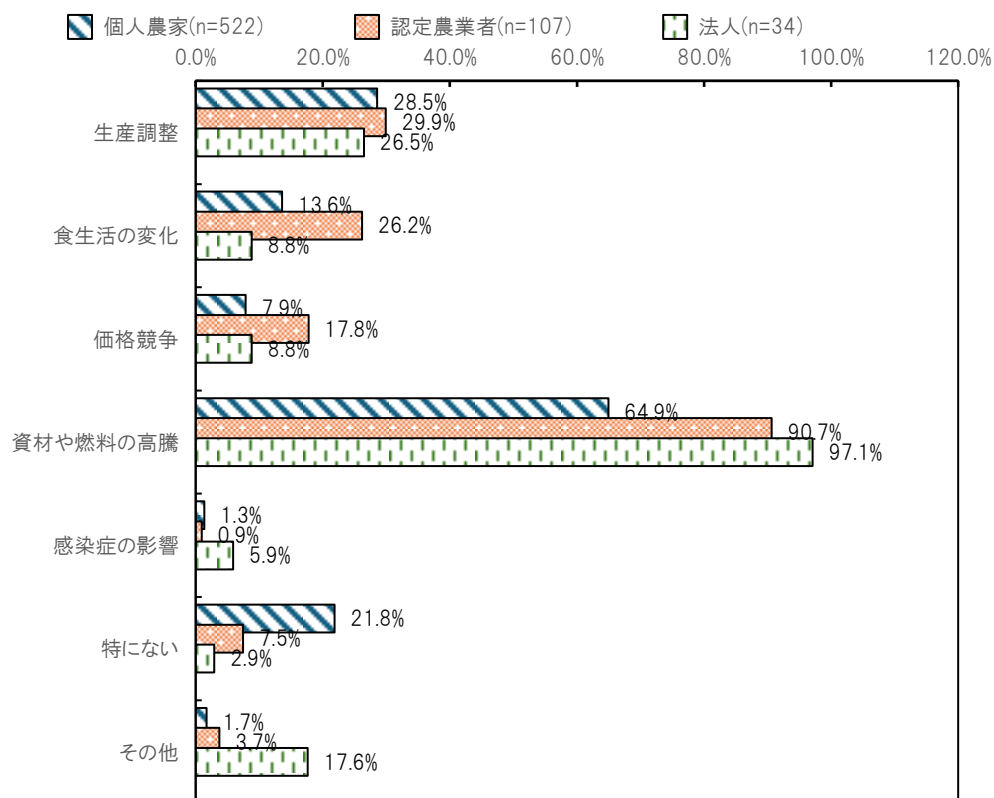


図表 62 【前回比較・法人】農業経営の課題（周辺環境に関すること）



問19. 農業経営を続けていくうえでの課題や困っていることを教えてください。(社会情勢に関すること) (3つまで選択可)

図表 63 農業経営の課題 (社会情勢に関すること)



「その他」の内容

①個人農家

- とおり近所のひっかみや気持ち
- 高齢で作業が出来ない
- 高齢化のため
- 政府の農業政策の不明確さ
- 他産地との競合による販売価格下落
- 地域の要望を議員が把握していない。区長任せである。
- 農家にかかわる組織が多すぎて役をこなさきれない!
- 農業従事者の絶対的不足
- 米の価格低迷

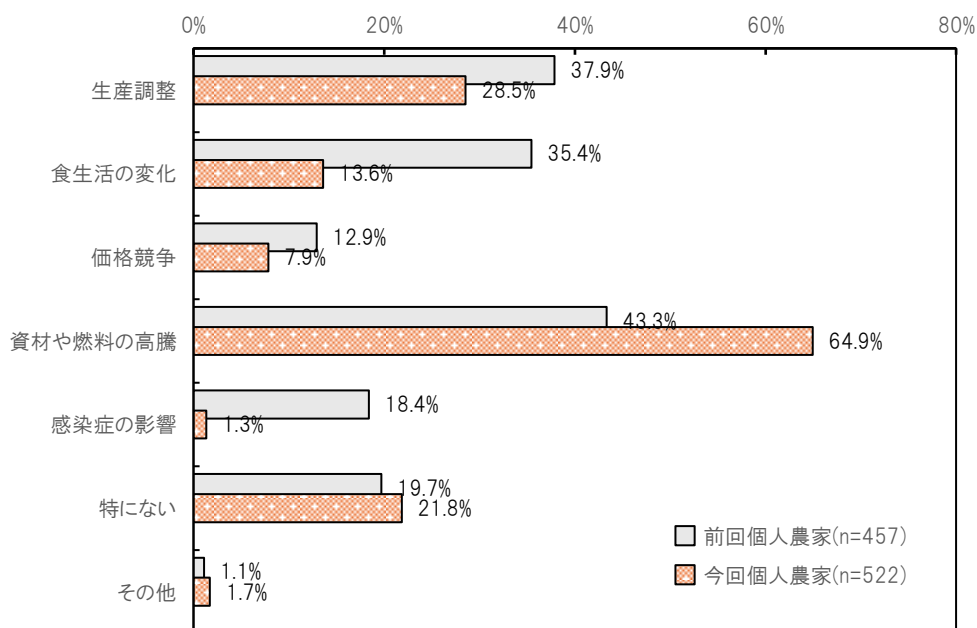
②認定農業者

- 近所の飼いネコ侵入によるビニールハウスの破損、ツメによる穴あけなど。施設に隣接した田畑のあぜ草放置による害虫の進入。
- 最低時給の上昇による人件費の負担増。毎年 20～30 万ずつ増えている。それに対して生産物の価格が上がらない。
- 消費者数の減少、贈答文化の縮小
- 政府農業政策の不透明化
- 農業機械や修理代の高騰

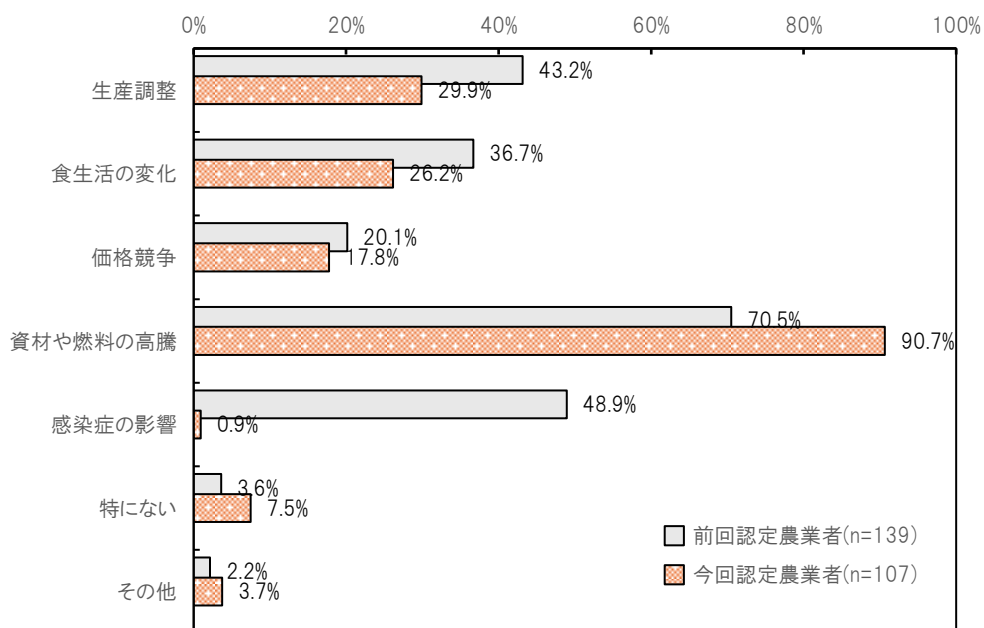
③法人

- 気候変動による生産物と労働環境への対応
- 国の農業政策(水田への水張りの件は忘れられません)
- 人材の確保、人件費の高騰
- 賃上げが義務化されている一方で、扶養の「130 万円の壁」が依然として存在し、労働者の就業調整が発生しています。結果として、賃上げを行っても実労働時間が減るため、事業者側・労働者側ともに負担が大きく、現場の実態に即した運用との乖離を感じています。
- 米価が不安定
- 国県市の農業支援

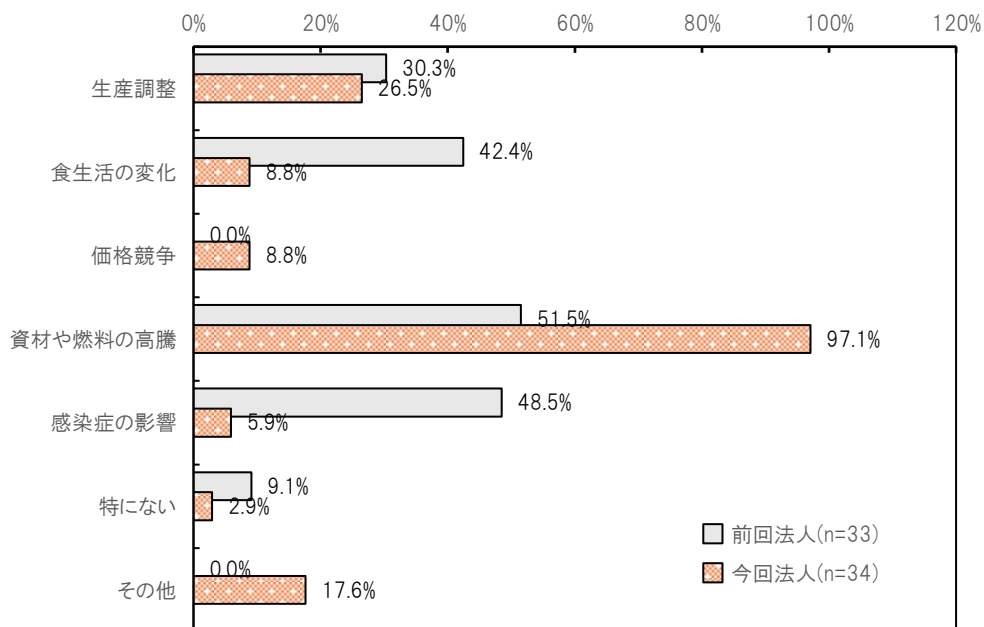
図表 64 【前回比較・個人農家】農業経営の課題（社会情勢に関すること）



図表 65 【前回比較・認定農業者】農業経営の課題（社会情勢に関すること）



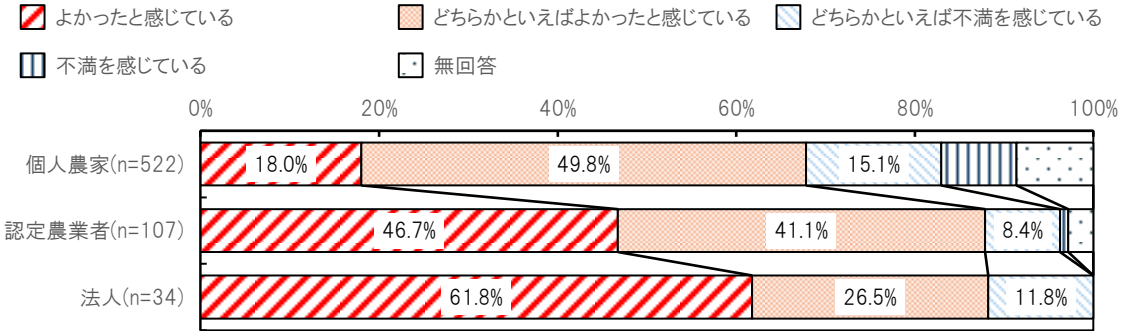
図表 66 【前回比較・法人】農業経営の課題（社会情勢に関すること）



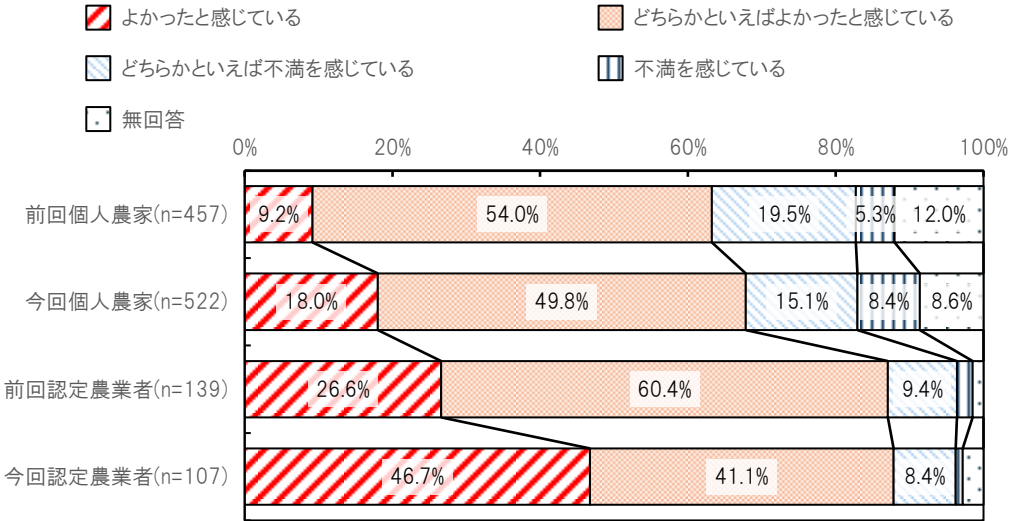
問20. ご回答者は、農業に携わっていることに対して、総合的にどのように感じていますか。

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
よかったと感じている	18.0%	46.7%	61.8%
どちらかといえばよかったと感じている	49.8%	41.1%	26.5%
どちらかといえば不満を感じている	15.1%	8.4%	11.8%
不満を感じている	8.4%	0.9%	0.0%
無回答	8.6%	2.8%	0.0%

図表 67 農業に携わっていることに対する満足度



図表 68 【前回比較】農業に携わっていることに対する満足度



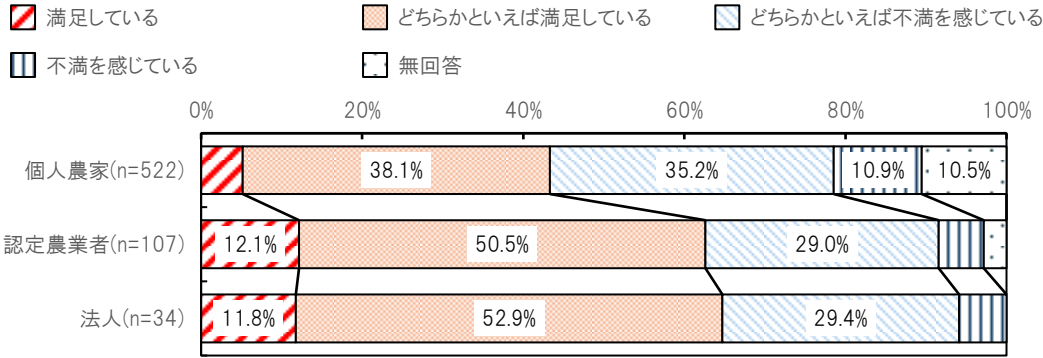
※前回調査では「大いによかったと感じている」「どちらかといえばよかったと感じている」「どちらかといえば不満を感じている」「大いに不満を感じている」と聞いた。

※前回法人向けアンケートでは同旨の設問がないため、法人の前回比較は行わない

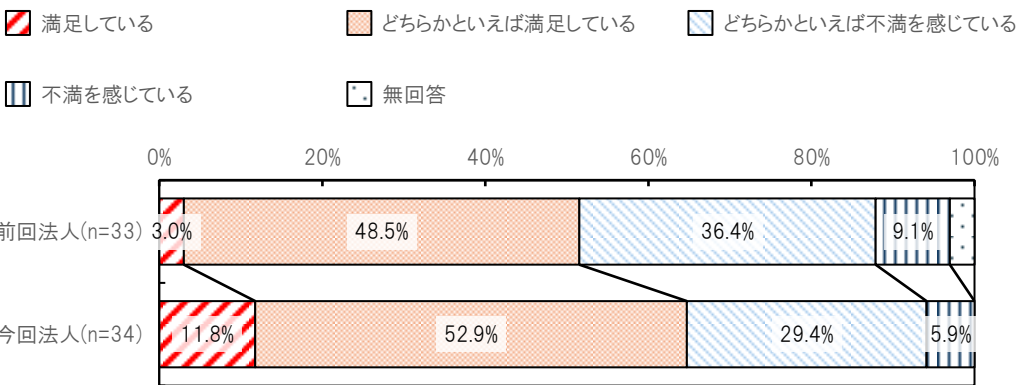
問21. ご回答者として、現在の農業経営環境について総合的にどのように感じていますか。

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
満足している	5.2%	12.1%	11.8%
どちらかといえば満足している	38.1%	50.5%	52.9%
どちらかといえば不満を感じている	35.2%	29.0%	29.4%
不満を感じている	10.9%	5.6%	5.9%
無回答	10.5%	2.8%	0.0%

図表 69 現在の農業経営環境への満足度



図表 70 【前回比較】現在の農業経営環境への満足度



※前回調査では「おおいに満足している」「どちらかといえば満足している」「どちらかといえば不満を感じている」「おおいに不満を感じている」と聞いた。

※前回個人農家・認定農業者向けアンケートでは同旨の設問がないため、個人農家・認定農業者の前回比較は行わない

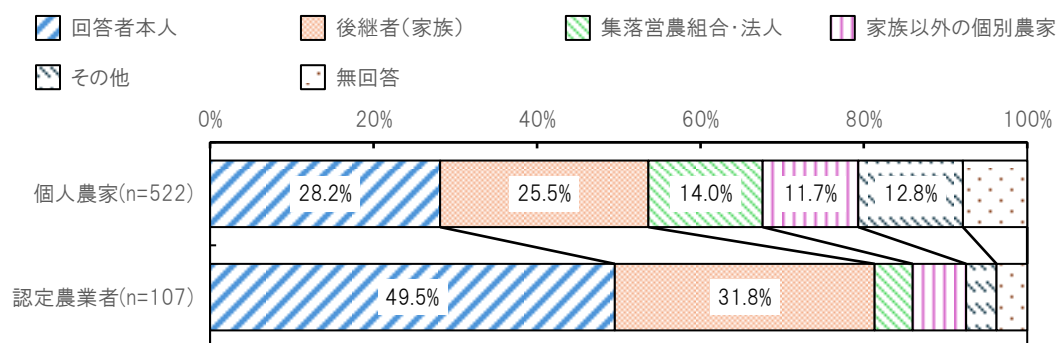
3. 今後の農業経営について

(1) 将来の農業経営について

問22. 現時点でご回答者が耕作されている農地は、10年後にはどなたが耕作する予定ですか。※個人農家、認定農業者のみ

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)
回答者本人	28.2%	49.5%
後継者(家族)	25.5%	31.8%
集落営農組合・法人	14.0%	4.7%
家族以外の個別農家	11.7%	6.5%
その他	12.8%	3.7%
無回答	7.9%	3.7%

図表 71 10年後の耕作者予定(個人・認定農業者)



「その他」の内容

①個人農家

➤ 個人農家で「その他」と回答した方の内容をみると、「後継者なし」「後継者未定」「わからない」等の回答が約8割弱を占めている。

「後継者なし」「後継者未定」「わからない」等以外の内容

- やめたい
- 元気又運転出来れば私
- 相続人
- 貸借、または委託
- 貸与者へ返却
- 宅地化
- 売却

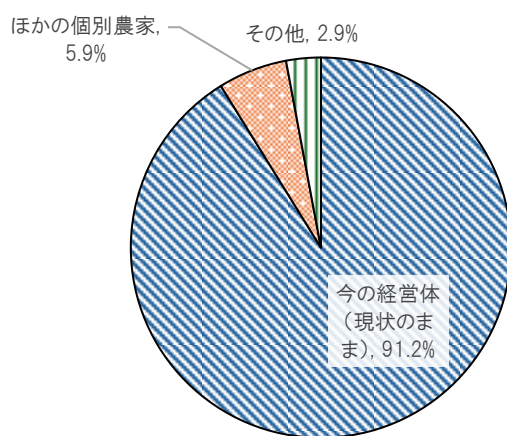
②認定農業者

- 10年先に委託先があるか
- わからない
- 他法人企業
- 法人化予定で次の代表者(外部)

問23. 現時点でご回答者の経営体が耕作されている農地は、10年後にはどなたが耕作する予定ですか。※法人のみ

	法人(n=34)
今の経営体（現状のまま）	91.2%
ほかの個別農家	5.9%
その他	2.9%

図表 72 10年後の耕作者予定（法人）

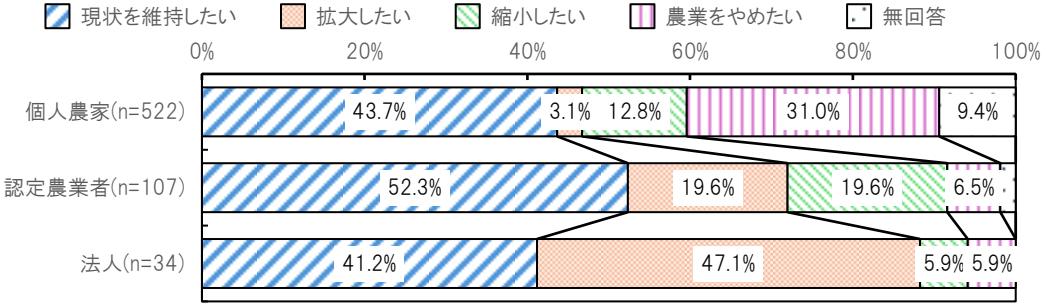


(n=34)

問24. ご回答者は10年後の農業経営についてどのようにお考えですか。(経営規模について)

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
現状を維持したい	43.7%	52.3%	41.2%
拡大したい	3.1%	19.6%	47.1%
縮小したい	12.8%	19.6%	5.9%
農業をやめたい	31.0%	6.5%	5.9%
無回答	9.4%	1.9%	0.0%

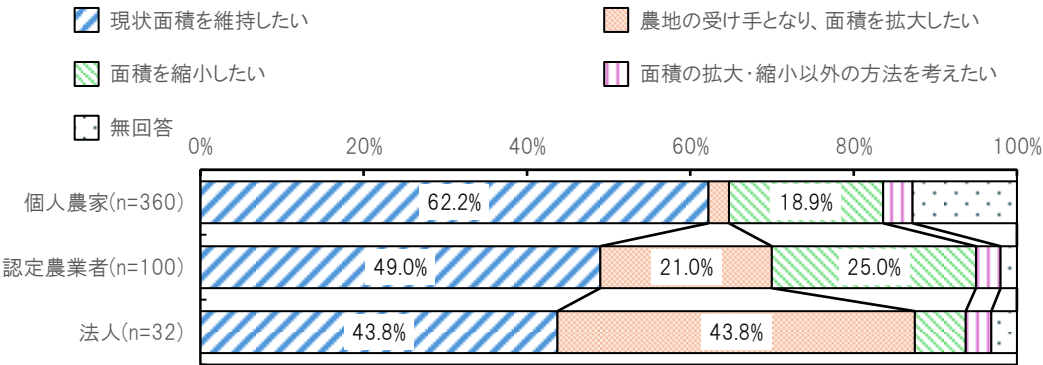
図表 73 10年後の農業経営（経営規模への考え）



問25. ご回答者は10年後の農業経営についてどのようにお考えですか。(経営方法について) ※問24で「農業をやめたい」と回答した方以外のみ

	個人農家(n=360)	認定農業者(n=100)	法人(n=32)
現状面積を維持したい	62.2%	49.0%	43.8%
農地の受け手となり、面積を拡大したい	2.5%	21.0%	43.8%
面積を縮小したい	18.9%	25.0%	6.3%
面積の拡大・縮小以外の方法を考えたい	3.6%	3.0%	3.1%
無回答	12.8%	2.0%	3.1%

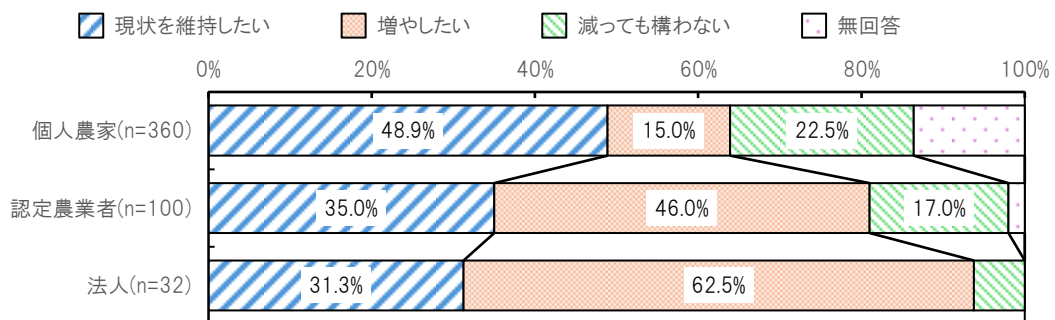
図表 74 10年後の農業経営（経営方法への考え）



問26. ご回答者は10年後の農業経営についてどのようにお考えですか。(農業所得、年間純利益について) ※問24で「農業をやめたい」と回答した方以外のみ

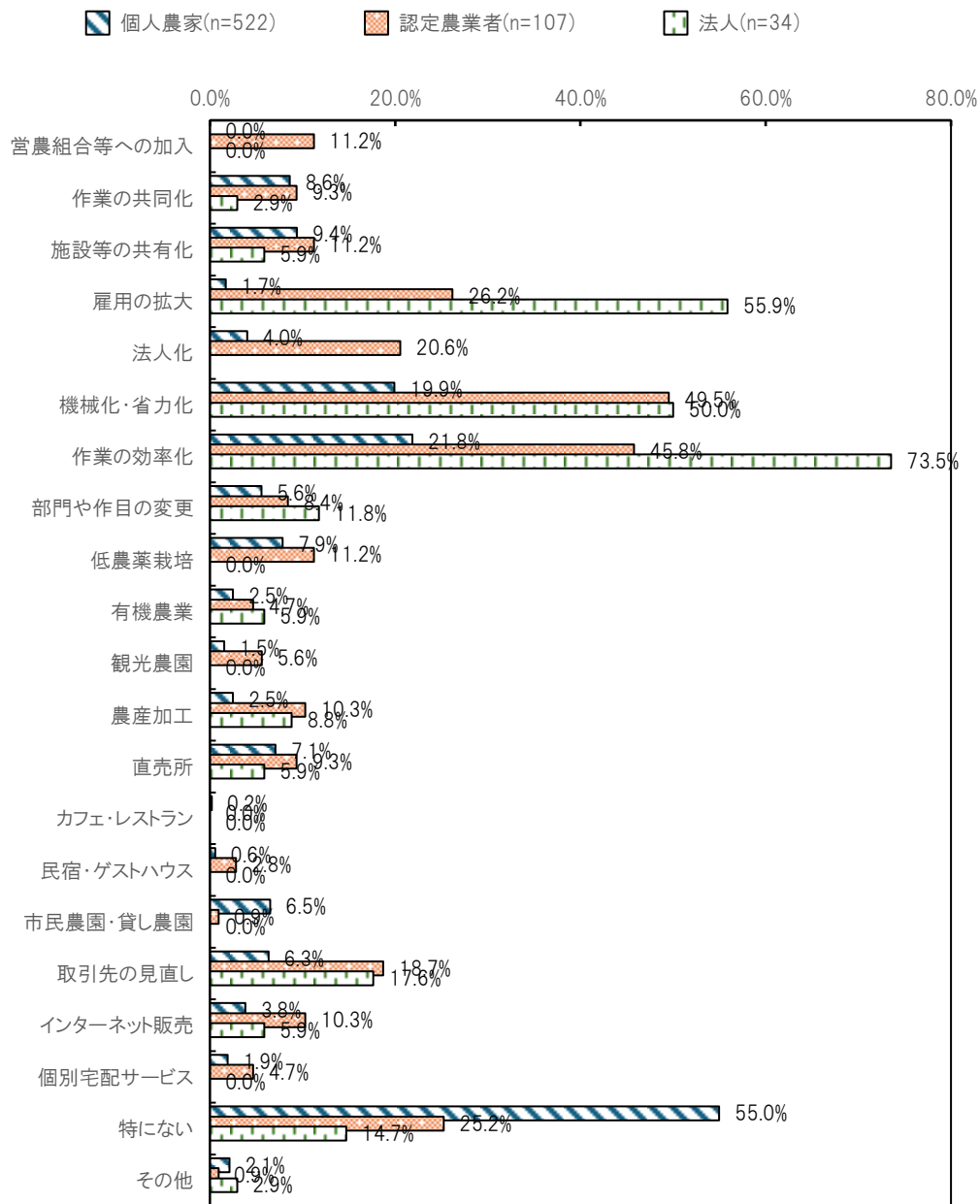
	個人農家(n=360)	認定農業者(n=100)	法人(n=32)
現状を維持したい	48.9%	35.0%	31.3%
増やしたい	15.0%	46.0%	62.5%
減っても構わない	22.5%	17.0%	6.3%
無回答	13.6%	2.0%	0.0%

図表 75 10年後の農業経営（農業所得・年間純利益への考え）



問27. 農業経営に対し、将来的に導入を検討していることを教えてください。(3つまで選択可)

図表 76 将来的に導入を検討していること



「その他」の内容

①個人農家

- JA で良い
- 耕種農家への委託
- 子供、孫の事業のための農地転用

- 自家用のみ…なので
- 住宅化
- 生きることへの教育を無くして政策は機能なし。
- 貸与
- 宅地化
- 当面 JA 以外に考えられない
- 付加価値増大
- 離農

②認定農業者

- 温度、湿度等スマート農業可能なハウス施設導入

③法人

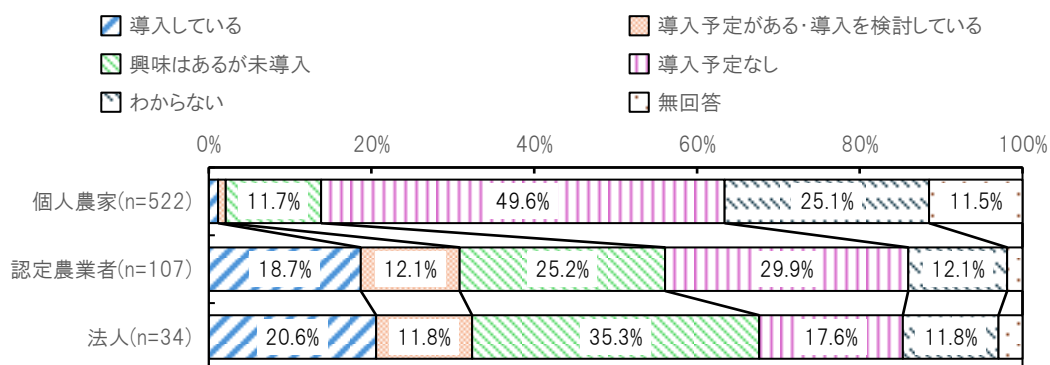
- 配分金単価減額への見直し

(2)スマート農業について

問28. スマート農業を取り入れていますか

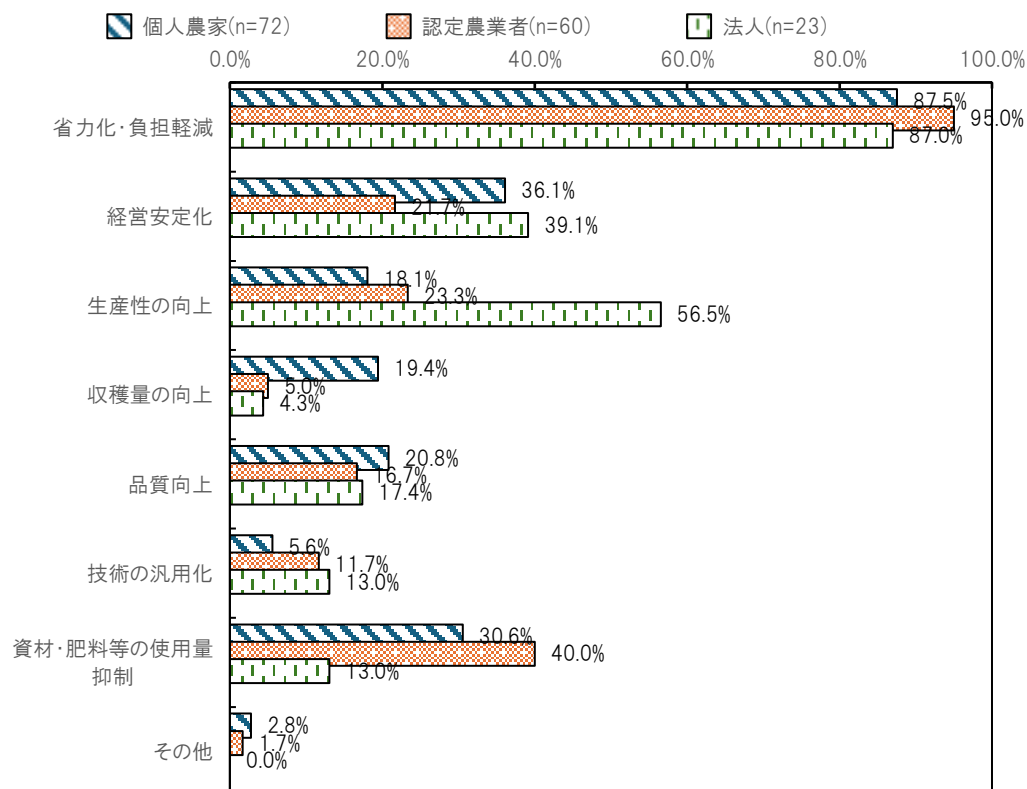
	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
導入している	1.1%	18.7%	20.6%
導入予定がある・導入を検討している	1.0%	12.1%	11.8%
興味はあるが未導入	11.7%	25.2%	35.3%
導入予定なし	49.6%	29.9%	17.6%
わからない	25.1%	12.1%	11.8%
無回答	11.5%	1.9%	2.9%

図表 77 スマート農業の導入状況



問29. スマート農業に期待する効果は何ですか。(3つまで選択可)
 ※問 28 で「導入している」「導入予定がある・導入を検討している」「興味はあるが未導入」と回答した方のみ

図表 78 スマート農業に期待する効果



「その他」の内容

①個人農家

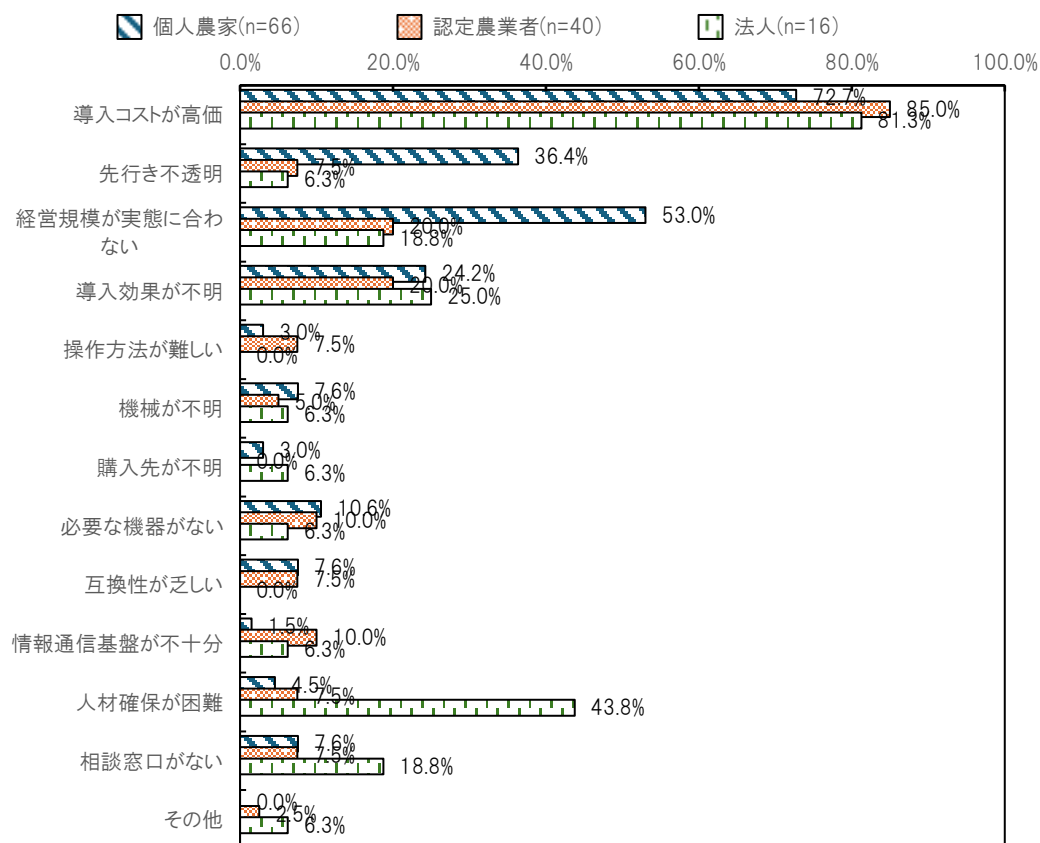
- ドローンによる田植で田植機械を不要にして機械代を減らす
- 行政も本気で対処してほしい

②認定農業者

- 気候変動への対応処理

問30. スマート農業を導入するにあたっての課題は何ですか。(3つまで選択可)
 ※問28「導入予定がある・導入を検討している」「興味はあるが未導入」と回答した方のみ

図表 79 スマート農業導入にあたっての課題



「その他」の内容

①認定農業者

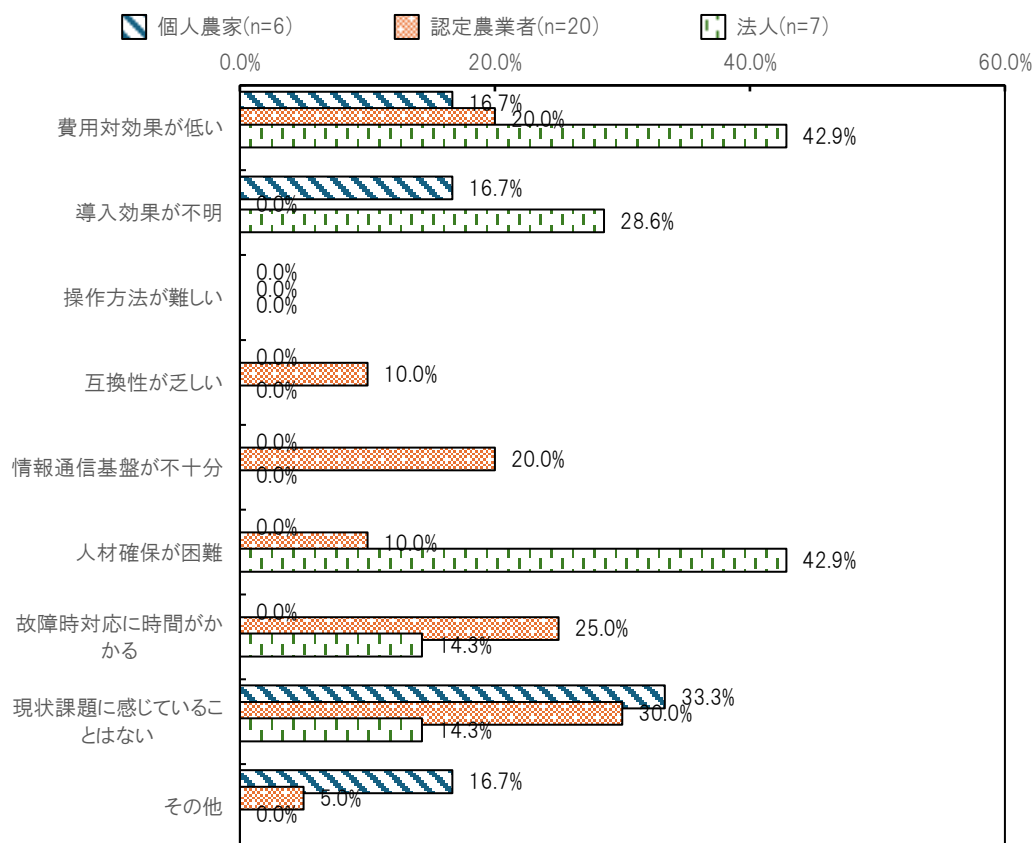
- 理想は全作物型対応の施設に係るメーカーの技術力が不足

②法人

- 費用対効果が不透明

問31. スマート農業を導入した後の課題は何ですか。(3つまで選択可)
 ※問28で「導入している」と回答した方のみ

図表 80 スマート農業導入後の課題



「その他」の内容

①個人農家

- 環境測定を行なっているが、収集したデータの分析から結果から、その後の設備導入を検討しているが、費用が高く追加導入が難しいのではないかと考えている。

②認定農業者

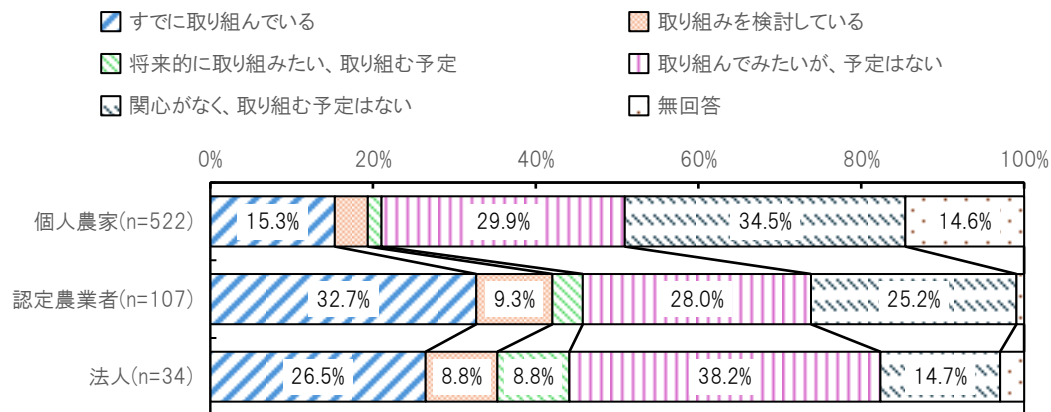
- 効果を検討中

(3) やさしい農業について

問32. ご回答者の世帯は有機農業など環境にやさしい農業に取り組んでいますか。

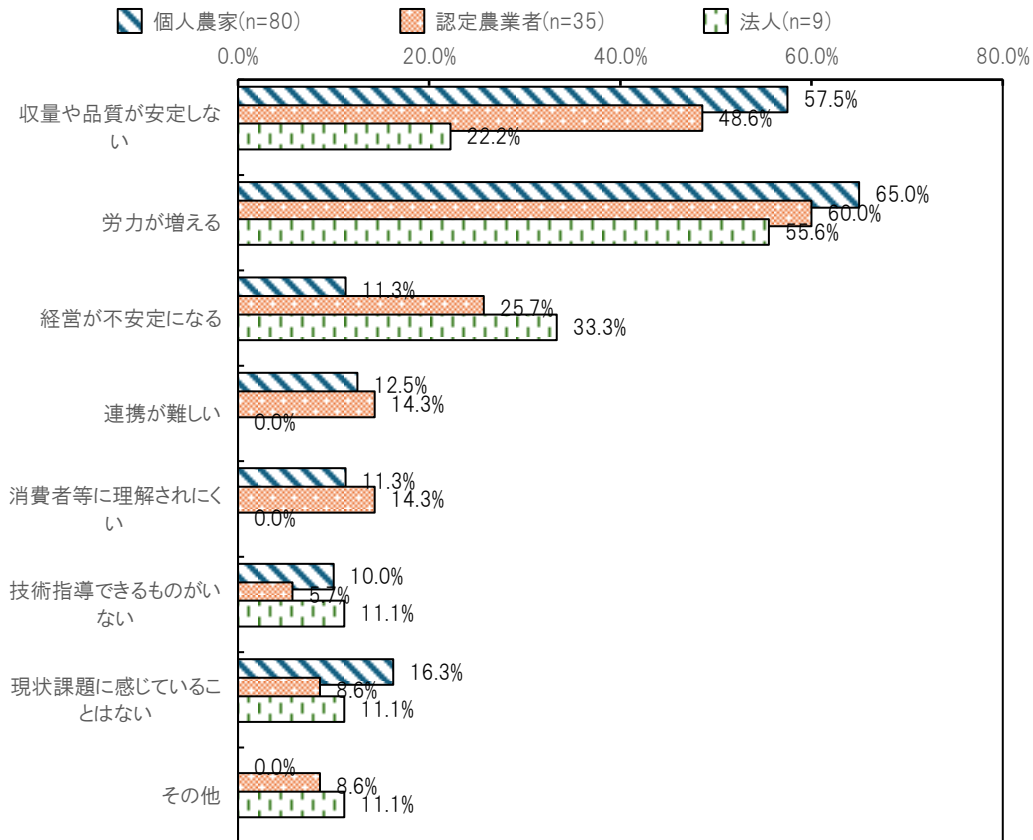
	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
すでに取り組んでいる	15.3%	32.7%	26.5%
取り組みを検討している	4.0%	9.3%	8.8%
将来的に取り組みたい、取り組む予定	1.7%	3.7%	8.8%
取り組んでみたいが、予定はない	29.9%	28.0%	38.2%
関心がなく、取り組む予定はない	34.5%	25.2%	14.7%
無回答	14.6%	0.9%	2.9%

図表 81 環境にやさしい農業への取り組みの有無



問33. ご回答者の世帯が有機農業など環境にやさしい農業に取り組む中で感じている課題はなんですか。(3つまで選択可)
 ※問32で「すでに取り組んでいる」と回答した方のみ

図表 82 環境にやさしい農業に取り組む中での課題



「その他」の内容

①認定農業者

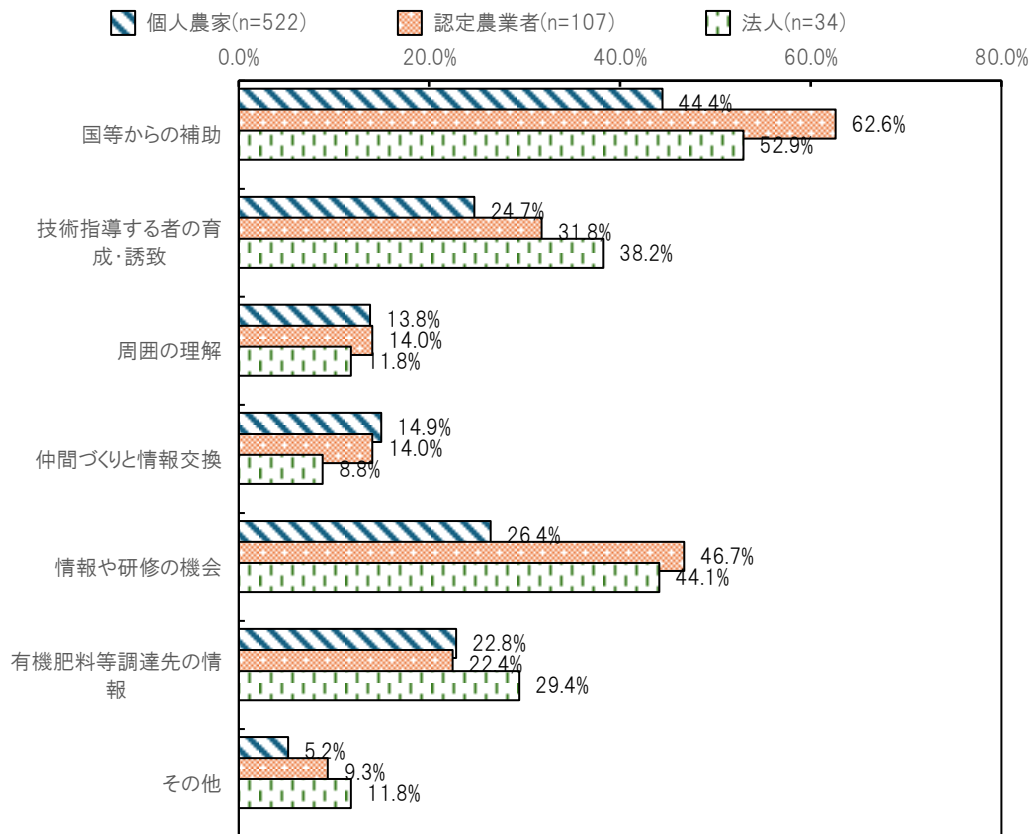
- 50%有機質肥料使用
- そもそも夏暑すぎて、うまくいかない事が多々
- 流通の拡大、共同出荷等

②法人

- 農薬や肥料に頼らない栽培ほど灌水設備の整備を要する。大きな資金が必要。

問34. ご回答者の世帯が有機農業など環境にやさしい農業に取り組むために必要だと思うものはなんですか。(3つまで選択可)

図表 83 環境にやさしい農業に取り組むために必要なこと



「その他」の内容

①個人農家

- ない
- 害虫の防除、除草作業において、ボランティアで作業してくれる人材、オーガニック信者であれば尚良い
- 関心なし
- 高齢につき、作業できない。知人まかせ。
- 今のままで
- 今のを作るのでいっぱいです
- 今までより作業が楽になる方法の確立
- 取り組む意図なし
- 取り組んでくれる人を探す

- 消費の理解
- 消費者の意識
- 消費者の理解(病虫害被害の為)
- 特になし
- 特に考えてはいない
- 農・林・畜・水産廃棄物のリサイクルシステムの構築
- 農業せず 先代からの土地をただ貸してるだけの身なので 回答に困ります
- 販売ルートを作って欲しい
- 不明
- 有機農業は労力の割に収益につながらないというイメージがあります。労力がかからず、コスト的にもメリットがあるという状況が必要と思います。
- 有機肥料が高すぎる
- 余裕(心、生活資金)

②認定農業者

- B5 資材の的確な情報
- そもそも取り組む必要性がない。
- 安すぎる対価の是正。
- 興味なし
- 高温対策
- 消費者の理解
- 生産物の収量、品質の不安定に対する懸念
- 農業者はもちろん消費者の意識
- 有機農産物に供用可能な殺菌剤殺虫剤の拡大
- いわゆる雑草、外来植物への知識と対応力

③法人

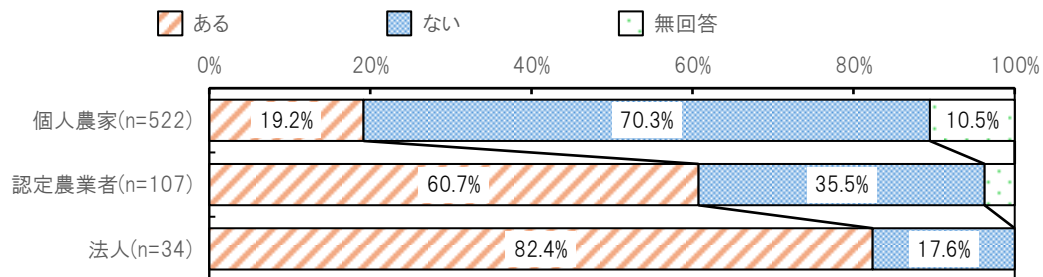
- 価格
- 設問に言う「環境にやさしい農業」の定義が不明です

(4)地産地消について

問35. ご回答者の世帯では現在、地元向けに出荷・販売している農産物がありますか。

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
ある	19.2%	60.7%	82.4%
ない	70.3%	35.5%	17.6%
無回答	10.5%	3.7%	0.0%

図表 84 地元向け出荷・販売の有無

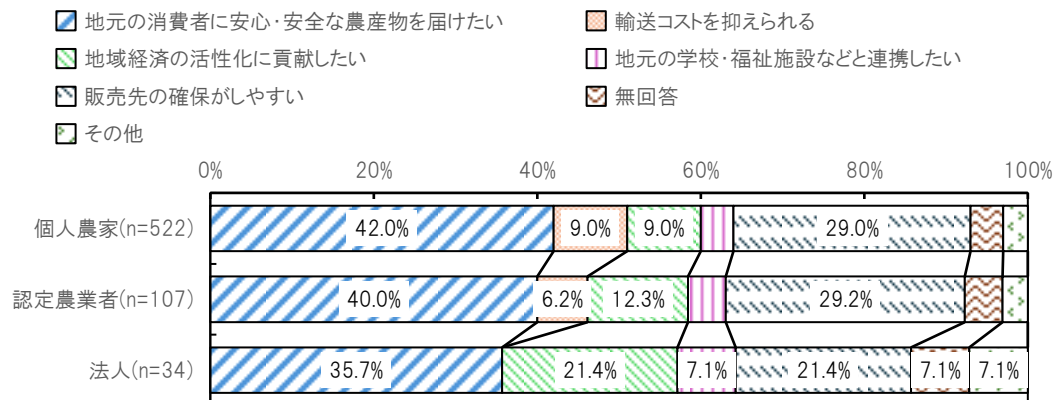


問36. ご回答者の世帯が地産地消に取り組む最も大きな理由は何ですか。

※問35で「ある」と回答した方のみ

	個人農家(n=100)	認定農業者(n=65)	法人(n=28)
地元の消費者に安心・安全な農産物を届けたい	42.0%	40.0%	35.7%
輸送コストを抑えられる	9.0%	6.2%	0.0%
地域経済の活性化に貢献したい	9.0%	12.3%	21.4%
地元の学校・福祉施設などと連携したい	4.0%	4.6%	7.1%
販売先の確保がしやすい	29.0%	29.2%	21.4%
無回答	4.0%	4.6%	7.1%
その他	3.0%	3.1%	7.1%

図表 85 地産地消に取り組む理由



「その他」の内容

①個人農家

- ほしいというからやる。知人、親戚。
- 自家消費以上に農産物が出来るため
- 直売所

②認定農業者

- 環境に優しい。地元で出来たものはそこで食するのが1番。
- 利益

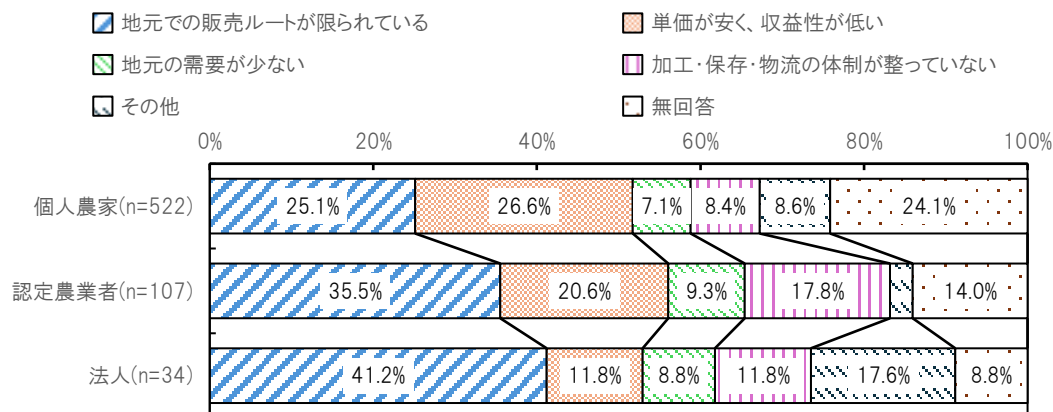
③法人

- 地元の消費者からの要望による

問37. ご回答者の世帯が地産地消に取り組むうえでの最も大きな課題は何ですか。

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
地元での販売ルートが限られている	25.1%	35.5%	41.2%
単価が安く、収益性が低い	26.6%	20.6%	11.8%
地元の需要が少ない	7.1%	9.3%	8.8%
加工・保存・物流の体制が整っていない	8.4%	17.8%	11.8%
その他	8.6%	2.8%	17.6%
無回答	24.1%	14.0%	8.8%

図表 86 地産地消に取り組むための課題



「その他」の内容

①個人農家

- JA 出荷で足りている
- すべて自家用
- ない
- なし
- わからない
- 県で行ったエコファーマーは怎么样了いるか？
- 考えた事が無い
- 高齢
- 高齢化
- 今のままで
- 作付なし
- 自家消費する
- 自給自足のため課題なし
- 取り組まない
- 取り組む予定が無い
- 取り組んでいない
- 手軽に出荷できる物産センター等(農産物直売所)の店舗が少ない
- 親族、知人に分けているので課題には感じていない
- 親類へ渡している
- 人手不足
- 生産、消費の計画性
- 生産者、ユーザーの意識
- 生産者の減少でブランド化にならない。魅力ある農業への勉強会。
- 地産地消に取り組む時間がない
- 仲間作り
- 特になし
- 特にありません
- 販売なし
- 販売は考えていない
- 米は JA に出荷しているので JA 次第

- 米生産だけですので全て農協へ出荷
- 労働力不足で付加価値に対応できないし、流通ができていない

②認定農業者

- 消費者の理解
- 特にナシ

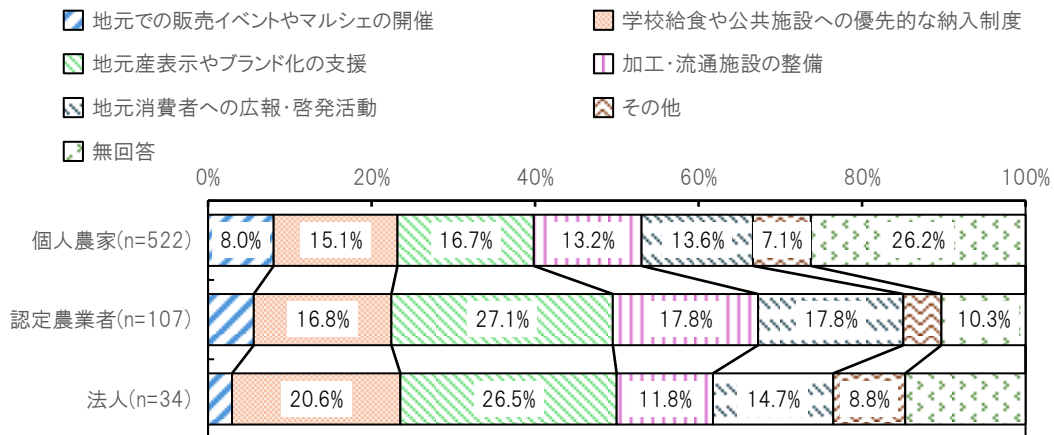
③法人

- できる範囲の対応であるため特に課題はない
- 現状ではほぼ自社消費のため課題なし
- 考えていない
- 生産者と利用者のニーズをとりもつ支援

問38. ご回答者の世帯が地産地消を進めるために、どのような支援があればよいと思いますか。

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
地元での販売イベントやマルシェの開催	8.0%	5.6%	2.9%
学校給食や公共施設への優先的な納入制度	15.1%	16.8%	20.6%
地元産表示やブランド化の支援	16.7%	27.1%	26.5%
加工・流通施設の整備	13.2%	17.8%	11.8%
地元消費者への広報・啓発活動	13.6%	17.8%	14.7%
その他	7.1%	4.7%	8.8%
無回答	26.2%	10.3%	14.7%

図表 87 地産地消を進めるために必要な支援



「その他」の内容

①個人農家

- JA への指導
- ない
- なし
- わからない
- 苦勞にみあった価額
- 後継者づくり
- 公務員化
- 考えていない
- 支援の必要を感じていない。
- 自給自足のため課題なし

- 手軽に出荷できる店舗を増やす
- 生産指導
- 先進地の情報
- 特になし
- 特に思いつくものは無い
- 農機具購入補助
- 販売予定がない
- 分からない
- 味の良い物、品質の良いものの出荷
- 輸入にたよらない
- 予定が無いのでわからない

②認定農業者

- なし
- わからない
- 出荷者の選定、安売り競争防止策
- 保存の問題以外なし

③法人

- 考えていない

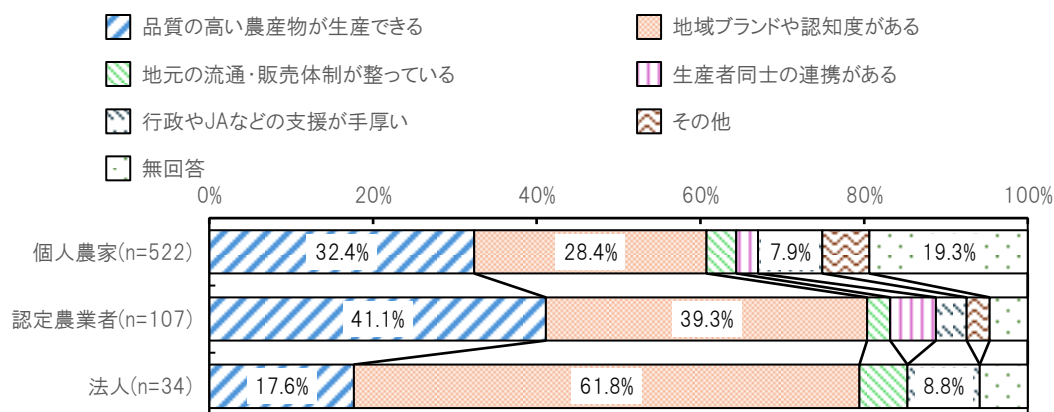
4. 今後の農業振興について

(1)地域ブランドについて

問39. ご回答者は安曇野市の農業の最も大きな強みは何だと感じていますか。

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
品質の高い農産物が生産できる	32.4%	41.1%	17.6%
地域ブランドや認知度がある	28.4%	39.3%	61.8%
地元の流通・販売体制が整っている	3.6%	2.8%	5.9%
生産者同士の連携がある	2.7%	5.6%	0.0%
行政やJAなどの支援が手厚い	7.9%	3.7%	8.8%
その他	5.7%	2.8%	0.0%
無回答	19.3%	4.7%	5.9%

図表 88 安曇野市の農業の強み



「その他」の内容

①個人農家

- なし
- よくわからない
- わからない
- 安曇野の自然環境
- 強みが無い
- 強みを感じない
- 高齢者が頑張っていたいこと。
- 災害が少ない

- 弱小すぎて答えられない
- 小面積、自家用
- 地の利
- 特にあるとは思えない
- 特になし
- 特にない
- 不明

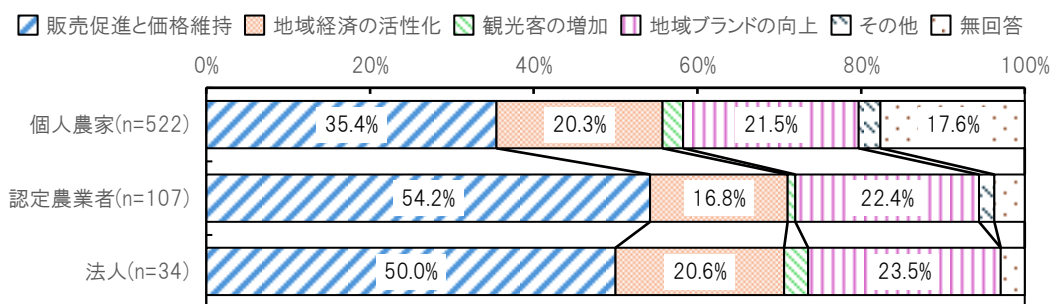
②認定農業者

- 「あずみの」というブランド
- なし
- なし、感じない

問40. 産地として認知度が高まることで、ご回答者が最も期待することは何ですか。

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
販売促進と価格維持	35.4%	54.2%	50.0%
地域経済の活性化	20.3%	16.8%	20.6%
観光客の増加	2.5%	0.9%	2.9%
地域ブランドの向上	21.5%	22.4%	23.5%
その他	2.7%	1.9%	0.0%
無回答	17.6%	3.7%	2.9%

図表 89 産地として認知度が高まることで期待すること



「その他」の内容

①個人農家

- なし
- わからない
- 価格を上げて頂きたい
- 価格上昇
- 産地の拡大
- 弱小すぎて答えられない
- 特になし

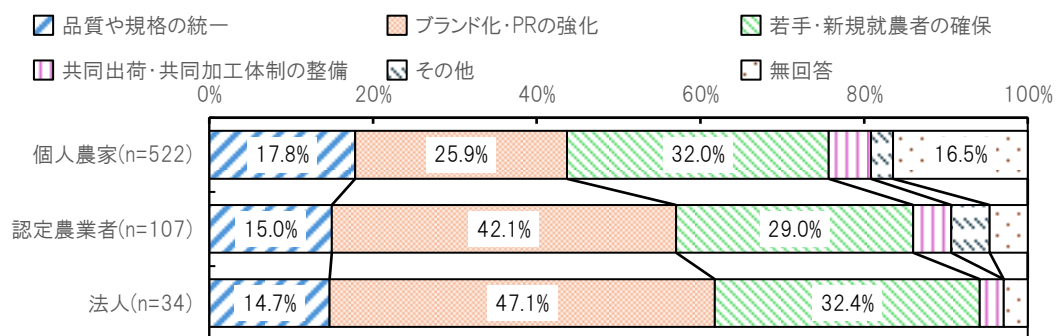
②認定農業者

- なし、JA にも市にも何も期待しない
- 就農者の増加

問41. 産地としての競争力を高めるためにご回答者が必要だと思うことは何ですか。最も優先度の高いものについてお答えください。

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
品質や規格の統一	17.8%	15.0%	14.7%
ブランド化・PRの強化	25.9%	42.1%	47.1%
若手・新規就農者の確保	32.0%	29.0%	32.4%
共同出荷・共同加工体制の整備	5.2%	4.7%	2.9%
その他	2.7%	4.7%	0.0%
無回答	16.5%	4.7%	2.9%

図表 90 産地としての競争力を高めるために必要なこと



「その他」の内容

①個人農家

- なし
- わからない
- 弱小すぎて答えられない
- 多様な販路
- 特になし
- 民間企業への委託
- 行政の本気度

②認定農業者

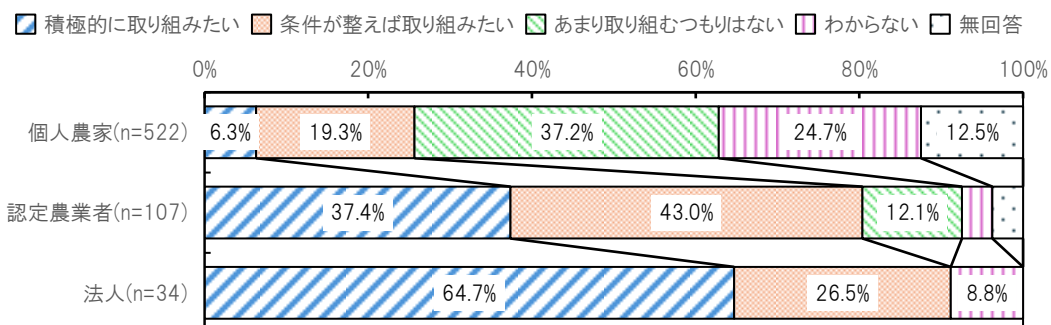
- オーガニックビレッジへの参加他環境を守る農業
- なし
- 気候変動に対応出来る技術、品種の選定又は作物の変更の検討
- 協同、協働の理解

- 生産者を前面に安曇野の農業者は楽しそうに農業をしているという広報活動
- 付加価値(有機・オーガニック・味)
- 農地属性の個別化、透明性の情報開示と農地属性に従った作物作付

問42. 今後、ご自身の農業経営において「生産力・品質・販売力の向上」に取り組む意欲はありますか。

	個人農家(n=522)	認定農業者(n=107)	法人(n=34)
積極的に取り組みたい	6.3%	37.4%	64.7%
条件が整えば取り組みたい	19.3%	43.0%	26.5%
あまり取り組むつもりはない	37.2%	12.1%	0.0%
わからない	24.7%	3.7%	8.8%
無回答	12.5%	3.7%	0.0%

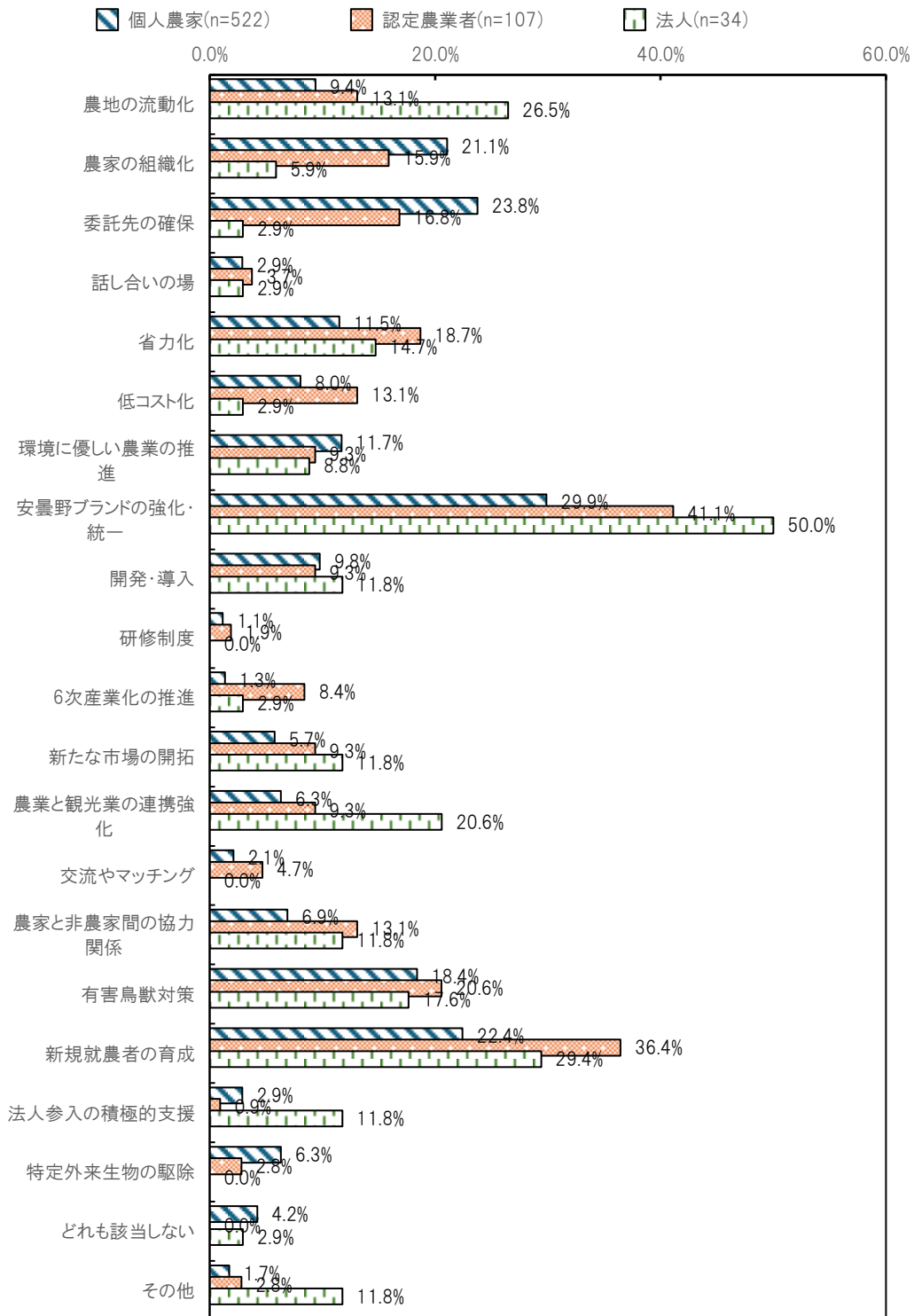
図表 91 「生産力・品質・販売力の向上」に取り組む意欲



(2)市全体の農業振興について

問43. 安曇野市の農業を振興するためにご回答者が重要だと感じることを教えてください。(3つまで選択可)

図表 92 安曇野市の農業振興に重要なこと



「その他」の内容

①個人農家

- もうかること
- 考えてません
- 自給を目的とした新規市場規模農家の育成
- 新規就農住宅の整備と田畑の宅地化の抑制。三郷地域の住宅(賃貸一軒家)情報が全く無く、新規就農を募ったところで住むところが無い。就農者住宅が 3 軒あるが、あと 4 年空かない。田畑の住居化(新築戸建)が進んでいるが抑制はできないものか。突然隣が農業に関連性のない家庭の住居になると、主に防除面で不都合が多々ある。
- 地産地消(国産国消)
- 農家に関わるいろいろな組織(組合、せぎ、JA 等)の地区役員の廃止
- 農業をやめたのにアンケートは不要だと思う
- 品質の良い物の販売

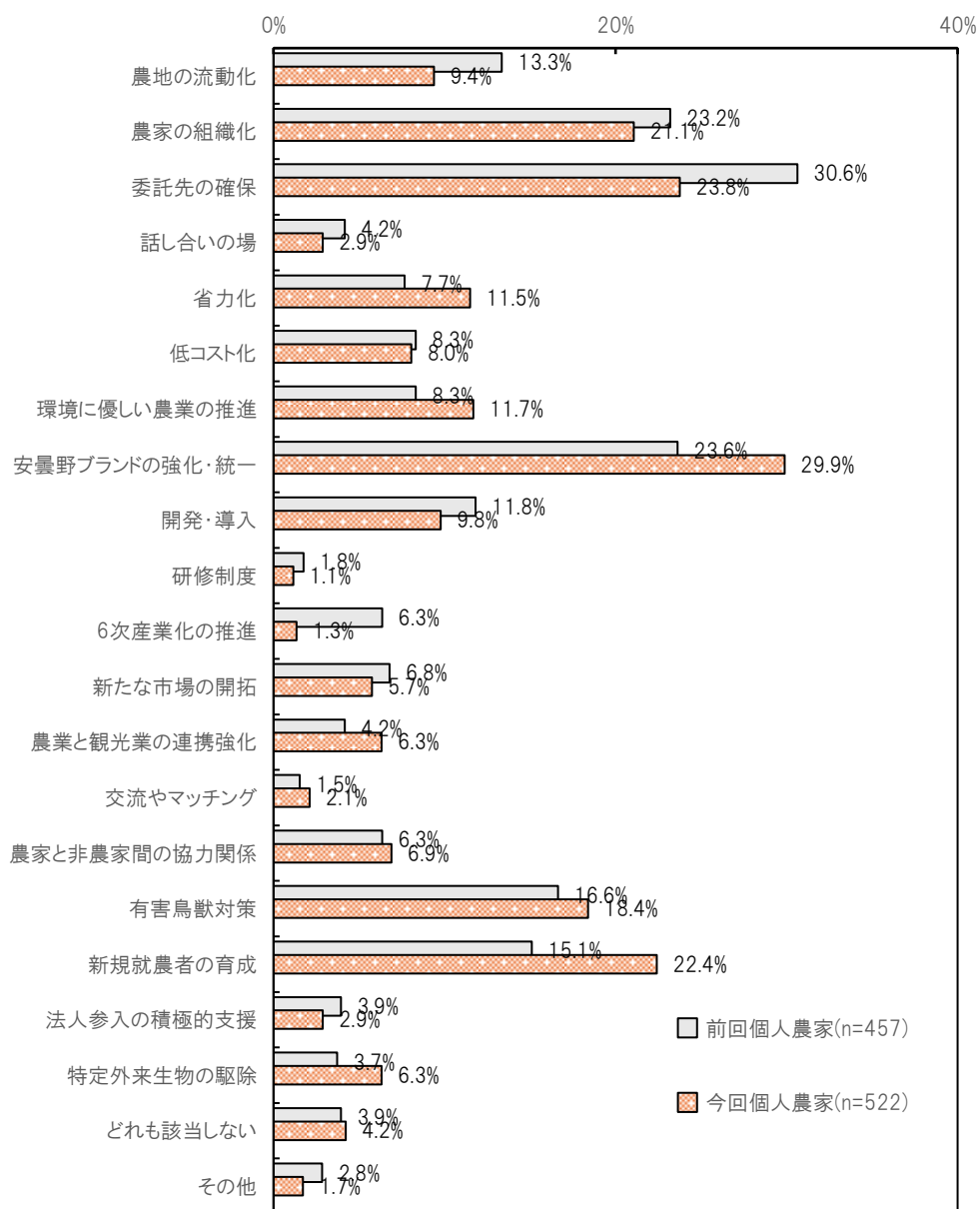
②認定農業者

- 国、県、市からの補助
- 農業機械高騰に対する補助
- 儲かるビジネスになる事。生産物が高くなったもこいつら儲けすぎ、どう言うことだと SNS 等では言われない雰囲気作り

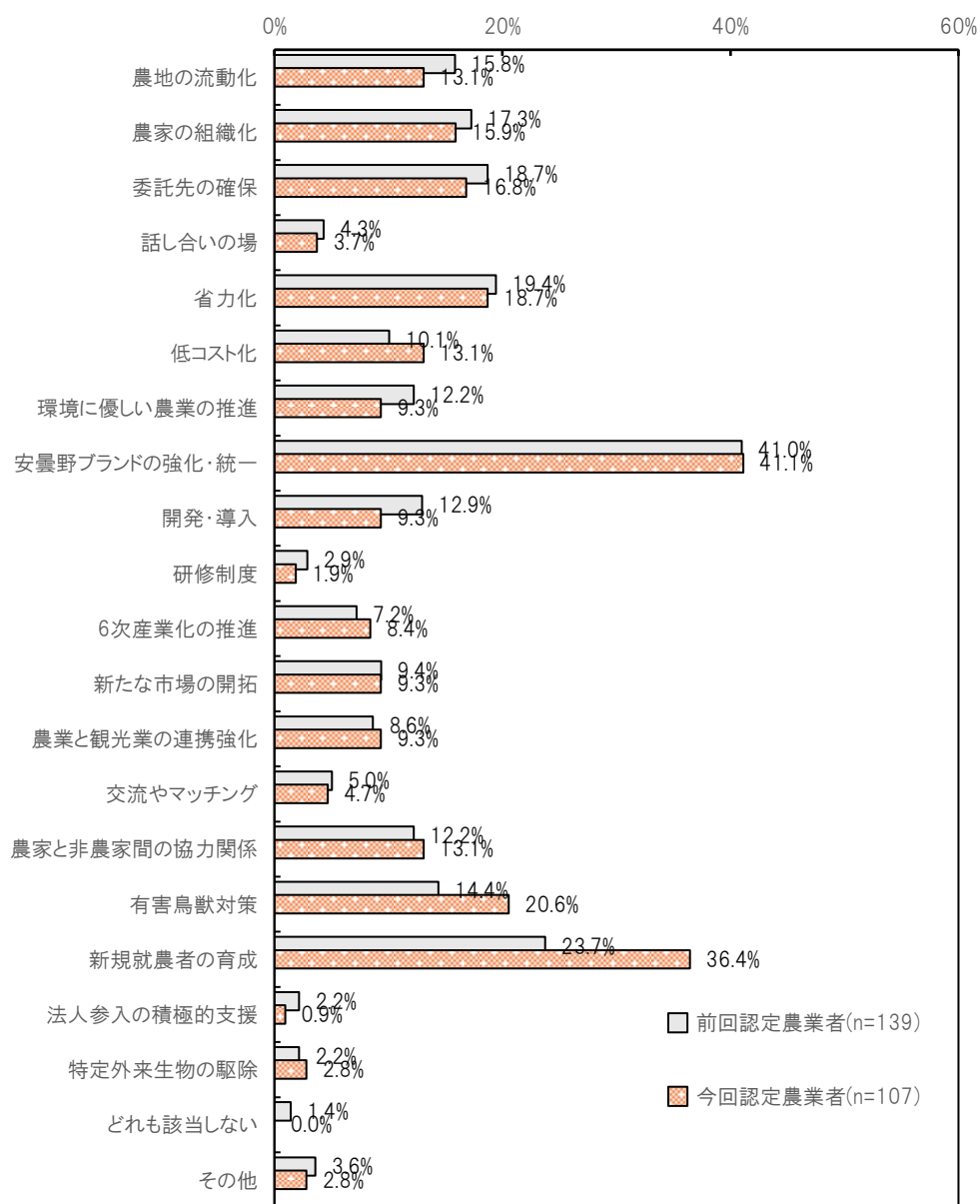
③法人

- 農業機械、施設建設に使える補助金の増額
- 農業生産現場のインフラ整備、大区画化や水利確保など用水路の整備等
- 農地の区画整理
- 老朽化施設(水路)等の更新補助

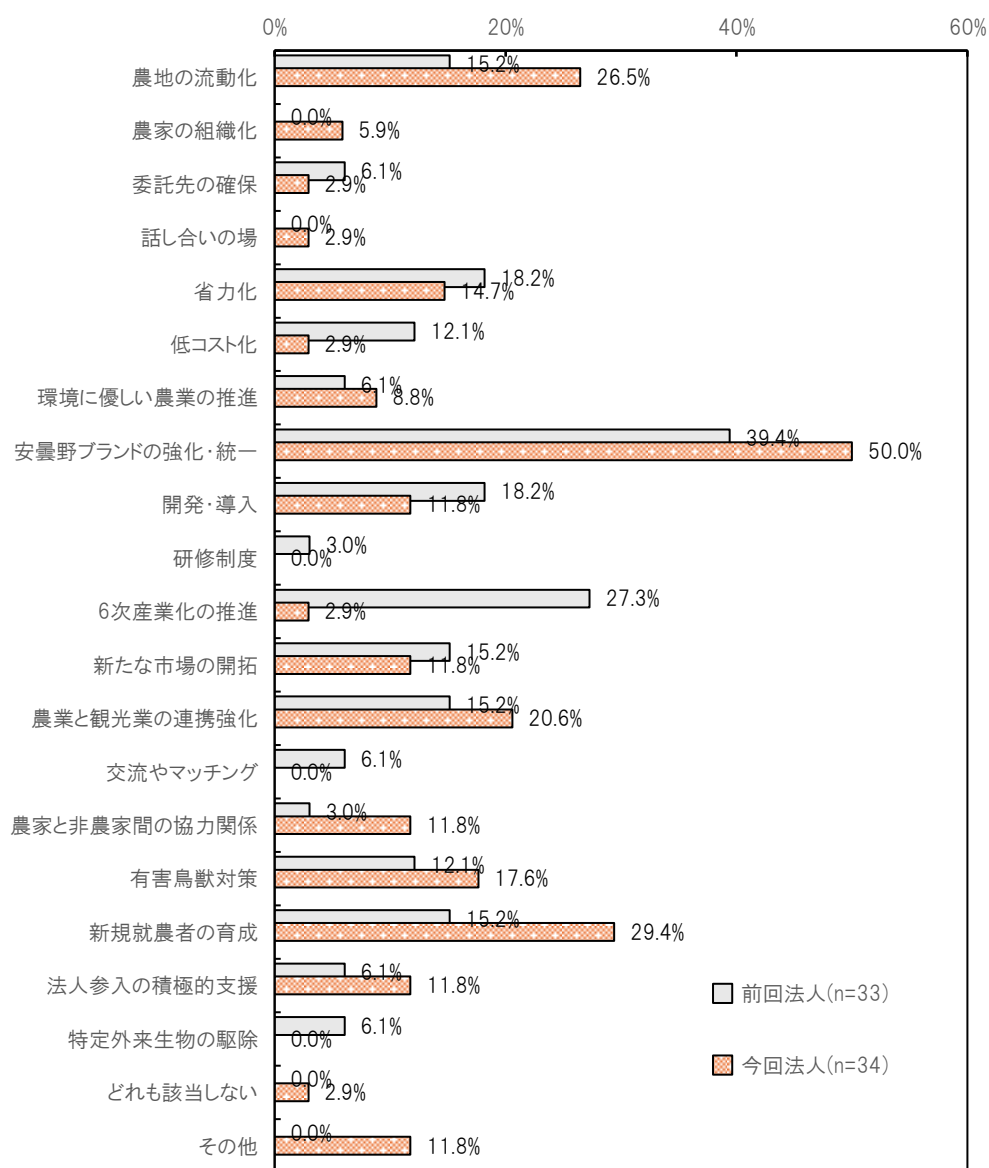
図表 93 【前回比較・個人農家】安曇野市の農業振興に重要なこと



図表 94 【前回比較・認定農業者】安曇野市の農業振興に重要なこと

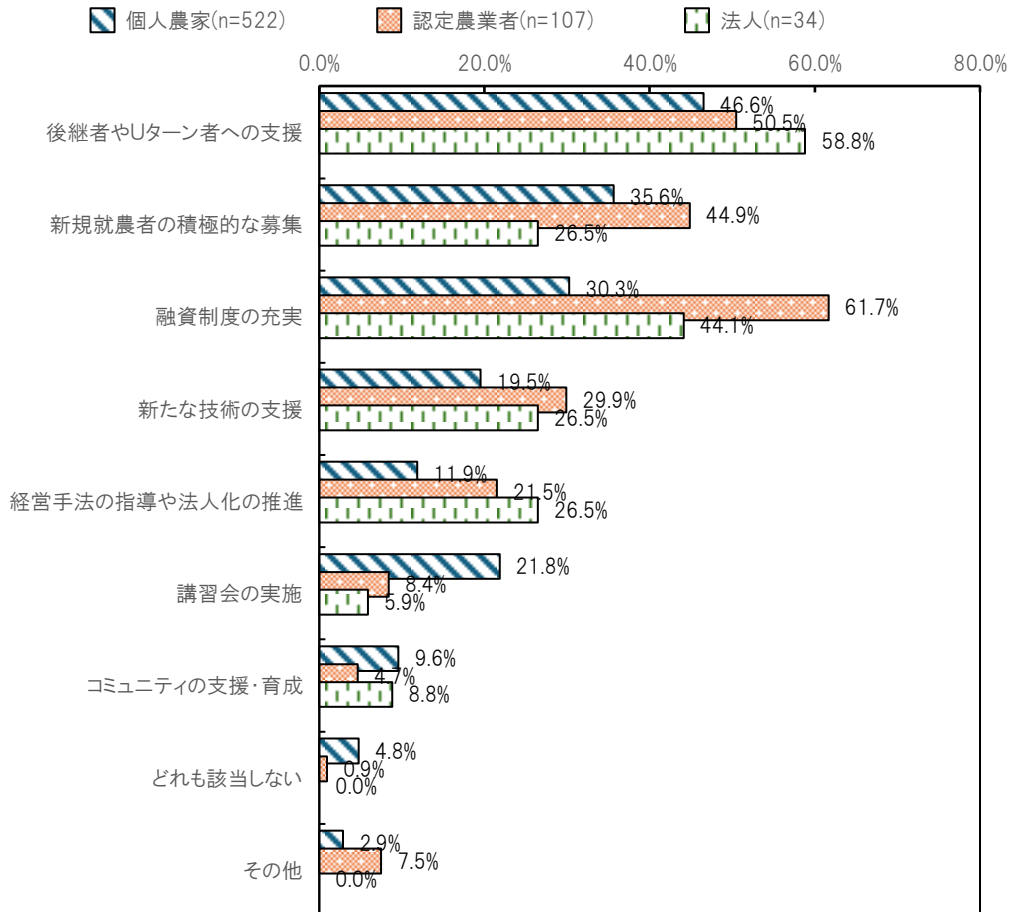


図表 95 【前回比較・法人】安曇野市の農業振興に重要なこと



問44. 安曇野市の新たな農業者の担い手確保や育成を図るために、ご回答者が必要だと感じることを教えてください。(3つまで選択可)

図表 96 農業の担い手確保・育成に必要なこと



「その他」の内容

①個人農家

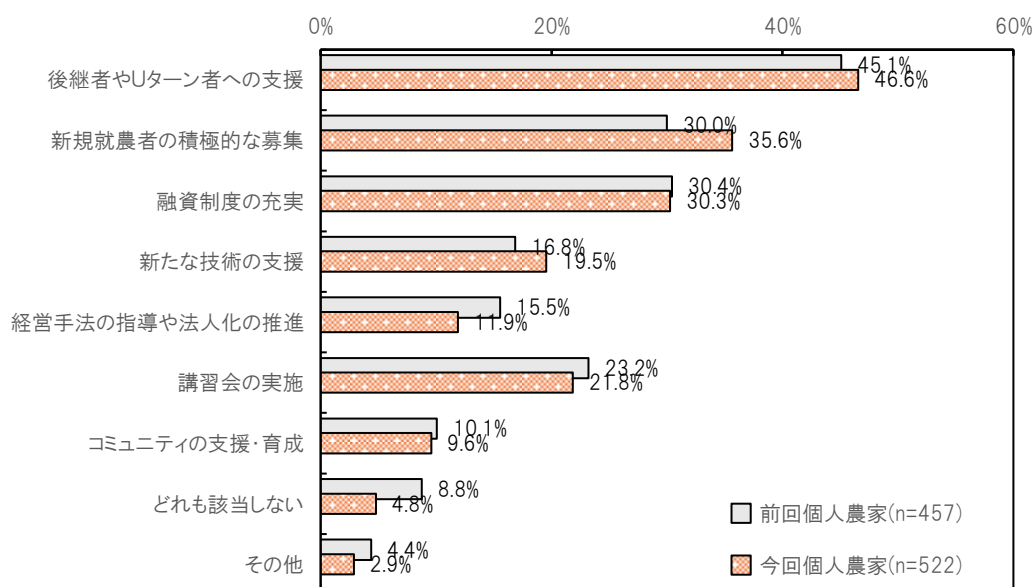
- もうかること
- わからない
- 営農組合への支援(営農組合を通して、地元の若者・定年退職して農業に興味のある人を取り込んでいく)
- 希望の持てる農業
- 消費者への PR
- 食農教育と職農教育
- 年寄りの考える事ではない

- 年収、所得のUP、月給制の導入
- 農機具、農業機械の共有
- 農業後継者の教育
- 農産物価格の安定(高値)による高所得
- 農地確保斡旋
- 不明
- 民間企業の参入による農地の委託化の推進

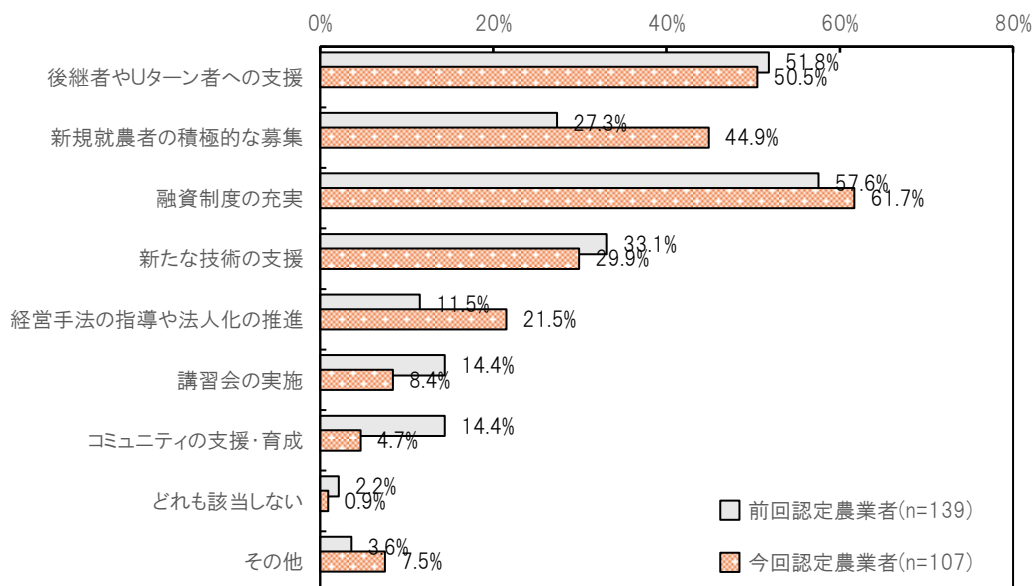
②認定農業者

- 会社員と比較した収入面におけるメリットの創出
- 関係機関の連携、所得補償
- 企業の農業参入
- 研修的受入れの体制確立
- 資材、機械の高騰。生産物の価格の据え置きの打破。
- 集約した農地で就農できること
- 小中高校などとの連携。安曇野の1次産業の重要性をPRする。
- 法人や大きな農家を助けるのではなく、小さな農家を大切にしないと安曇野の風景は守れない
- 有機農業希望者への支援

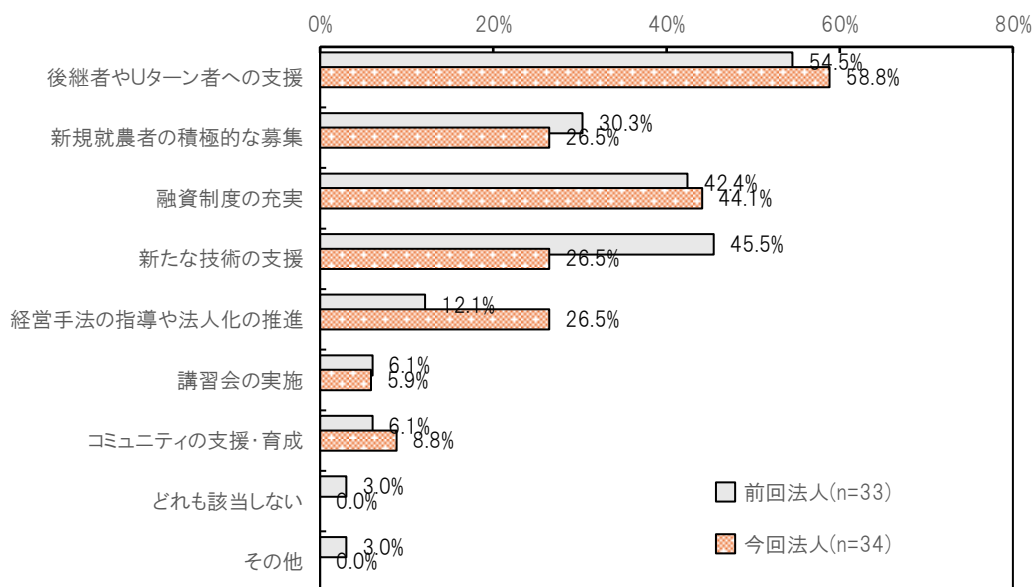
図表 97 【前回比較・個人農家】農業の担い手確保・育成に必要なこと



図表 98 【前回比較・認定農業者】農業の担い手確保・育成に必要なこと

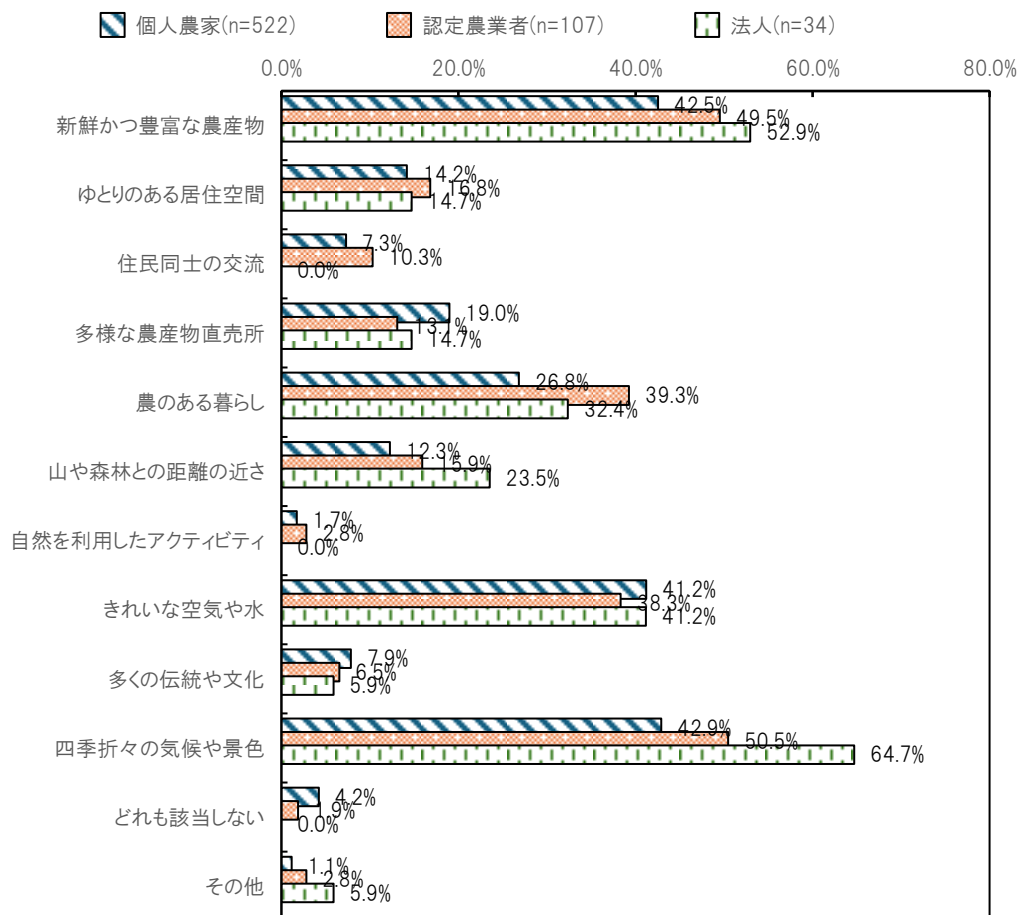


図表 99 【前回比較・法人】農業の担い手確保・育成に必要なこと



問45. ご回答者が安曇野市の農村社会（地域）がもつ魅力として感じているものを教えてください。（3つまで選択可）

図表 100 安曇野市の農村社会（地域）の魅力



「その他」の内容

①個人農家

- きれいな空気や水
- なし
- わからない
- わからない？
- 綺麗な水と空気

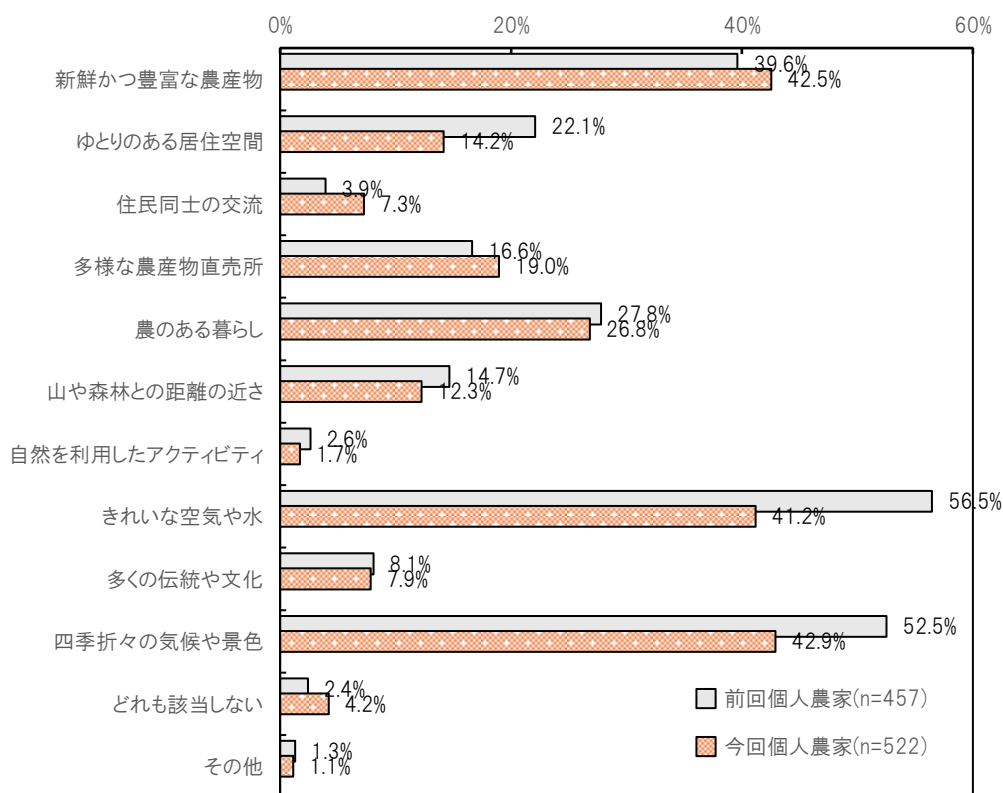
②認定農業者

- 自然の豊かさ
- 松本に近い
- 農業以外の仕事も比較的多い事

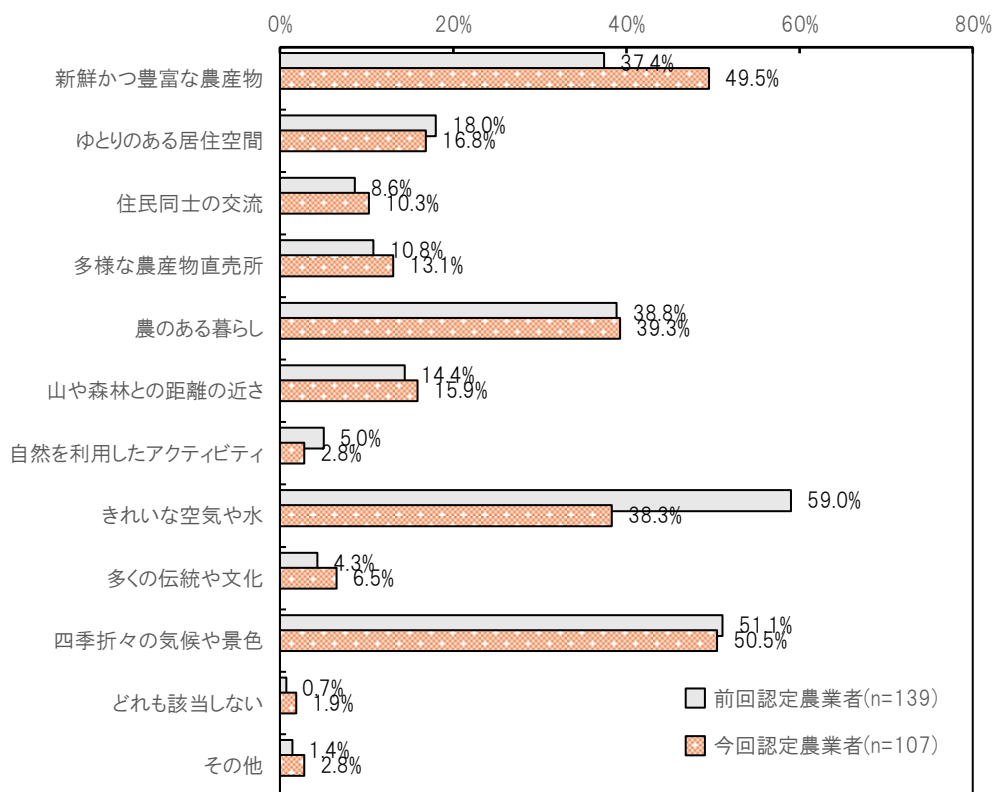
③法人

- きれいな空気や水
- 程よい田舎感からくる居心地の良さ

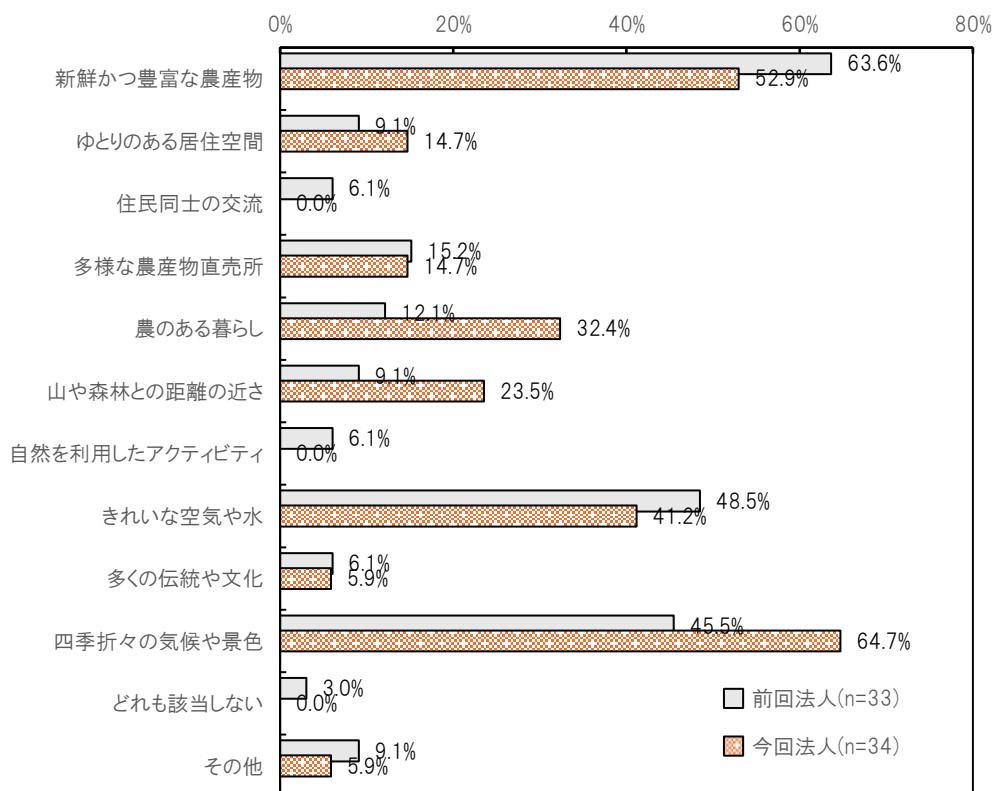
図表 101 【前回比較・個人農家】安曇野市の農村社会（地域）の魅力



図表 102 【前回比較・認定農業者】安曇野市の農村社会（地域）の魅力



図表 103 【前回比較・法人】安曇野市の農村社会（地域）の魅力



問46. 安曇野市の農村らしさを生かしたまちづくりを進めるために、ご回答者が必要だと思うことを教えてください。(3つまで選択可)

図表 104 農村らしさを生かしたまちづくりに必要なこと



「その他」の内容

①個人農家

- わからない?
- 何もしない
- 先進地の視察研修
- 農業の企業化
- 農地の値上がり
- 排水路の改修
- ゴミ

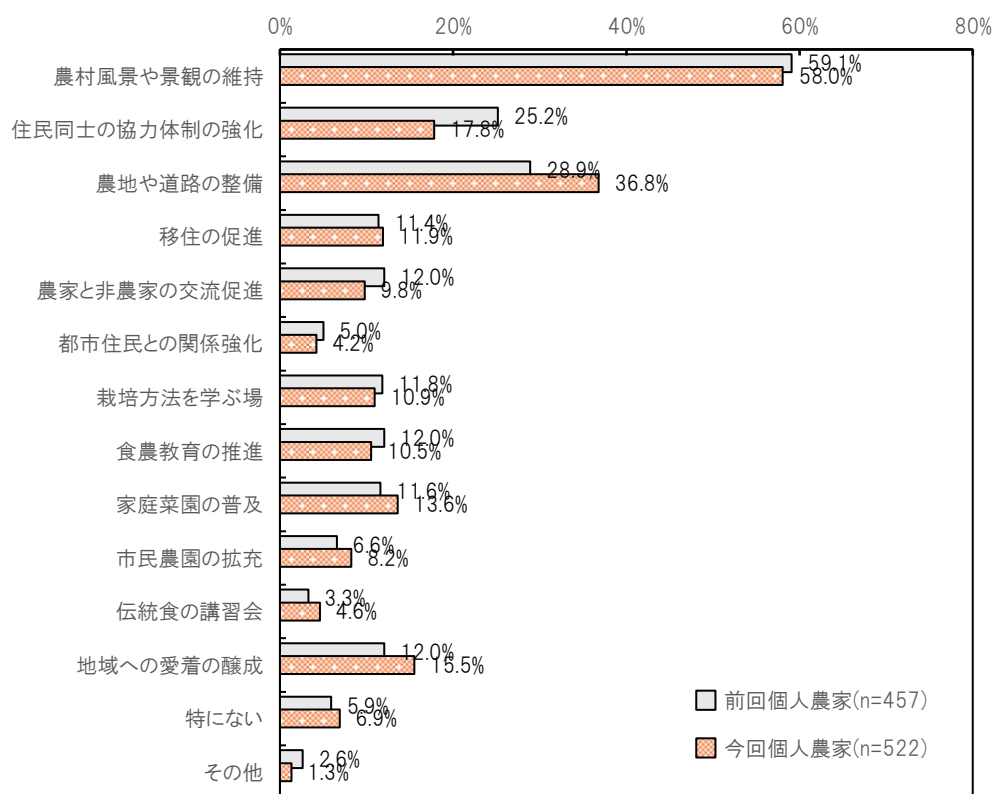
②認定農業者

- 移住者の農業への理解
- 特産品の研究開発

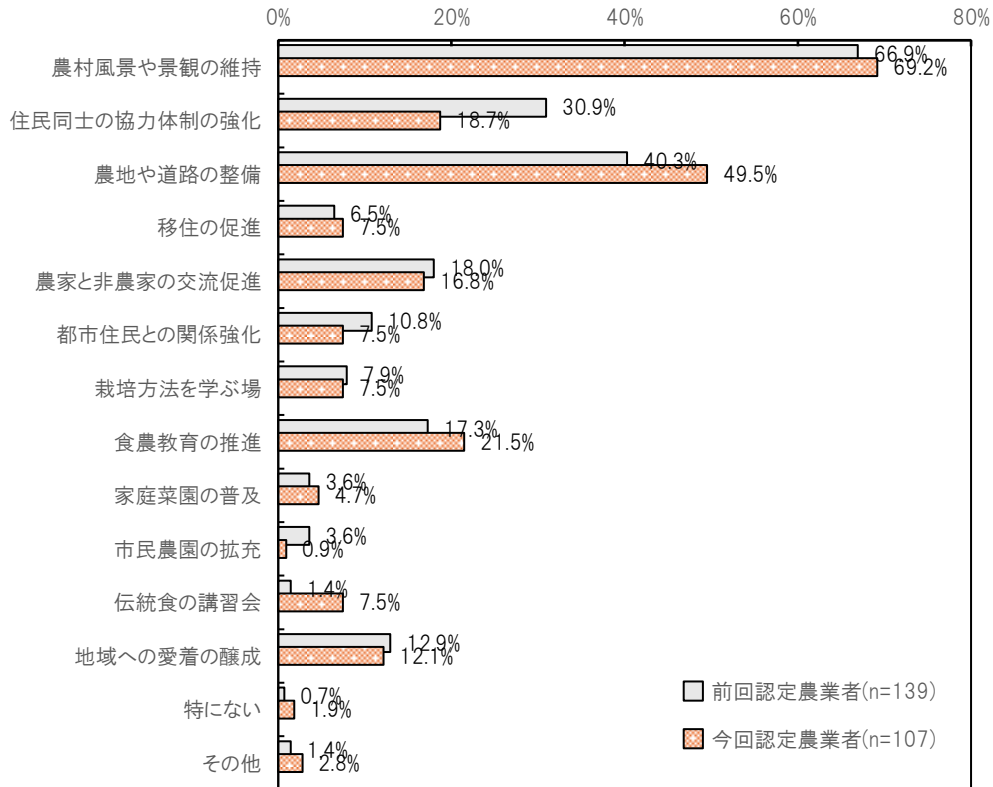
③法人

- 農業や地元産農産物へ触れる様々な機会の構築

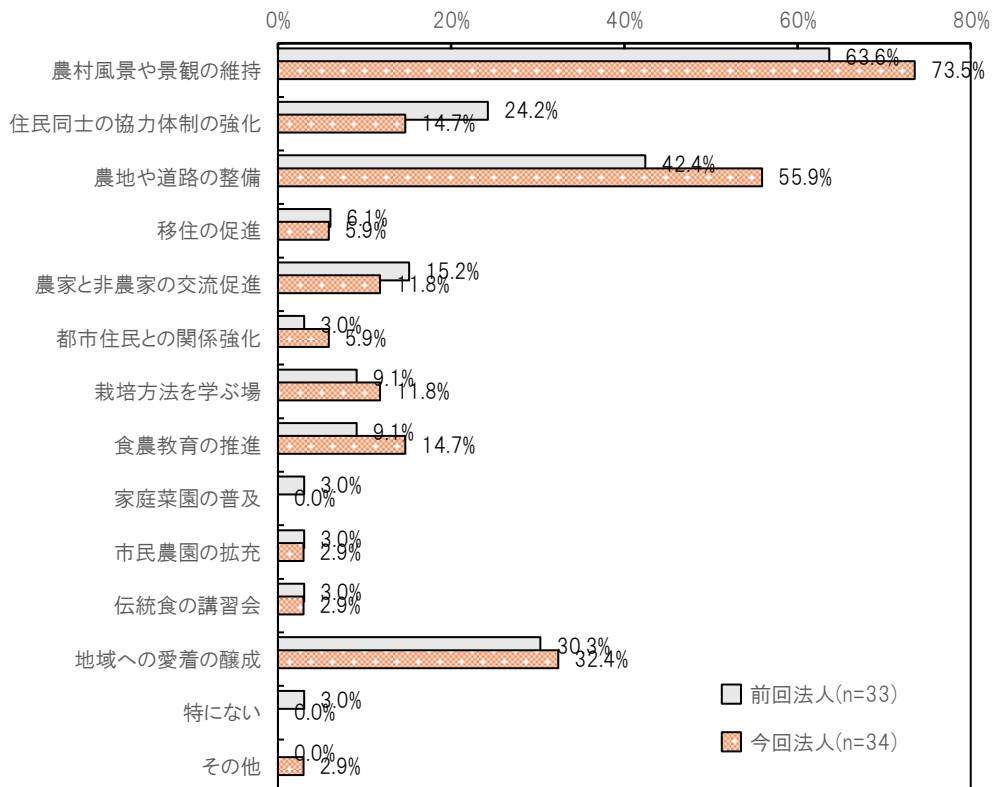
図表 105 【前回比較・個人農家】農村らしさを生かしたまちづくりに必要なこと



図表 106 【前回比較・認定農業者】農村らしさを生かしたまちづくりで必要なこと



図表 107 【前回比較・法人】農村らしさを生かしたまちづくりで必要なこと



問47. 安曇野市の農業に対する政策に関して、要望をお聞かせください。(自由記述)

①個人農家

- 「くま」「さる」などの畑あらしはないが、ねこ、ハクビシン、たぬきなど小さな動物の被害が多く作物をつくってもガッカリすることばかり、又水田においてもサギが多く、カエルなどが少なくなっていると思われます。ハクビシンを捕獲しても自分で処分するとなるとだれもやらない数が多くなるなど。水田はまだ2~3年ほどできるかと思いますが、これから先はわかりません。個別農家をお願いするにもそこも大変なようです。米が高い、野菜が高いとマスコミはさわいでいますが、全部が値上がり、米や野菜、たまごだけ取り上げないで下さい。
- 「安曇野ブランド」力の向上のための具体的な施策が乏しい。市民全体の「ブランド意識」調査によって、今後の必要な政策を策定してほしい。
- 家族農業もあって良いのでは。2) 土地は自然と集積されます。
- 定年後の農業へたずさわる為には、田圃の水見等を勤めている時から、やらないとスムーズに入っていけない。②有機農業をもっと農協で広めていった方が良い。それには技術員の勉強が必要ではないですか？
- 80の高齢のため特になし
- URLは正しかったです
- ゴミ捨てる日田尾が多い。モラル無し。
- これからの農業は、スマート農業で生産性向上と省力化を図りつつ、担い手不足と高齢化に対応するため農地集約や法人化を進め、持続可能な農業。
- これからの未来は高齢者が増え農作業ができず放置されていく土地が多くなると思うので貸し出しができるよう登録するところばあれば良いと思う。
- すいません農業について興味をもっていない為回答はできませんでした。安曇野市は山林の占める割合も多いと思います。今後自採型林業等が必要では?まとはずれですいません。
- ナシ
- なし
- なぜ備蓄米が肥料になるまで保存してるのか?古古古米が有る事も、どこかの行政でブレーキをせず早めに対応する事で、消費者をして生産農家の将来へつなげてほしいです。
- ハクビシンなどの食害や暑すぎる夏の影響が大きく、苦情など持っていきようのない被害があります。トマトやピーマンが枯れたり、種を何度もまいてもはえなかったり、いつもの時期に、いつもの様にまいたり植えたりしても野菜ができなくなっています。
- ブランド化のPRが特に必要だと思う。

- よく解らないが JA に問題があるのでは?結局 JA 離れ、事業縮小、米騒動と展開してしまっ。「職員の為の JA」とよく聞く。「職員の役得につながる無駄使いもある」と言われる。振興のため 3 者がしっかりとスクラムを組むには JA の体質改善が必要なのではないか。
- 安曇野の景観と農業をマッチングさせ魅力アップの為活動されてきた太田市長のご逝去に対し深く哀悼の意を送ります。12/2 献花に訪れ、市民の多くの皆さんが偲んでおられることに心より感銘を受けました。故太田市長の遺志を引き継ぎ、安曇野の文化と環境を守り拡大する政策を実施してほしいと思います。市政は具体的に市全体の舵取りであり、導いていくのかも職員皆さんに課せられた課題です。新市長を支え活動されんことを心より期待申し上げます。弱力ながらできる事はお手伝いさせていただきます。
- 安曇野の農産物のブランド化と.ピアールの充実に力を入れてください。
- 安曇野らしさがどんどん失われている現在、これ以上環境破壊がすすまない、農村の維持を望みます。
- 安曇野市に成り農地の宅地化が緩和され（特に豊科地域）人口減少が進む中農地が宅地化されるのか?農地をこえて大型化して海外へ?
- 安曇野農政を国のカーボン推進政策を偏重させる農業政策のリーダーとなること。
（過去石油等は 30 年で無くなるとかダイオキシンは猛毒等とウソを言って金儲けした人はあやまるべきである）。CO2 は米作りは必要。
- 猿が出て家庭菜園が全くできなくなり困る。楽しみがなくなった。
- 屋敷林の確保～農家らしい風景の確保
- 回答者高齢の為、先の見通しは難しい
- 海外は無農薬に力を入れている様に感じます。日本の農家も賢い農家、拘りのある農家が大切かなと思います。人手が足りない時、何か不足している時に、補えるもの余っている、助けにいかれる人が居たら手を挙げて繋げられる、繋げあえる、マッチングアプリとかがあったら便利かなと思います。いかがでしょうか?安曇野と言えば豊かな自然。都会の方々の憧れですね。田園風景ですね。
- 官民連携（市と JA 等）
- 極力農薬（特にネオニコチノイド）を使わない農業を目指すこと
- 兼業農家の育成
- 現在は大規模農家が中心で小規模農家の事は 1 つも考えていない様に思えます。農家の事を小さい規模でも考えてもらいたい。農家でも税金は取られている。
- 言われている事ですが、作る側としては、担い手不足は進む一方なので、いかに少人数で地域農業を営んでいけるか、具体的な方策が必要です。また、売る方としては、いかに高く売れるのか、高く売れる産地としての安曇野の価値を高める施策が重要と思います。

- 個人的な案件ですが、農地の借り手が無く荒地の状態、その管理に追われています。
- 後継者不在のままの農地を活用し、収益につながる（市全体の利益）方法を考えてください。
- 耕作放棄地に高課税を課す等し、農地の流動化、大規模化、法人化を促進し、食料自給率を上げるとともに、営農者の所得増加を達成する政策を望む。
- 耕作放棄地の対策
- 耕作放棄地を出来るだけ減らす政策を考えてほしい。安曇野の景観を出来るだけ守りたい。
- 荒廃した耕作放棄地が多く、地域の迷惑になっている
- 荒廃農地を増やさないための施策を講じてほしい。
- 高齢なので耕作はしていない。畑は草取りと家庭菜園のみですのでアンケートにはあまり回答できない部分があります。
- 高齢化になり、個人の手だけで農業はできない。生産から購買まで一括してスムーズにできる農家が増えると良いが。
- 今後、集落営農組合の施設建設や機械等への補助など大幅にふやして充実した運営ができるようにしていただきたい。
- 今後の米価格の安定を望む。（上下されないように）
- 今後も米価の安定を望む
- 作業者が高齢になり、屋敷の自家用の畑でも不安を感じる。
- 作付けされていない農地の安曇野市職員による調査と所有者への要望聞き取りと悩み事相談を積極的にお願したい。
- 子供達に農業をする様にしたい
- 市民農園が増えて、そこで、有機農業を教えて教えていただけるといいなあと思います。
- 私の地区は農地を宅地にできないので、若い人がいなく年寄りばかりになっています。私の地区は観光客はだれもこない所です。このような所は農地を宅地にしてほしいです。自分の土地をなぜ自由に使えないのでしょうか。農業を守るだけでなく、地域を守るために宅地化をしてほしいです。
- 私の地元の営農組合では麦の作付をしていますが、毎年赤字。役員も高齢化しており、10年後の存続は危うい状況です。市からも交付金が出ているがそれも赤字。今後も営農組合が存続出来る様に支援をお願いしたいです。他の営農組合はどのように運営しているか、どうすれば黒字に出来るか、成功例の紹介等の情報が欲しい。「安曇野産コシヒカリ」のブランド化

- 私達高齢になりあぜ草など農業を少しでも時間払いでたのめる人がいれば良いと思う。シルバーもたのめばあると思うけど電話1本で直接たのめば来てくれる様な人がいると良いと思う。
- 資材の高騰により買えなくなっているので補助金制度の充実化をお願いしたいです
- 資材高騰への補助支援
- 鹿 イノシシの駆除
- 住宅団地、産業団地の推進も必要
- 所有する農地で作付を拡大したいが、農地が豪雨災害で崩落して行政に申請して災害復旧をお願いしているが、今もそのまま崩落はさらに続いていて耕作に至らない。
- 将来に向けて、ゆとりある生活ができる農業を維持するためには、安定した所得が確保されることが第一ではと考えます。大規模農家の育成は課題の一つだとは思いますが、農村社会の持つ伝統文化の伝承や環境維持のためにも、一定の人口（兼業農家等）の定着が重要だと思います。
- 将来的な農業に希望が見えにくく、高齢化で先細りの悲観的な現状を踏まえ、効率優先の農業政策だけでなく、選択肢の広い農業参加が可能な社会が求められていると思います。商業化大規模農業と多価値、自家用中心の小規模農家の両極多様性に対応した助成政策。放棄農地の解放などでおためし農業奨励。市内給食での有機野菜、有機米の提供。「だれでも消費者、だれでも生産者、地産地消だけでなく自産自消」を目指したい。
- 小規模、自作農のためお任せ
- 小規模農家は主要農業機械が壊れたら、継続不可。
- 新規移住住民を受け入れるについての基本農業とは?農業に対する理解を強めてもらわないとこまる!あまり移住人を増加してほしくないです。農作業がしにくい!機械音がうるさい、朝は寝ているからいけない、農薬散布はいけない等々です。市としてこの様な対応をどの様にしておりますか、お伺いしたいです。
- 新規就農、後継者を増やす政策を勧めしてほしい。小さい農家を増やすほうが良いと思う。農業の大規模化は機械化できる作物は単価が安く、果樹などは人件費が高騰して採算が難しくなっていると思う。農業政策についてでは無いのだが、役場についての事で同じ課の中でも担当が違うから解らないと言って逃げる職員が多く感じる。癒着を防ぐために何年かで異動しているのだろうけどあまりにも仕事について責任感が感じられないので、せめて所属する課の中の仕事ぐらい把握できるように成ってから異動する仕組みに変えていただきたい。
- 水田の規模拡大、農地の整備を進め大規模経営が取り組み易い環境。自然環境との調和。

- 世代交替に依る後継者の農業従事の考えがうすれている。まわりを見ても後継者はいるものの就農意欲がない様だ。
- 政治屋と農協が全てダメにした。機械全てで 1,000 万以上～出来ない
- 生かさず殺さず的な農業への扱いはびこらないように願う。
- 生産性の低い農地については無理に耕作をしなくても良いと思う。(非農地化の推進)
- 生産調整(米)は必要ないと考える。自由に生産させてほしい。減反する事が負担が大きすぎる。(機械購入や作業)
- 線引きを見直し、宅地化できない場所の見直しをする
- 宅地化が進んでいる現在、この辺でストップさせて増えつつある空家の活用も並行して考えてもらいたいと思いますが…。
- 地域の若者(農業後継者だけで無い)行政職員、農協職員の若者達にもっと基幹産業の農業の大切さを勉強してもらいたい。農業人口の減少を食い止めるにはどうしたら良いか。魅力ある農業を自分達の手でつくり出す為の勉強会、研修会を一緒に行ってもらいたい。(外部からの手助けでは本気度が低いと思う)特に畑地帯。
- 地域間格差の解消、議員の顔を見たことがない、行政が区長任せにしている為議員が地域の農業に無知
- 中山間地など条件の悪い所に比べ、安曇野市内の好条件下にもかかわらず、遊休農地が増えている。草だらけになっている農地をみると、さびしさやむなしさを感じず。官民一体となった遊休農地の活用を強くのぞむ。
- 中山間地における鳥獣害対策
- 中山間地域の農業後継者不足への対応
- 中小の兼業農家が長年支えてきた農業は、離農と高齢化が進み、今や少数の大規模専業農家が主体となっている。しかしそれも限界で、将来の安定した耕作を続けられるか見通せない。例えば公社を作って種々の作物の耕作を一手に引き受けるなど、言わば公共事業の形で農業を行なうような、大胆な発想への転換が早急に求められると考える。でないと日本の農業は近い将来崩壊するのではないかとの危機感を感じている。
- 中抜きなどにより生産者の収入が減っていることが、農業をやりたい人を減らしている要因だと思うので、そういうことがおこらないように決まりごとをつくっていくべきだと思う。
- 田を維持するのが難しく、農業委員会に相談しても回答が得られず、太陽光を設置しようとしたが設置が出来ないとの事であり良い方法がないか模索したがだめであった。
- 土地の再利用を考えることが最優先の課題だと思われます。区の3割近くが空家であり、若者がいない。地元で働いている若者がなく松本方面、豊科などに勤めることか

ら昼間に区内にいる人の年齢は、平均 70 才以上が 1 番若い。平均年齢も 70 歳程にもなる。土地利用は、介護施設とか移住者の斡旋など。又、花畑、公園などの景観の良くなるもの。観光にもつながるかも。

- 特にありません
- 特になし
- 年々農業機械が高騰し、農業機械買い替えが経済的負担となり、機械が壊れると同時に、農作業委託・農作放棄する高齢者が多くなっています。農業機械購入の補助金・また農業委託者への補助・作業員の確保・若手作業員の育成等、これから多くなる高齢化農作業員について考えてほしい。
- 農家であっても米を買わなければいけない現状、高齢になり今後世の中どう変わるかわからない中ですが行政にはしっかりと指針を示してほしいです。
- 農家であることで、地区でまわってくる役が多すぎる。農家組合やせぎや JA や他に諸々、何年かおきにじっとやらなければならない。高齢化がすすみ、わずらわしさしかない。後継者もいやがっていなくなる。全て廃止するべきだと思う。民間企業へ全て委託すればよい。
- 農家に来てくれる嫁が少ない。行政の力で出会いの場を機会を考えてもらえたら。非常に難しい問題だと思うが、適齢期を過ぎても独身の後継者が多いので悩んでいます!
- 農機具購入補助
- 農業とは無関係だった者が突然農地等を相続することになり何もわからず今に至っています。ですのでアンケートの記入もちょっと不明な書き方になっています。申し訳ありません。
- 農業に取り組みたい若者の支援を強化して欲しい。
- 農業に対する政策に関してじゃないけど別件で書きます。問 16-3 に書きましたが、本年度はアメリカシラミトリが大量発生しました。となりの廃棄になった農家（酪農）の牛舎が荒れ放題になって困ります。サイロには多数の猫が死んでいます。何とかして下さい!!
- 農業を行う上で必要な基盤は、県営ほ場整備事業により合併前行われ負債も完済されていますが、今後はこの農地を使って農業に意欲のある農業者を育成し経営支援を行う必要があると思います
- 農業機具を買うにしても全て高額なため今使っている機械がこわれたら農家を止めるという家が多い。少しでも県、市で補助してもらいたい。
- 農業後継者(人材育成)の確保、安定した農業経営の為の収益確保、荒廃農地の維持管理組合(企業、法人等)の設立及び同組合に対する国等からの支援(補助金等)
- 農業者の高齢化。農業のみで生活するのは厳しいと思う。
- 農業従事者の高齢化が最大の課題である。農村と都市機能の両立が当市の基本である。農業と農環境を守ためには現在ある営農組合の法人化と企業体的質の強化が必要

である。市と農協の支援と指導が望まれる。農協は農家のものであり独立した企業ではない。食糧はエネルギーと共に国家の存立に関わるものであり”農”のあり方は歴史を見ても永遠の課題である。市と農協の一層の協力体制強化を望む。

- 農作業委託者の増加に伴う、受け手の確保、情報提供をJAとともに強化して欲しい
- 農地と宅地の区別化、農地の保全。ブランド化と景観保全。
- 農地の市街化を止めてほしい。耕作放棄地の有効利用をすすめてほしい。
- 農地の宅地化を規制しないと景観が損なわれるのでは。
- 農地を持たなくても気楽に農作業に触れあえる様な環境を作ってほしい。高齢化して休耕田畑等もっと活用してほしい。担い手補助制度の確立をもっと積極的に推進してもらいたい
- 農道等の環境整備（草刈）、水路の補修への補助
- 販売促進は、安曇野ブランドの向上があつてのことだと思います。農家への個別支援ではなく、ブランドイメージが向上するような施策を望みます。そのためにも、まずは安曇野らしい風景（豊かな農村風景）を維持していくことができるようにすることが大切だと思いますので、大局的な視点での取組を望みます。
- 美しい田園風景を守り、あづみ野の自然を後世に残すための方策の1つとして宅地開発を規制してください。市内の空き地、空き家の活用方法を行政が強くすすめるよう手を貸していただけませんか。
- 米の価格が上がるとありがたい。しかし、これだけを考えても日本と外国の農業で大きな差があるのでむずかしいことだろうとは考えていますが、今年等の米不足によって少し価格が上昇することは考えられないかどうか。農業にかぎらずに第一次産業全体にかかわる問題だろうと思っています。
- 米の値段は高い程、ありがたいです
- 米農家の大規模法人化を進めて欲しい
- 豊科地域で市街化区域と市街化調整区域の区域区分を廃止したことについて、意見を申しあげます。人口減少社会に入った日本の社会は、コンパクトなまちづくりを指向することが望ましいと考えます。安曇野市の人口だけが増加すればよいとは思わないですし、旧市街化調整区域で宅地開発がされ、人口が増加したとしても、それは一時的なものにすぎず、将来的には膨大な空き家の対策に苦慮することとなるでしょうか。さらに、低密度に拡大した市街地を保持するため、道路・上下水道・保育園・学校・病院等のインフラの維持にも多くの課題を抱えることになるでしょう。宅地開発を抑制することに加え、むしろ無秩序に広がった宅地を農地にかえるような施策を展開し、効率よく耕作できる農地を確保することが、農業の大規模化を進めるきっかけになり、農業振興と過剰なインフラ整備の抑制になるように思います。

- 問 16 で水路の問題は言ったのですが、現在末端の水路は 70～80%位の水量位しか水量はないのです。これは行政が主導で各機関と迅速に協議して、進行してもらいたいと思います。誰がどうするのが最良か。
- 遊休農地が年々増加している中で JA との連携で特色ある農作物を!松本市の様に地域ごとにスイカ、ブドウ、長いも、花きといったものが頭にかんてくるが安曇野市はリンゴ位しかうかばない
- 隣との交流がなく誰がいるかわからない様な住宅ばかり建たり、不安!すっかり町場の住宅になってしまいました。全員隣組に入るような規則をつくり近所づきあいのある町にしてほしい。

②認定農業者

- 1、遊休農地、農家空家対策による地域の最小のコミュニティ(農村)の確保が必要と思う。
- 2、地域の若者と高齢者との交流の場。時代の流れとはいえギャップが大きく農業に対する理解度が薄いと思う。
- 3、安曇野の農産物といえば、1位米、2位りんご3位以降の農産物のブランド力が薄いと感じる。省力で収益性の高い農産物は何か、ないか？
- サル・イノシシ・シカの鳥獣被害対策をしっかりと行ってもらいたい
- スマート農業に対する助成をしてほしい（松本市では機械導入で 200 万の助成があります。）
- 安心して新規就農できるよう支援する。個人農家にも機械代金の支援拡充。
- 安曇野でしかできない農業を。そして儲かる農業を。「3K」のイメージが強いが、それ以上の得るものがあるアピールを。お願い致します。
- 安曇野のブランドである農村・山岳風景、清らかな水を維持するためには、「農林業を営み続けることの重要性」を、農林家のみならず市民全体、移住者、旅行者を含め共通認識を持てるような政策。農林業者減少の現在、安曇野の唯一無二の景観が失われつつあることを市民全体が理解し、それを維持することを誇りに思えるような政策を期待します。
- 安曇野は農村と街のバランスが程良く取れた地域で、教育にも体験にも営農にも優れた環境を持続している。専業農家が借り渋る非効率な土地は農的生活を望む兼業農家の移住者に任せてはどうか。生活と就職と営農の支援を是非。
- 安曇野市の特産としてのワサビ、リンゴ等の果樹、美味しい米の生産が気候の温暖化等により、大きな影響を受けておりこれに対処する為の研究、方策を市の農政として充実して頂きたい。（農家やJA任せではなく、県や生産者とも連携し、将来の安曇野市の輝く農業の未来の為に）

- 安曇野市は新規就農者の育成や助成制度が欠落している。農業を志す者にハードルの高い条件を提示して門前払いをしている。こんな行政の対応では、今後の市の農業発展は見込めない。近隣町村の先進的な考え方を勉強し、数少ない農業を志す者に協力して欲しい。
- 各部署の連携が不十分。課題はみえているので、プロジェクト的な担当構成で実践したらどうか。また、関係機関との連携ができていないと思うので、もっと話し合いをもつべきではないでしょうか。
- 規模拡大にともない農機や資材置き場が不足します。農地に資材用倉庫を建てやすくなるよう、規制をゆるめていただきたい。
- 近年の移住者の増加は良い事ではあるが、移住者が農地の周辺に住むにあたり、騒音やほこり、農薬に対するクレームをするという事が増えている。田畑があとから降ってわいた訳ではない。そう不満を抱くのであれば、農村部ではなく、市街地に移住するべき。市は移住者や転入者に対して、その辺りの説明や、農作業をさまたげる人物を農地周辺に住まわせない、若しくは承知した上で居住を許可する等の一貫した政策対応を願う。農業者が泣き寝入りすることなく安心して生活できるようにしてほしい。
- 計画性のある長期農業政策の早期提示
- 行政として今後も積極的に関わりをもって欲しい
- 行政の指導的立場の職員は外部の勉強か外部からの人財の登用が必要ですね。
- 高温対策等で新しい技術、品種、作物にリスクを取って挑戦する生産者に対して、支援・勉強会等の機会を作って欲しい。
- 子供達が農業に興味を持てる様な教育が必要
- 飼料米の品種を限定しないで、個人選択もできる様にしてほしい。
- 集落営農組合は10年以上たつが法人化ができていないし、後継者がいない等問題が多い。地域で個人ののうち拡大が進められないので集落営農組合の見直しを考えてほしい。
- 税務や財務について経営に有利な制度等の情報をもっと発信してほしい（聞きに行かなくても）
- 昔ながらの農業もよいが、若者が農業をしたいと思うようにならないものか?生活を維持して行くのはどうすれば良いか。過疎の村だけはしてもらいたくない。
- 大規模農家や法人の支援だけでなく、兼業で小規模農地や山間農地を守っている農家の支援も忘れないで欲しい。
- 中山間地域の課題として、農地の集約ではなく、小規模個人農家を守る政策が必要ではないかと思います
- 土地利用型作物で温暖化に対応できる新規栽培品目の取り組み（試験場・支援センター・JA等との連携）

- 道路整備するのも農作業する側目線も少し考えてもらいたい。今まで拡張前は作業をしやすかったが今では一般車に作業中きつい言葉をいわれ肩身のせまい思いもありました。路肩や歩道を広目に拡張するなど考えてほしかった。宅地化が進み一般市民とのトラブルも少しあり農業の理解をある程度はしてもらいたい。
- 農家が生産に集中できる環境を整備して欲しい。農地契約や集積、トラブル等のサポートを手厚くするべき。新規就農はただ増やせば良いのではない。極端な減農薬やカルトの様な栽培をされても困る。地元農家の技術レベルが相当低い（特に大規模になるほど低い感じ）ただ人を増やせば良いのではないと思う。
- 農家に補助金として二分の一補助の 500 万くらいは出してほしい。
- 農家は国や県、市の政策に翻弄されている。どう見ても大きな農家や法人だけがもうかれれば良いとしか思えない。小さな農家を大切にしないと安曇野の農業、風景はなくなると思う。全国で唯一安曇野市だけが取り組んでも良いのではないか。農業委員会も取り組むべき。何をやっているのか!!
- 農業への支援政策、補助、融資。農業従事者への聞き取り調査や現地視察を徹底してもらい、問題解決を徹底してもらいたい。
- 農地を農地として使う為にはだれでもが安心して、あずける事ができる所が必要である。その為に組織を作りたい。
- 農地転用の厳しい取り締まり。農地転用と住宅地のゾーニングをはっきりとする。荒廃農地の地主に対して罰則強化。
- 農薬を使う農業=悪 有機農法=善のような施策は絶対にやめてもらいたい 有機農法やりながら慣行農法とミックスして地域の他の生産者とうまく折り合いをつけてやってみる人もいるが、周りの生産者迷惑かけてまでも正義を振り翳し有機農法をするがいて迷惑です。移住者などにもその考えが広がり過ぎているため昔からいる農薬を使い化学肥料を使う農業者との溝が深くなり農業のやりにくさにより離農する要因になっていると感じる 高齢化によりこれから離農者が増えるにつれ耕作放棄地が増える傾向にある それらを請け負う大規模な経営体もそれらを請け負いきれないという状況が生まれつつある 今現在担い手中心の支援策が多いが、中小規模の農家（兼業農家含む）も世代交代して耕作できるような施策をぜひお願いしたい 10 アール以下の田畑や耕作困難な田畑は誰も耕作など受け入れ無くなるべく地主が自己管理できる仕組みが必要 誰とは言わないが声の大きな発言者の意見ばかり取り入れるのはやめてもらいたい
- 米（コシヒカリ）以外の品種の導入

- 抱えている農業の現状に危機感をもって、非農家を含む行政、JA等スピード感をもって対応してゆかねば間に合わない。農家年齢は80才を超えている。食糧は命の元である!!この様なアンケートは10年も前から返答しております。当然行政、JAも農業をとりまく問題点、課題等把握している事と思います故、その時すごしの事務処理に追われずいいかげんに具体的施策を見出す時ではないだろうか。行政（市）、農業委員会、JA、消費者団体、商工会等もっと（課題がはっきりしているの）連携を深め対策議論をすべきではないだろうか!
- 野菜の価格は安いままで資材が高騰しているので補助を手厚くするか、野菜の価格を現代に見合った適正なものにしてほしい。
- 優良農地は補助金を出して守るべきで遊休農地、荒廃農地は積極的に宅地化すべき。そして地域計画を現実的な計画にすべき。
- 有害鳥獣対策にもっと力を入れてほしい。農家が高齢のため対策がとれずに、あきらめている農家が多い。サルによる被害額はかなりの金額になると思う。（特に三郷、北小倉と南小倉）
- 有機農業への支援にもう少し重きを置いてほしい。学校給食などに有機栽培米、野菜をもっと取り入れ、有機農業への新規参入者・就農者が安定した経営をしやすくした方が良くと思う。

③法人

- 市（行政）として、今後の安曇野の農業をどう考えてゆくのかを、ビジョンやイメージではなく、明確に示した政策・施策をブレることなく展開していただきたい。なお設問にある「スマート農業」とはどの程度のスマートなのか、よくわからないまま回答しています。
- 『米どころ安曇野』を維持するためのセーフティネットの構築（米価の最低価格の維持）
- ① 山際に位置する農地では、井戸水の確保が困難であり、農業用水路も冬季は断水するため、畑作への転換や灌水設備の導入が極めて難しい状況です。異常高温による被害対策とも共通する課題であり、水路整備や、水道水を農業利用する際の低料金契約の導入など、早急な支援をお願いしたいと考えております。
- ② 小規模農家が持つ農地の分散が進み、耕作効率が低下しています。一方で、大規模農家による急速な農地拡大や横行も見られ、地域バランスが崩れつつあります。地域全体の持続的農業のため、小規模農家の農地集約について、行政が積極的に介入し推進していただきたいと考えております。
- アンケートの結果を農政で実現させて下さい。

- このような取組をされていることに感謝です。安曇野の一番の魅力である田園風景と北アルプスを生かした農業政策となることを祈ります。担い手の大規模化も必要ですが、中規模の数を増やすのも大切、高齢の担い手と意欲的な若手のマッチング事業承継も進めてほしい。
- リンゴや米については現状維持に向けて色々努力されていると思います。それ以外の品目について地産地消をもっと推進して、せめて主要野菜は冬を除いて地元で手に入る様に多様性のある農業も展開できる様にして欲しい
- 安曇野のすばらしい自然環境の中で育まれる農産物の付加価値化とブランド化をもっと推し進めて欲しい。農業と観光をもっと結び付ける政策を考えて欲しい。
- 営農組織への補助金の拡充をお願いしたい
- 高齢化が心配です。もっと若い人が農地を守る気持ちを持つ様指導して欲しいです。
- 農地の集約をお願いしたい。分散しているので効率が悪い。水系を考慮して集約してほしい。

參考資料

◆ 調查票用紙

安曇野市 農業・農村振興に関する アンケート調査【個人農家対象】

【はじめにお読みください】

- 「農業経営を現時点(R7.11.1)で主体的(中心的)に行っている方」をご記入ください。
- 選択式の設問は、あてはまる番号に○印をつけてください。
- 「その他」に該当する場合は、()の中に具体的内容をお書きください。
- 別途指示が記載されている場合は、指示にしたがってご記入ください。
- 質問の中には回答できないとお考えになるものもありますが、未回答の設問がある場合でも、皆さまの農業の現状とご意向をお聞かせいただくために、ご提出いただきますよう、お願いいたします。

A ご自身について

はじめに、ご回答者自身のことについておたずねします。
それぞれあてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

問1 ご回答者の性別を教えてください。

- | | | | |
|-------|-------|--------|----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 | 4. 回答しない |
|-------|-------|--------|----------|

問2 令和7年(2025年)11月1日現在のご回答者の年齢を教えてください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 30歳未満 | 2. 30～39歳 | 3. 40～49歳 | 4. 50～59歳 |
| 5. 60～69歳 | 6. 70～79歳 | 7. 80歳以上 | |

問3 ご回答者がお住まいの地域を教えてください。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1. 豊科 | 2. 穂高 | 3. 三郷 | 4. 堀金 | 5. 明科 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

問4 ご回答者の昨年度の農業従事日数を教えてください。

- | | | | |
|-----------|----------|------------|-------------|
| 1. していない | 2. 59日以内 | 3. 60～149日 | 4. 150～199日 |
| 5. 200日以上 | | | |

問5 農業経営や農作業に日常的に関わっている方(ご本人・ご家族・従業員など)の人数を教えてください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 5人未満 | 2. 5～9人 | 3. 10～19人 | 4. 20～49人 |
| 5. 50～99人 | 6. 100人以上 | | |

B 10年前から現在の農業経営の変化について

ご回答者の世帯における10年前と現在の農業経営について、もっとも該当する番号をそれぞれの口に記入してください。

※1 10年前に農業をされていなかった世帯は、現在のみ回答してください。

※2 現在の農業経営については、令和7年度の実績または見込みによって記入してください。

問6 ご回答者の世帯はどれに該当しますか。

1. 専業農家
2. 第1種兼業農家（農業所得が他の収入より上）
3. 第2種兼業農家（農業所得が他の収入より下）
4. 自給的農家（経営耕地面積30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家）

10年前	現在
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問7 ご回答者の世帯の農業経営面積を教えてください。

※1ha=10,000㎡≒10反歩≒1町歩

1. 0.3ha未満	2. 0.3ha～0.5ha未満
3. 0.5ha～1.0ha未満	4. 1.0ha～2.0ha未満
5. 2.0ha～5.0ha未満	6. 5.0ha以上
7. わからない	

10年前	現在
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問8 ご回答者の世帯の中心的な生産作物を教えてください。

1. 生産していない	2. 米・穀物	3. 野菜
4. 果樹	5. 酪農・畜産	6. 花き・花木
7. 特用林産物（キノコ・ワサビなど）		

10年前	現在
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問9 ご回答者の世帯の出荷先を教えてください。（出荷額が多い順に上から記入）

1. 出荷していない	2. 農協	3. 市場・仲卸業者
4. 消費者へ直接販売	5. 農産物直売所	
6. 食品製造業者	7. 小売業者（スーパーマーケットなど）	
8. 飲食業者	9. 宿泊業者	
10. その他（		）

10年前	現在
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問10 ご回答者の世帯の農産物・農産加工品の販売金額を教えてください。

1. 販売していない	2. 100万円未満
3. 100万～200万円未満	4. 200万～300万円未満
5. 300万～500万円未満	6. 500万～1千万円未満
7. 1千万～2千万円未満	8. 2千万～5千万円未満
9. 5千万～1億円未満	10. 1億円以上
11. わからない	

10年前	現在
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問11 ご回答者の世帯の農業所得を教えてください。

※「農業所得」とは1年間の農産物に関する収入金額から必要経費を差し引いたものとなります。

1. 赤字	2. 0～100万円未満	10年前	現在
3. 100万～200万円未満	4. 200万～300万円未満	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 300万～500万円未満	6. 500万～1千万円未満		
7. 1千万～2千万円未満	8. 2千万～5千万円未満		
9. 5千万～1億円未満	10. 1億円以上		
11. わからない			

C 現在の農業経営について

それぞれあてはまる番号に○印をつけてください。

問12 ご回答者の世帯の農業経営の状況を教えてください。(項目ごと1つに○)

12-1) 農作業の委託 (1つに○)	1. 全て自分(家族)が作業する 2. 作業の一部を委託している 3. 作業の全てを委託している(農作業はしていない)
12-2) 農地の貸与 (1つに○)	1. 所有する農地を一部貸している 2. 所有する農地を全て貸している 3. 農地は貸していない
12-3) 農地の借用 (1つに○)	1. 一部を借りている 2. 農地の全てを借りている 3. 農地は借りていない

**問13 ご回答者の世帯が所有している農地で農作物を全く作付けしていない農地はありますか。
(1つに○、「はい」の場合は面積をご記入ください)**

1. いいえ → 問15へ
2. はい 面積:(田 ha、畑 ha)

問14 問13で「はい」と回答された方のみご回答ください

農作物の作付けをしていない農地を今後どのように利用したいか教えてください。(1つに○)

1. このまま作付しない	2. 作付けを再開する	3. 農地を貸与したい
4. 農地を転用したい	5. 農地を売却したい	

問15 ご回答者が農作業の中で、サポートが必要だと感じる作業を教えてください。

(項目ごとに3つまで選択可)

15-1) 農作業 (3つまで選択可)	1. 畦畔管理 (草刈り) 3. 農薬噴霧・防除作業 5. 収穫作業 7. 水管理 9. 配送作業 11. 特にない	2. 機械作業 (防除除く) 4. 選果・出荷作業 6. 生育管理 8. 受粉・摘花・摘果 10. 集荷作業 12. その他 ()
15-2) 経營業務 (3つまで選択可)	1. 営農計画 3. 労務管理 5. 情報収集 7. 営業・販路開拓 9. ネットショップの運営 11. その他 ()	2. 事務・経理 4. 広報・宣伝 6. 情報発信 8. 消費者への対応 10. 特にない

問16 ご回答者が農業経営を続けていくうえでの課題や困っていることを教えてください。

(項目ごとに3つまで選択可)

16-1) 経営に関すること (3つまで選択可)	1. 収益性が見込めない 3. 労働力の確保 5. 作業効率が悪い 7. 特にない	2. 農地の規模拡大や集積 4. 資金調達 6. 農産物の高付加価値化 8. その他 ()
16-2) 生活に関すること (3つまで選択可)	1. 家事、介護・育児との両立 3. 体力的な疲労 5. 休暇・休息が取りにくい 7. 特にない	2. 農外の仕事との両立 4. 経済的な負担 6. 時間的な余裕がない 8. その他 ()
16-3) 周辺環境に関する こと (3つまで選択可)	1. 農地の基盤整備が不十分 3. 鳥獣被害 5. 周辺農家の高齢化 7. 住民からの農作業への苦情 9. 自然災害 11. その他 ()	2. 道路や用水路の老朽化 4. 耕作放棄地の増加 6. 周辺農地の宅地化 8. 温暖化や豪雨など気候変動 10. 特にない
16-4) 社会情勢に関する こと (3つまで選択可)	1. 米などの生産調整 3. 海外農産物との価格競争 5. 新型コロナウイルス感染症の影響 7. その他 ()	2. 消費者の食生活の変化 4. 農業資材や燃料の高騰 6. 特にない

問17 ご回答者は、農業に携わっていることに対して、総合的にどのように感じていますか。

(1つに○)

1. よかったと感じている
2. どちらかといえばよかったと感じている
3. どちらかといえば不満を感じている
4. 不満を感じている

問18 ご回答者として、現在の農業経営環境について総合的にどのように感じていますか。

(1つに○)

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満を感じている
4. 不満を感じている

D 今後の農業経営について

それぞれあてはまる番号に○印をつけてください。

問19 現時点でご回答者が耕作されている農地は、10年後にはどなたが耕作する予定ですか。

(1つに○)

- | | | |
|--------------|------------|--------------|
| 1. 回答者本人 | 2. 後継者（家族） | 3. 集落営農組合・法人 |
| 4. 家族以外の個別農家 | 5. その他（ | ） |

問20 ご回答者は10年後の農業経営についてどのようにお考えですか。(項目ごと1つに○)

20-1) 経営規模 (1つに○)	1. 現状を維持したい 2. 拡大したい 3. 縮小したい 4. 農業をやめたい →問 21 へ※20-2)・20-3) は回答不要です	「1~3」を選ばれた方は 20-2)・20-3) へ
20-2) 経営方法 (1つに○)	1. 現状面積を維持したい 2. 農地の受け手となり、面積を拡大したい 3. 面積を縮小したい 4. 面積の拡大・縮小以外の方法を考えたい	
20-3) 農業所得 (1つに○)	1. 現状を維持したい 2. 増やしたい 3. 減っても構わない	

問21 ご回答者が農業経営に対し、将来的に導入を検討していることを教えてください。

(全体から3つまで選択可)

経営面	1. 営農組合や集落営農への加入	2. 作業の共同化	
	3. 機械や施設等の共有化	4. 雇用の拡大	5. 法人化
生産面	6. 機械化・省力化	7. 作業の効率化	
	8. 作付け部門や作目の変更	9. 低農薬栽培	
	10. 有機農業（オーガニック）		
多角化	11. 観光農園	12. 農産加工	13. 農産物等直売所
	14. カフェ・レストラン	15. 民宿・ゲストハウス	
	16. 市民農園・貸し農園		
販売方法	17. 取引先の見直し	18. インターネット販売	
	19. 個別宅配サービス		
その他	20. 特になし	21. その他（	）

問22 ご回答者の世帯はスマート農業を取り入れていますか。(1つに○)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 導入している | 2. 導入予定がある・導入を検討している |
| 3. 興味はあるが未導入 | 4. 導入予定なし → 問26へ |
| 5. わからない → 問26へ | |

問23 問22で「1 導入している」「2 導入予定がある・導入を検討している」「3 興味はあるが未導入」と回答された方のみご回答ください

ご回答者の世帯がスマート農業に期待する効果は何ですか。(3つまで選択可)

1. 農作業の省力化・負担軽減	2. 収益性の向上による経営安定化
3. 生産性の向上	4. 収穫量の向上
5. 農産物の品質向上	6. 農業技術の汎用化
7. 農業用資材、農薬・肥料等の使用量抑制	8. その他（
	）

問24 問22で「2 導入予定がある・導入を検討している」「3 興味はあるが未導入」と回答された方のみご回答ください

ご回答者の世帯がスマート農業を導入するにあたっての課題は何ですか。(3つまで選択可)

1. 導入コストが高価	2. 自身の事業が先行き不透明
3. 経営規模が小規模で実態に合わない	4. 導入効果が不明
5. 操作方法が難しい	6. 導入すべき機械が不明
7. 購入先が不明	8. すぐに必要な機器がない
9. 機械間の互換性が乏しい	10. 情報通信基盤が不十分
11. 先進技術を扱う人材確保が困難	12. 導入するための相談窓口がない
13. その他（	）

問25 問22で「1 導入している」と回答された方のみご回答ください。

ご回答者の世帯がスマート農業を導入した後の課題は何ですか。(3つまで選択可)

1. 導入コスト・ランニングコストが高価である割に、費用対効果が低い
2. 導入効果が当初の想定より低い、または導入効果が不明
3. 操作方法が難しい
4. 既存の機械との互換性が乏しい
5. 農作業地域での情報通信基盤が不十分
6. 先進技術を扱う人材確保が困難
7. 機器の故障時対応に時間がかかる
8. 現状課題に感じていることはない
9. その他 ()

問26 ご回答者の世帯は有機農業など環境にやさしい農業に取り組んでいますか。(1つに○)

1. すでに取り組んでいる
 2. 取り組みを検討している
 3. 将来的に取り組みたい、取り組む予定
 4. 取り組んでみたいが、予定はない
 5. 関心がなく、取り組む予定はない
- 「2～5」を選ばれた方は問28へ

問27 問26で「1 すでに取り組んでいる」と回答された方のみご回答ください。

ご回答者の世帯が有機農業など環境にやさしい農業に取り組む中で感じている課題はなんですか。(3つまで選択可)

1. 病害虫の防除が難しく、収量や品質が安定しない
2. 除草作業などの労力が増える
3. 収益性が低く、経営が不安定になる
4. 周囲の農地との防除方針が異なり、連携が難しい
5. 消費者や流通業者に理解されにくい
6. 技術指導できる者がいない又は知らない
7. 現状課題に感じていることはない
8. その他 ()

問28 ご回答者の世帯が有機農業など環境にやさしい農業に取り組むために必要だと思うものはなんですか。(3つまで選択可)

1. 国・県・市からの補助
2. 技術指導する者の育成、または誘致
3. 周囲の理解
4. 仲間づくりと情報交換
5. 新しい技術に関する情報や研修の機会
6. 有機肥料等調達先の情報
7. その他 ()

問29 ご回答者の世帯では現在、地元向けに出荷・販売している農産物がありますか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------------|
| 1. ある | 2. ない → 問31へ |
|-------|--------------|

問30 問29で「1 ある」と回答された方のみご回答ください。

ご回答者の世帯が地産地消に取り組む最も大きな理由は何ですか。(1つに○)

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 地元の消費者に安心・安全な農産物を届けたい | 2. 輸送コストを抑えられる |
| 3. 地域経済の活性化に貢献したい | 4. 地元の学校・福祉施設などと連携したい |
| 5. 販売先の確保がしやすい | 6. その他 () |

問31 ご回答者の世帯が地産地消に取り組むうえでの最も大きな課題は何ですか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 地元での販売ルートが限られている | 2. 単価が安く、収益性が低い |
| 3. 地元の需要が少ない | 4. 加工・保存・物流の体制が整っていない |
| 5. その他 () | |

問32 ご回答者の世帯が地産地消を進めるために、どのような支援があればよいと思いますか。

最も優先度の高いものについてお答えください。(1つに○)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 地元での販売イベントやマルシェの開催 | 2. 学校給食や公共施設への優先的な納入制度 |
| 3. 地元産表示やブランド化の支援 | 4. 加工・流通施設の整備 |
| 5. 地元消費者への広報・啓発活動 | 6. その他 () |

E 今後の農業振興について

それぞれあてはまる番号に○印をつけてください。

問33 ご回答者は安曇野市の農業の最も大きな強みは何だと感じていますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 品質の高い農産物が生産できる | 2. 地域ブランドや認知度がある |
| 3. 地元の流通・販売体制が整っている | 4. 生産者同士の連携がある |
| 5. 行政やJAなどの支援が手厚い | 6. その他 () |

問34 産地として認知度が高まることで、ご回答者が最も期待することは何ですか。(1つに○)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 販売促進と価格維持 | 2. 地域経済の活性化 |
| 3. 観光客の増加 | 4. 地域ブランドの向上 |
| 5. その他 () | |

問35 産地としての競争力を高めるためにご回答者が必要だと思うことは何ですか。

最も優先度の高いものについてお答えください。(1つに○)

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 品質や規格の統一 | 2. ブランド化・PRの強化 |
| 3. 若手・新規就農者の確保 | 4. 共同出荷・共同加工体制の整備 |
| 5. その他 () | |

問36 今後、ご自身の農業経営において「生産力・品質・販売力の向上」に取り組む意欲はありますか。

(1つに○)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 積極的に取り組みたい | 2. 条件が整えば取り組みたい |
| 3. あまり取り組むつもりはない | 4. わからない |

問37 安曇野市の農業を振興するためにご回答者が重要だと感じることを教えてください。

(3つまで選択可)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 農地の流動化 | 2. 集落営農など農家の組織化 |
| 3. 農作業の委託先の確保 | 4. 地域で集まる場や話し合いの場 |
| 5. スマート農業等による省力化 | 6. 法人化や大規模化による低コスト化 |
| 7. 環境に優しい農業の推進 | 8. 安曇野ブランドの強化・統一 |
| 9. 特産農産物の開発・導入 | 10. 体験型農場での研修制度 |
| 11. 6次産業化の推進 | 12. 新たな市場の開拓 |
| 13. 農業と観光業の連携強化 | 14. 生産者と異業種の交流やマッチング |
| 15. 農家と非農家間の協力関係 | 16. 有害鳥獣対策 |
| 17. 新規就農者の育成 | 18. 法人参入の積極的支援 |
| 19. 特定外来生物の駆除 | 20. どれも該当しない |
| 21. その他 () | |

問38 安曇野市の新たな農業者の担い手確保や育成を図るために、ご回答者が必要だと感じることを教えてください。(3つまで選択可)

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 農業後継者やUターン者への支援 | 2. 新規就農者の積極的な募集 |
| 3. 農業者への融資制度の充実 | 4. スマート農業など新たな技術の支援 |
| 5. 企業的な経営手法の指導や法人化の推進 | 6. 農業初心者向けの講習会の実施 |
| 7. 農業サークル・コミュニティの支援・育成 | 8. どれも該当しない |
| 9. その他 () | |

問39 ご回答者が安曇野市の農村社会(地域)がもつ魅力として感じているものを教えてください。

(3つまで選択可)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 新鮮かつ豊富な農産物 | 2. ゆとりのある居住空間 |
| 3. 住民同士の交流 | 4. 多様な農産物直売所 |
| 5. 農のある暮らし | 6. 山や森林との距離の近さ |
| 7. 自然を利用したアクティビティ | 8. きれいな空気や水 |
| 9. 多くの伝統や文化 | 10. 四季折々の気候や景色 |
| 11. どれも該当しない | 12. その他 () |

問40 安曇野市の農村らしさを生かしたまちづくりを進めるために、ご回答者が必要だと思うことを教えてください。(3つまで選択可)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 農村風景や景観の維持 | 2. 住民同士の協力体制の強化 |
| 3. 農地や道路の整備 | 4. 移住の促進 |
| 5. 農家と非農家の交流促進 | 6. 都市住民との関係強化 |
| 7. 栽培方法を学ぶ場 | 8. 食農教育の推進 |
| 9. 家庭菜園の普及 | 10. 市民農園の拡充 |
| 11. 伝統食の講習会 | 12. 地域への愛着の醸成 |
| 13. 特にない | 14. その他 () |

問41 安曇野市の農業に対する政策に関して、要望をお聞かせください。(自由記述)

以上でアンケートは終了です。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

12月31日(水)までに返信用封筒に入れてポストに投函してください(切手は不要です)。

安曇野市 農業・農村振興に関する アンケート調査【認定農業者対象】

【はじめにお読みください】

- 「現時点(R7.11.1)で認定農業者の方」がご記入ください。
- 選択式の設問は、あてはまる番号に○印をつけてください。
- 「その他」に該当する場合は、()の中に具体的内容をお書きください。
- 別途指示が記載されている場合は、指示にしたがってご記入ください。
- 質問の中には回答できないとお考えになるものもありますが、未回答の設問がある場合でも、皆さまの農業の現状とご意向をお聞かせいただくために、ご提出いただきますよう、お願いいたします。

A ご自身について

はじめに、ご回答者自身のことについておたずねします。
それぞれあてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

問1 ご回答者の性別を教えてください。

- | | | | |
|-------|-------|--------|----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 | 4. 回答しない |
|-------|-------|--------|----------|

問2 令和7年(2025年)11月1日現在のご回答者の年齢を教えてください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 30歳未満 | 2. 30～39歳 | 3. 40～49歳 | 4. 50～59歳 |
| 5. 60～69歳 | 6. 70～79歳 | 7. 80歳以上 | |

問3 ご回答者がお住まいの地域を教えてください。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1. 豊科 | 2. 穂高 | 3. 三郷 | 4. 堀金 | 5. 明科 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

問4 ご回答者の昨年度の農業従事日数を教えてください。

- | | | | |
|-----------|----------|------------|-------------|
| 1. していない | 2. 59日以内 | 3. 60～149日 | 4. 150～199日 |
| 5. 200日以上 | | | |

問5 農業経営や農作業に日常的に関わっている方(ご本人・ご家族・従業員など)の人数を教えてください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 5人未満 | 2. 5～9人 | 3. 10～19人 | 4. 20～49人 |
| 5. 50～99人 | 6. 100人以上 | | |

B 10年前から現在の農業経営の変化について

ご回答者における10年前と現在の農業経営について、もっとも該当する番号をそれぞれの口に記入してください。

※1 10年前に農業をされていなかった方は、現在のみ回答してください。

※2 現在の農業経営については、令和7年度の実績または見込みによって記入してください。

問6 ご回答者はどれに該当しますか。

- | |
|------------------------------------------|
| 1. 専業農家 |
| 2. 第1種兼業農家（農業所得が他の収入より上） |
| 3. 第2種兼業農家（農業所得が他の収入より下） |
| 4. 自給的農家（経営耕地面積30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家） |

10年前	現在
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問7 ご回答者の世帯の農業経営面積を教えてください。

※1ha=10,000㎡≒10反歩≒1町歩

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 0.3ha未満 | 2. 0.3ha～0.5ha未満 |
| 3. 0.5ha～1.0ha未満 | 4. 1.0ha～2.0ha未満 |
| 5. 2.0ha～5.0ha未満 | 6. 5.0ha以上 |
| 7. わからない | |

10年前	現在
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問8 ご回答者の中心的な生産作物を教えてください。

- | | | |
|---------------------|----------|----------|
| 1. 生産していない | 2. 米・穀物 | 3. 野菜 |
| 4. 果樹 | 5. 酪農・畜産 | 6. 花き・花木 |
| 7. 特用林産物（キノコ・ワサビなど） | | |

10年前	現在
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問9 ご回答者の出荷先を教えてください。（出荷額が多い順に上から記入）

- | | | |
|-------------|----------------------|------------|
| 1. 出荷していない | 2. 農協 | 3. 市場・仲卸業者 |
| 4. 消費者へ直接販売 | 5. 農産物直売所 | |
| 6. 食品製造業者 | 7. 小売業者（スーパーマーケットなど） | |
| 8. 飲食業者 | 9. 宿泊業者 | |
| 10. その他（ | | ） |

10年前	現在
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問10 ご回答者の農産物・農産加工品の販売金額を教えてください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 販売していない | 2. 100万円未満 |
| 3. 100万～200万円未満 | 4. 200万～300万円未満 |
| 5. 300万～500万円未満 | 6. 500万～1千万円未満 |
| 7. 1千万～2千万円未満 | 8. 2千万～5千万円未満 |
| 9. 5千万～1億円未満 | 10. 1億円以上 |
| 11. わからない | |

10年前	現在
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問11 ご回答者の農業所得を教えてください。

※「農業所得」とは1年間の農産物に関する収入金額から必要経費を差し引いたものとなります。

1. 赤字	2. 0～100万円未満
3. 100万～200万円未満	4. 200万～300万円未満
5. 300万～500万円未満	6. 500万～1千万円未満
7. 1千万～2千万円未満	8. 2千万～5千万円未満
9. 5千万～1億円未満	10. 1億円以上
11. わからない	

10年前 現在

C 現在の農業経営について

それぞれあてはまる番号に○印をつけてください。

問12 ご回答者の農業経営の状況を教えてください。(項目ごと1つに○)

12-1) 農作業の委託 (1つに○)	1. 全て自分(家族)が作業する 2. 作業の一部を委託している 3. 作業の全てを委託している(農作業はしていない)
12-2) 農地の貸与 (1つに○)	1. 所有する農地を一部貸している 2. 所有する農地を全て貸している 3. 農地は貸していない
12-3) 農地の借用 (1つに○)	1. 一部を借りている 2. 農地の全てを借りている 3. 農地は借りていない

問13 ご回答者が所有している農地で農作物を全く作付けしていない農地はありますか。

(1つに○、「はい」の場合は面積をご記入ください)

1. いいえ → 問15へ
2. はい 面積:(田 ha、畑 ha)

問14 問13で「はい」と回答された方のみご回答ください

農作物の作付けをしていない農地を今後どのように利用したいか教えてください。(1つに○)

1. このまま作付しない	2. 作付けを再開する	3. 農地を貸与したい
4. 農地を転用したい	5. 農地を売却したい	

問15 ご回答者が農作業の中で、サポートが必要だと感じる作業を教えてください。

(項目ごとに3つまで選択可)

15-1) 農作業 (3つまで選択可)	1. 畦畔管理 (草刈り) 3. 農薬噴霧・防除作業 5. 収穫作業 7. 水管理 9. 配送作業 11. 特にない	2. 機械作業 (防除除く) 4. 選果・出荷作業 6. 生育管理 8. 受粉・摘花・摘果 10. 集荷作業 12. その他 ()
15-2) 経營業務 (3つまで選択可)	1. 営農計画 3. 労務管理 5. 情報収集 7. 営業・販路開拓 9. ネットショップの運営 11. その他 ()	2. 事務・経理 4. 広報・宣伝 6. 情報発信 8. 消費者への対応 10. 特にない

問16 ご回答者が農業経営を続けていくうえでの課題や困っていることを教えてください。

(項目ごとに3つまで選択可)

16-1) 経営に関すること (3つまで選択可)	1. 収益性が見込めない 3. 労働力の確保 5. 作業効率が悪い 7. 特にない	2. 農地の規模拡大や集積 4. 資金調達 6. 農産物の高付加価値化 8. その他 ()
16-2) 生活に関すること (3つまで選択可)	1. 家事、介護・育児との両立 3. 体力的な疲労 5. 休暇・休息が取りにくい 7. 特にない	2. 農外の仕事との両立 4. 経済的な負担 6. 時間的な余裕がない 8. その他 ()
16-3) 周辺環境に関する こと (3つまで選択可)	1. 農地の基盤整備が不十分 3. 鳥獣被害 5. 周辺農家の高齢化 7. 住民からの農作業への苦情 9. 自然災害 11. その他 ()	2. 道路や用水路の老朽化 4. 耕作放棄地の増加 6. 周辺農地の宅地化 8. 温暖化や豪雨など気候変動 10. 特にない
16-4) 社会情勢に関する こと (3つまで選択可)	1. 米などの生産調整 3. 海外農産物との価格競争 5. 新型コロナウイルス感染症の影響 7. その他 ()	2. 消費者の食生活の変化 4. 農業資材や燃料の高騰 6. 特にない

問17 ご回答者は、農業に携わっていることに対して、総合的にどのように感じていますか。

(1つに○)

- | |
|-----------------------|
| 1. よかったと感じている |
| 2. どちらかといえばよかったと感じている |
| 3. どちらかといえば不満を感じている |
| 4. 不満を感じている |

問18 ご回答者として、現在の農業経営環境について総合的にどのように感じていますか。

(1つに○)

- | |
|---------------------|
| 1. 満足している |
| 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらかといえば不満を感じている |
| 4. 不満を感じている |

D 今後の農業経営について

それぞれあてはまる番号に○印をつけてください。

問19 現時点でご回答者が耕作されている農地は、10年後にはどなたが耕作する予定ですか。

(1つに○)

- | | | |
|--------------|--------------------------------|--------------|
| 1. 回答者本人 | 2. 後継者（家族） | 3. 集落営農組合・法人 |
| 4. 家族以外の個別農家 | 5. その他（ ） | |

問20 ご回答者は10年後の農業経営についてどのようにお考えですか。(項目ごと1つに○)

20-1) 経営規模 (1つに○)	1. 現状を維持したい 2. 拡大したい 3. 縮小したい 4. 農業をやめたい →問 21 へ※20-2)・20-3) は回答不要です	「1~3」を選ばれた方は 20-2)・20-3) へ
20-2) 経営方法 (1つに○)	1. 現状面積を維持したい 2. 農地の受け手となり、面積を拡大したい 3. 面積を縮小したい 4. 面積の拡大・縮小以外の方法を考えたい	
20-3) 農業所得 (1つに○)	1. 現状を維持したい 3. 減っても構わない	2. 増やしたい

問21 ご回答者が農業経営に対し、将来的に導入を検討していることを教えてください。

(全体で3つまで選択可)

経営面	1. 営農組合や集落営農への加入	2. 作業の共同化	
	3. 機械や施設等の共有化	4. 雇用の拡大	5. 法人化
生産面	6. 機械化・省力化	7. 作業の効率化	
	8. 作付け部門や作目の変更	9. 低農薬栽培	
	10. 有機農業（オーガニック）		
多角化	11. 観光農園	12. 農産加工	13. 農産物等直売所
	14. カフェ・レストラン	15. 民宿・ゲストハウス	
	16. 市民農園・貸し農園		
販売方法	17. 取引先の見直し	18. インターネット販売	
	19. 個別宅配サービス		
その他	20. 特になし	21. その他（	）

問22 ご回答者はスマート農業を取り入れていますか。(1つに○)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 導入している | 2. 導入予定がある・導入を検討している |
| 3. 興味はあるが未導入 | 4. 導入予定なし → 問26へ |
| 5. わからない → 問26へ | |

問23 問22で「1 導入している」「2 導入予定がある・導入を検討している」「3 興味はあるが未導入」と回答された方のみご回答ください

ご回答者がスマート農業に期待する効果は何ですか。(3つまで選択可)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 農作業の省力化・負担軽減 | 2. 収益性の向上による経営安定化 |
| 3. 生産性の向上 | 4. 収穫量の向上 |
| 5. 農産物の品質向上 | 6. 農業技術の汎用化 |
| 7. 農業用資材、農薬・肥料等の使用量抑制 | 8. その他（ |
| | ） |

問24 問22で「2 導入予定がある・導入を検討している」「3 興味はあるが未導入」と回答された方のみご回答ください

ご回答者がスマート農業を導入するにあたっての課題は何ですか。(3つまで選択可)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 導入コストが高価 | 2. 自身の事業が先行き不透明 |
| 3. 経営規模が小規模で実態に合わない | 4. 導入効果が不明 |
| 5. 操作方法が難しい | 6. 導入すべき機械が不明 |
| 7. 購入先が不明 | 8. すぐに必要な機器がない |
| 9. 機械間の互換性が乏しい | 10. 情報通信基盤が不十分 |
| 11. 先進技術を扱う人材確保が困難 | 12. 導入するための相談窓口がない |
| 13. その他（ | ） |

問25 問22で「1 導入している」と回答された方のみご回答ください。

ご回答者がスマート農業を導入した後の課題は何ですか。(3つまで選択可)

1. 導入コスト・ランニングコストが高価である割に、費用対効果が低い
2. 導入効果が当初の想定より低い、または導入効果が不明
3. 操作方法が難しい
4. 既存の機械との互換性が乏しい
5. 農作業地域での情報通信基盤が不十分
6. 先進技術を扱う人材確保が困難
7. 機器の故障時対応に時間がかかる
8. 現状課題に感じていることはない
9. その他 ()

問26 ご回答者は有機農業など環境にやさしい農業に取り組んでいますか。(1つに○)

1. すでに取り組んでいる
 2. 取り組みを検討している
 3. 将来的に取り組みたい、取り組む予定
 4. 取り組んでみたいが、予定はない
 5. 関心がなく、取り組む予定はない
- 「2～5」を選ばれた方は問28へ

問27 問26で「1 すでに取り組んでいる」と回答された方のみご回答ください。

ご回答者が有機農業など環境にやさしい農業に取り組む中で感じている課題はなんですか。
(3つまで選択可)

1. 病害虫の防除が難しく、収量や品質が安定しない
2. 除草作業などの労力が増える
3. 収益性が低く、経営が不安定になる
4. 周囲の農地との防除方針が異なり、連携が難しい
5. 消費者や流通業者に理解されにくい
6. 技術指導できる者がいない又は知らない
7. 現状課題に感じていることはない
8. その他 ()

問28 ご回答者が有機農業など環境にやさしい農業に取り組むために必要だと思うものはなんですか。

(3つまで選択可)

1. 国・県・市からの補助
2. 技術指導する者の育成、または誘致
3. 周囲の理解
4. 仲間づくりと情報交換
5. 新しい技術に関する情報や研修の機会
6. 有機肥料等調達先の情報
7. その他 ()

問29 ご回答者は現在、地元向けに出荷・販売している農産物がありますか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------------|
| 1. ある | 2. ない → 問31へ |
|-------|--------------|

問30 問29で「1 ある」と回答された方のみご回答ください。

ご回答者が地産地消に取り組む最も大きな理由は何ですか。(1つに○)

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 地元の消費者に安心・安全な農産物を届けたい | 2. 輸送コストを抑えられる |
| 3. 地域経済の活性化に貢献したい | 4. 地元の学校・福祉施設などと連携したい |
| 5. 販売先の確保がしやすい | 6. その他 () |

問31 ご回答者が地産地消に取り組むうえでの最も大きな課題は何ですか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 地元での販売ルートが限られている | 2. 単価が安く、収益性が低い |
| 3. 地元の需要が少ない | 4. 加工・保存・物流の体制が整っていない |
| 5. その他 () | |

問32 ご回答者が地産地消を進めるために、どのような支援があればよいと思いますか。

最も優先度の高いものについてお答えください。(1つに○)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 地元での販売イベントやマルシェの開催 | 2. 学校給食や公共施設への優先的な納入制度 |
| 3. 地元産表示やブランド化の支援 | 4. 加工・流通施設の整備 |
| 5. 地元消費者への広報・啓発活動 | 6. その他 () |

E 今後の農業振興について

それぞれあてはまる番号に○印をつけてください。

問33 ご回答者は安曇野市の農業の最も大きな強みは何だと感じていますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 品質の高い農産物が生産できる | 2. 地域ブランドや認知度がある |
| 3. 地元の流通・販売体制が整っている | 4. 生産者同士の連携がある |
| 5. 行政やJAなどの支援が手厚い | 6. その他 () |

問34 産地として認知度が高まることで、ご回答者が最も期待することは何ですか。(1つに○)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 販売促進と価格維持 | 2. 地域経済の活性化 |
| 3. 観光客の増加 | 4. 地域ブランドの向上 |
| 5. その他 () | |

問35 産地としての競争力を高めるためにご回答者が必要だと思うことは何ですか。

最も優先度の高いものについてお答えください。(1つに○)

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 品質や規格の統一 | 2. ブランド化・PRの強化 |
| 3. 若手・新規就農者の確保 | 4. 共同出荷・共同加工体制の整備 |
| 5. その他 () | |

問36 今後、ご自身の農業経営において「生産力・品質・販売力の向上」に取り組む意欲はありますか。
(1つに○)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 積極的に取り組みたい | 2. 条件が整えば取り組みたい |
| 3. あまり取り組むつもりはない | 4. わからない |

問37 安曇野市の農業を振興するためにご回答者が重要だと感じることを教えてください。
(3つまで選択可)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 農地の流動化 | 2. 集落営農など農家の組織化 |
| 3. 農作業の委託先の確保 | 4. 地域で集まる場や話し合いの場 |
| 5. スマート農業等による省力化 | 6. 法人化や大規模化による低コスト化 |
| 7. 環境に優しい農業の推進 | 8. 安曇野ブランドの強化・統一 |
| 9. 特産農産物の開発・導入 | 10. 体験型農場での研修制度 |
| 11. 6次産業化の推進 | 12. 新たな市場の開拓 |
| 13. 農業と観光業の連携強化 | 14. 生産者と異業種の交流やマッチング |
| 15. 農家と非農家間の協力関係 | 16. 有害鳥獣対策 |
| 17. 新規就農者の育成 | 18. 法人参入の積極的支援 |
| 19. 特定外来生物の駆除 | 20. どれも該当しない |
| 21. その他 () | |

問38 安曇野市の新たな農業者の担い手確保や育成を図るために、ご回答者が必要だと感じることを教えてください。(3つまで選択可)

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 農業後継者やUターン者への支援 | 2. 新規就農者の積極的な募集 |
| 3. 農業者への融資制度の充実 | 4. スマート農業など新たな技術の支援 |
| 5. 企業的な経営手法の指導や法人化の推進 | 6. 農業初心者向けの講習会の実施 |
| 7. 農業サークル・コミュニティの支援・育成 | 8. どれも該当しない |
| 9. その他 () | |

問39 ご回答者が安曇野市の農村社会(地域)がもつ魅力として感じているものを教えてください。
(3つまで選択可)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 新鮮かつ豊富な農産物 | 2. ゆとりのある居住空間 |
| 3. 住民同士の交流 | 4. 多様な農産物直売所 |
| 5. 農のある暮らし | 6. 山や森林との距離の近さ |
| 7. 自然を利用したアクティビティ | 8. きれいな空気や水 |
| 9. 多くの伝統や文化 | 10. 四季折々の気候や景色 |
| 11. どれも該当しない | 12. その他 () |

問40 安曇野市の農村らしさを生かしたまちづくりを進めるために、ご回答者が必要だと思うことを教えてください。(3つまで選択可)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 農村風景や景観の維持 | 2. 住民同士の協力体制の強化 |
| 3. 農地や道路の整備 | 4. 移住の促進 |
| 5. 農家と非農家の交流促進 | 6. 都市住民との関係強化 |
| 7. 栽培方法を学ぶ場 | 8. 食農教育の推進 |
| 9. 家庭菜園の普及 | 10. 市民農園の拡充 |
| 11. 伝統食の講習会 | 12. 地域への愛着の醸成 |
| 13. 特にない | 14. その他 () |

問41 安曇野市の農業に対する政策に関して、要望をお聞かせください。(自由記述)

以上でアンケートは終了です。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

12月31日(水)までに返信用封筒に入れてポストに投函してください(切手は不要です)。

安曇野市 農業・農村振興に関する アンケート調査【法人対象】

【はじめにお読みください】

- 「法人代表者の方」をご記入ください。
- 選択式の設問は、あてはまる番号に○印をつけてください。
- 「その他」に該当する場合は、()の中に具体的内容をお書きください。
- 別途指示が記載されている場合は、指示にしたがってご記入ください。
- 質問の中には回答できないとお考えになるものもあるかと思いますが、未回答の設問がある場合でも、皆さまの農業の現状とご意向をお聞かせいただくために、ご提出いただきますよう、お願いいたします。

A 経営体やご回答者自身について

はじめに、経営体の基本的な情報やご回答者自身のことについておたずねします。
それぞれあてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

問1 経営体の法人形態を教えてください。

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1. 農事組合法人 | 2. 株式会社 | 3. 有限会社 |
| 4. 合名会社 | 5. 合同会社 | 6. 合資会社 |
| 7. NPO 法人 | 8. 一般社団法人 | 9. その他 () |

問2 ご回答者の性別を教えてください。

- | | | | |
|-------|-------|--------|----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 | 4. 回答しない |
|-------|-------|--------|----------|

問3 令和7年(2025年)11月1日現在の代表者であるご回答者の年齢を教えてください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 30歳未満 | 2. 30～39歳 | 3. 40～49歳 | 4. 50～59歳 |
| 5. 60～69歳 | 6. 70～79歳 | 7. 80歳以上 | |

問4 経営体の主たる所在地を教えてください。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1. 豊科 | 2. 穂高 | 3. 三郷 | 4. 堀金 | 5. 明科 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

問5 経営体で農作業に関わっている従業員の人数を教えてください(パートや非正規雇用も含む)。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 5人未満 | 2. 5～9人 | 3. 10～19人 | 4. 20～49人 |
| 5. 50～99人 | 6. 100人以上 | | |

問6 経営体は今年(令和7年)で設立何年目ですか。

- | | | | |
|-----------|----------|-----------|-----------|
| 1. 5年未満 | 2. 5～9年 | 3. 10～19年 | 4. 20～29年 |
| 5. 30～39年 | 6. 40年以上 | | |

B 10年前から現在の農業経営の変化について

ご回答者の経営体における10年前と現在の農業経営について、もっとも該当する番号をそれぞれの□に記入してください。

※1 10年前に農業をされていなかった経営体は、現在のみ回答してください。

※2 現在の農業経営については、令和7年度の実績または見込みによって記入してください。

問7 経営体の農業経営面積を教えてください。

※1ha=10,000㎡≒10反歩≒1町歩

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 0.3ha未満 | 2. 0.3ha～0.5ha未満 |
| 3. 0.5ha～1.0ha未満 | 4. 1.0ha～2.0ha未満 |
| 5. 2.0ha～5.0ha未満 | 6. 5.0ha以上 |
| 7. わからない | |

10年前 現在

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

問8 経営体の主な生産作物を教えてください。

- | | | |
|---------------------|----------|----------|
| 1. 生産していない | 2. 米・穀物 | 3. 野菜 |
| 4. 果樹 | 5. 酪農・畜産 | 6. 花き・花木 |
| 7. 特用林産物(キノコ・ワサビなど) | | |

10年前 現在

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

問9 経営体の出荷先を教えてください。(出荷額が多い順に上から記入)

- | | | |
|-------------|----------------------|------------|
| 1. 出荷していない | 2. 農協 | 3. 市場・仲卸業者 |
| 4. 消費者へ直接販売 | 5. 農産物直売所 | |
| 6. 食品製造業者 | 7. 小売業者(スーパーマーケットなど) | |
| 8. 飲食業者 | 9. 宿泊業者 | |
| 10. その他() | | |

10年前 現在

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問10 経営体の年間収益を教えてください。

※収益とは、農産物・農産加工品等の売上金額や受託作業等で得た金額の合計となります。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 500万円未満 | 2. 500万～1千万円未満 |
| 3. 1千万～2千万円未満 | 4. 2千万～5千万円未満 |
| 5. 5千万～1億円未満 | 6. 1億～2億円未満 |
| 7. 2億～5億円未満 | 8. 5億～10億円未満 |
| 9. 10億円以上 | |

10年前 現在

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

問11 経営体の年間純利益を教えてください。

※純利益とは年間収益から必要経費を差し引いたものとなります。

1. 赤字	2. 0万～100万円未満
3. 100万～200万円未満	4. 200万～500万円未満
5. 500万～1千万円未満	6. 1千万～2千万円未満
7. 2千万～5千万円未満	8. 5千万～1億円未満
9. 1億～2億円未満	10. 2億～5億円未満
11. 5億円以上	

10年前 現在

C 現在の農業経営について

それぞれあてはまる番号に○印をつけてください。

問12 経営体の農業経営の状況を教えてください。(項目ごと1つに○)

12-1) 農作業の委託 (1つに○)	1. 全て経営体が作業する 2. 作業の一部を委託している 3. 作業の全てを委託している (農作業はしていない)
12-2) 農地の貸与 (1つに○)	1. 所有する農地を一部貸している 2. 所有する農地を全て貸している 3. 農地は貸していない
12-3) 農地の借用 (1つに○)	1. 一部を借りている 2. 農地の全てを借りている 3. 農地は借りていない

問13 経営体が所有している農地で農作物を全く作付けしていない農地はありますか。

(1つに○、「はい」の場合は面積をご記入ください)

1. いいえ → 問15へ
2. はい 面積：(田 ha、畑 ha)

問14 問13で「はい」と回答された方のみご回答ください

農作物の作付けをしていない農地を今後どのように利用したいか教えてください。(1つに○)

1. このまま作付しない	2. 作付けを再開する	3. 農地を貸与したい
4. 農地を転用したい	5. 農地を売却したい	

問15 農作業の中で、サポートが必要だと感じる作業を教えてください。

(項目ごとに3つまで選択可)

15-1) 農作業 (3つまで選択可)	1. 畦畔管理 (草刈り) 3. 農薬噴霧・防除作業 5. 収穫作業 7. 水管理 9. 配送作業 11. 特にない	2. 機械作業 (防除除く) 4. 選果・出荷作業 6. 生育管理 8. 受粉・摘花・摘果 10. 集荷作業 12. その他 ()
15-2) 経營業務 (3つまで選択可)	1. 営農計画 3. 労務管理 5. 情報収集 7. 営業・販路開拓 9. ネットショップの運営 11. その他 ()	2. 事務・経理 4. 広報・宣伝 6. 情報発信 8. 消費者への対応 10. 特にない

問16 ご回答者が農業経営を続けていくうえでの課題や困っていることを教えてください。

(項目ごとに3つまで選択可)

16-1) 経営に関すること (3つまで選択可)	1. 収益性が見込めない 3. 労働力の確保 5. 作業効率が悪い 7. 特にない	2. 農地の規模拡大や集積 4. 資金調達 6. 農産物の高付加価値化 8. その他 ()
16-2) 生活に関すること (3つまで選択可)	1. 家事、介護・育児との両立 3. 体力的な疲労 5. 休暇・休息が取りにくい 7. 特にない	2. 農外の仕事との両立 4. 経済的な負担 6. 時間的な余裕がない 8. その他 ()
16-3) 周辺環境に関する こと (3つまで選択可)	1. 農地の基盤整備が不十分 3. 鳥獣被害 5. 周辺農家の高齢化 7. 住民からの農作業への苦情 9. 自然災害 11. その他 ()	2. 道路や用水路の老朽化 4. 耕作放棄地の増加 6. 周辺農地の宅地化 8. 温暖化や豪雨など気候変動 10. 特にない
16-4) 社会情勢に関する こと (3つまで選択可)	1. 米などの生産調整 3. 海外農産物との価格競争 5. 新型コロナウイルス感染症の影響 7. その他 ()	2. 消費者の食生活の変化 4. 農業資材や燃料の高騰 6. 特にない

問17 ご回答者は、経営体が農業に携わっていることに対して、総合的にどのように感じていますか。

(1つに○)

- | |
|------------------------------------------------------------------------------|
| 1. よかったと感じている
2. どちらかといえばよかったと感じている
3. どちらかといえば不満を感じている
4. 不満を感じている |
|------------------------------------------------------------------------------|

問18 経営体代表者として、現在の農業経営環境について総合的にどのように感じていますか。

(1つに○)

- | |
|----------------------------------------------------------------------|
| 1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満を感じている
4. 不満を感じている |
|----------------------------------------------------------------------|

D 今後の農業経営について

それぞれあてはまる番号に○印をつけてください。

問19 現時点で経営体が耕作されている農地は、10年後にはどなたが耕作する予定ですか。

(1つに○)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 今の経営体（現状のまま） | 2. ほかの集落営農組合・法人 |
| 3. ほかの個別農家 | 4. その他（ ） |

問20 ご回答者は10年後の農業経営についてどのようにお考えですか。(項目ごと1つに○)

20-1) 経営規模 (1つに○)	1. 現状を維持したい 2. 拡大したい 3. 縮小したい 4. 農業をやめたい	「1~3」を選ばれた方は 20-2)・20-3) →問 21 へ※20-2)・20-3) は回答不要です
20-2) 経営方法 (1つに○)	1. 現状面積を維持したい 2. 農地の受け手となり、面積を拡大したい 3. 面積を縮小したい 4. 面積の拡大・縮小以外の方法を考えたい	
20-3) 純利益 (1つに○)	1. 現状を維持したい 2. 増やしたい 3. 減っても構わない	

問21 ご回答者の経営体が農業経営に対し、将来的に導入を検討していることを教えてください。
(全体で3つまで選択可)

経営面	1. 営農組合や集落営農への加入	2. 作業の共同化
	3. 機械や施設等の共有化	4. 雇用の拡大
生産面	5. 機械化・省力化	6. 作業の効率化
	7. 作付け部門や作目の変更	8. 低農薬栽培
	9. 有機農業（オーガニック）	
多角化	10. 観光農園	11. 農産加工
	13. カフェ・レストラン	14. 民宿・ゲストハウス
	15. 市民農園・貸し農園	12. 農産物等直売所
販売方法	16. 取引先の見直し	17. インターネット販売
	18. 個別宅配サービス	
その他	19. 特になし	20. その他（ ）

問22 ご回答者の経営体ではスマート農業を取り入れていますか。(1つに○)

1. 導入している	2. 導入予定がある・導入を検討している
3. 興味はあるが未導入	4. 導入予定なし → 問26へ
5. わからない → 問26へ	

問23 問22で「1 導入している」「2 導入予定がある・導入を検討している」「3 興味はあるが未導入」と回答された方のみご回答ください

ご回答者の経営体がスマート農業に期待する効果は何ですか。(3つまで選択可)

1. 農作業の省力化・負担軽減	2. 収益性の向上による経営安定化
3. 生産性の向上	4. 収穫量の向上
5. 農産物の品質向上	6. 農業技術の汎用化
7. 農業用資材、農薬・肥料等の使用量抑制	8. その他（ ）

問24 問22で「2 導入予定がある・導入を検討している」「3 興味はあるが未導入」と回答された方のみご回答ください

ご回答者の経営体がスマート農業を導入するにあたっての課題は何ですか。(3つまで選択可)

1. 導入コストが高価	2. 自身の事業が先行き不透明
3. 経営規模が小規模で実態に合わない	4. 導入効果が不明
5. 操作方法が難しい	6. 導入すべき機械が不明
7. 購入先が不明	8. すぐに必要な機器がない
9. 機械間の互換性が乏しい	10. 情報通信基盤が不十分
11. 先進技術を扱う人材確保が困難	12. 導入するための相談窓口がない
13. その他（ ）	

問25 問 22で「1 導入している」と回答された方のみご回答ください。

ご回答者の経営体がスマート農業を導入した後の課題は何ですか。(3つまで選択可)

1. 導入コスト・ランニングコストが高価である割に、費用対効果が低い
2. 導入効果が当初の想定より低い、または導入効果が不明
3. 操作方法が難しい
4. 既存の機械との互換性が乏しい
5. 農作業地域での情報通信基盤が不十分
6. 先進技術を扱う人材確保が困難
7. 機器の故障時対応に時間がかかる
8. 現状課題に感じていることはない
9. その他 ()

問26 ご回答者の経営体は有機農業など環境にやさしい農業に取り組んでいますか。(1つに○)

- | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--------------------|
| <ol style="list-style-type: none">1. すでに取り組んでいる2. 取り組みを検討している3. 将来的に取り組みたい、取り組む予定4. 取り組んでみたいが、予定はない5. 関心がなく、取り組む予定はない | } | 「2～5」を選ばれた方は問 28 へ |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--------------------|

問27 問 26で「1 すでに取り組んでいる」と回答された方のみご回答ください。

ご回答者の経営体が有機農業など環境にやさしい農業に取り組む中で感じている課題はなんですか。(3つまで選択可)

1. 病害虫の防除が難しく、収量や品質が安定しない
2. 除草作業などの労力が増える
3. 収益性が低く、経営が不安定になる
4. 周囲の農地との防除方針が異なり、連携が難しい
5. 消費者や流通業者に理解されにくい
6. 技術指導できる者がいない又は知らない
7. 現状課題に感じていることはない
8. その他 ()

問28 ご回答者の経営体が有機農業など環境にやさしい農業に取り組むために必要だと思うものはなんですか。(3つまで選択可)

- | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none">1. 国・県・市からの補助3. 周囲の理解5. 新しい技術に関する情報や研修の機会7. その他 () | <ol style="list-style-type: none">2. 技術指導する者の育成、または誘致4. 仲間づくりと情報交換6. 有機肥料等調達先の情報 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

問29 ご回答者の経営体では現在、地元向けに出荷・販売している農産物がありますか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------------|
| 1. ある | 2. ない → 問31へ |
|-------|--------------|

問30 問29で「1 ある」と回答された方のみご回答ください。

ご回答者の経営体が地産地消に取り組む最も大きな理由は何ですか。(1つに○)

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 地元の消費者に安心・安全な農産物を届けたい | 2. 輸送コストを抑えられる |
| 3. 地域経済の活性化に貢献したい | 4. 地元の学校・福祉施設などと連携したい |
| 5. 販売先の確保がしやすい | 6. その他 () |

問31 ご回答者の経営体が地産地消に取り組むうえでの最も大きな課題は何ですか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 地元での販売ルートが限られている | 2. 単価が安く、収益性が低い |
| 3. 地元の需要が少ない | 4. 加工・保存・物流の体制が整っていない |
| 5. その他 () | |

問32 ご回答者の経営体が地産地消を進めるために、どのような支援があればよいと思いますか。

最も優先度の高いものについてお答えください。(1つに○)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 地元での販売イベントやマルシェの開催 | 2. 学校給食や公共施設への優先的な納入制度 |
| 3. 地元産表示やブランド化の支援 | 4. 加工・流通施設の整備 |
| 5. 地元消費者への広報・啓発活動 | 6. その他 () |

E 今後の農業振興について

それぞれあてはまる番号に○印をつけてください。

問33 ご回答者は安曇野市の農業の最も大きな強みは何だと感じていますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 品質の高い農産物が生産できる | 2. 地域ブランドや認知度がある |
| 3. 地元の流通・販売体制が整っている | 4. 生産者同士の連携がある |
| 5. 行政やJAなどの支援が手厚い | 6. その他 () |

問34 産地として認知度が高まることで、ご回答者が最も期待することは何ですか。(1つに○)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 販売促進と価格維持 | 2. 地域経済の活性化 |
| 3. 観光客の増加 | 4. 地域ブランドの向上 |
| 5. その他 () | |

問35 産地としての競争力を高めるためにご回答者が必要だと思うことは何ですか。

最も優先度の高いものについてお答えください。(1つに○)

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 品質や規格の統一 | 2. ブランド化・PRの強化 |
| 3. 若手・新規就農者の確保 | 4. 共同出荷・共同加工体制の整備 |

5. その他 ()

問36 今後、ご自身の農業経営において「生産力・品質・販売力の向上」に取り組む意欲はありますか。
(1つに○)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 積極的に取り組みたい | 2. 条件が整えば取り組みたい |
| 3. あまり取り組むつもりはない | 4. わからない |

問37 安曇野市の農業を振興するためにご回答者が重要だと感じることを教えてください。
(3つまで選択可)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 農地の流動化 | 2. 集落営農など農家の組織化 |
| 3. 農作業の委託先の確保 | 4. 地域で集まる場や話し合いの場 |
| 5. スマート農業等による省力化 | 6. 法人化や大規模化による低コスト化 |
| 7. 環境に優しい農業の推進 | 8. 安曇野ブランドの強化・統一 |
| 9. 特産農産物の開発・導入 | 10. 体験型農場での研修制度 |
| 11. 6次産業化の推進 | 12. 新たな市場の開拓 |
| 13. 農業と観光業の連携強化 | 14. 生産者と異業種の交流やマッチング |
| 15. 農家と非農家間の協力関係 | 16. 有害鳥獣対策 |
| 17. 新規就農者の育成 | 18. 法人参入の積極的支援 |
| 19. 特定外来生物の駆除 | 20. どれも該当しない |
| 21. その他 () | |

問38 安曇野市の新たな農業者の担い手確保や育成を図るために、ご回答者が必要だと感じることを教えてください。(3つまで選択可)

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 農業後継者やUターン者への支援 | 2. 新規就農者の積極的な募集 |
| 3. 農業者への融資制度の充実 | 4. スマート農業など新たな技術の支援 |
| 5. 企業的な経営手法の指導や法人化の推進 | 6. 農業初心者向けの講習会の実施 |
| 7. 農業サークル・コミュニティの支援・育成 | 8. どれも該当しない |
| 9. その他 () | |

問39 ご回答者が安曇野市の農村社会(地域)がもつ魅力として感じているものを教えてください。
(3つまで選択可)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 新鮮かつ豊富な農産物 | 2. ゆとりのある居住空間 |
| 3. 住民同士の交流 | 4. 多様な農産物直売所 |
| 5. 農のある暮らし | 6. 山や森林との距離の近さ |
| 7. 自然を利用したアクティビティ | 8. きれいな空気や水 |
| 9. 多くの伝統や文化 | 10. 四季折々の気候や景色 |
| 11. どれも該当しない | 12. その他 () |

問40 安曇野市の農村らしさを生かしたまちづくりを進めるために、ご回答者が必要だと思うことを教えてください。(3つまで選択可)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 農村風景や景観の維持 | 2. 住民同士の協力体制の強化 |
| 3. 農地や道路の整備 | 4. 移住の促進 |
| 5. 農家と非農家の交流促進 | 6. 都市住民との関係強化 |
| 7. 栽培方法を学ぶ場 | 8. 食農教育の推進 |
| 9. 家庭菜園の普及 | 10. 市民農園の拡充 |
| 11. 伝統食の講習会 | 12. 地域への愛着の醸成 |
| 13. 特にない | 14. その他 () |

問41 安曇野市の農業に対する政策に関して、要望をお聞かせください。(自由記述)

以上でアンケートは終了です。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

12月31日(水)までに返信用封筒に入れてポストに投函してください(切手は不要です)。